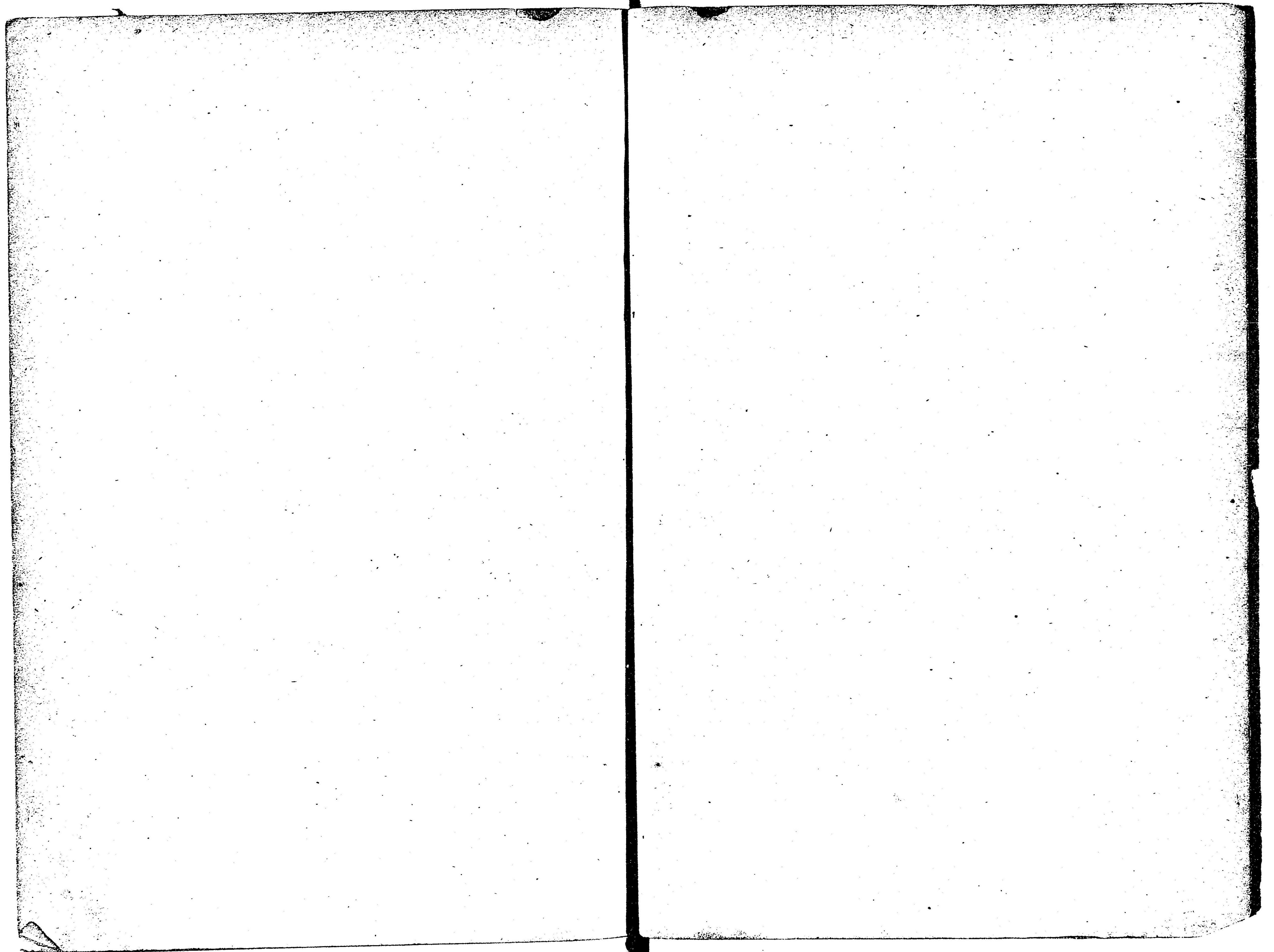


357
21

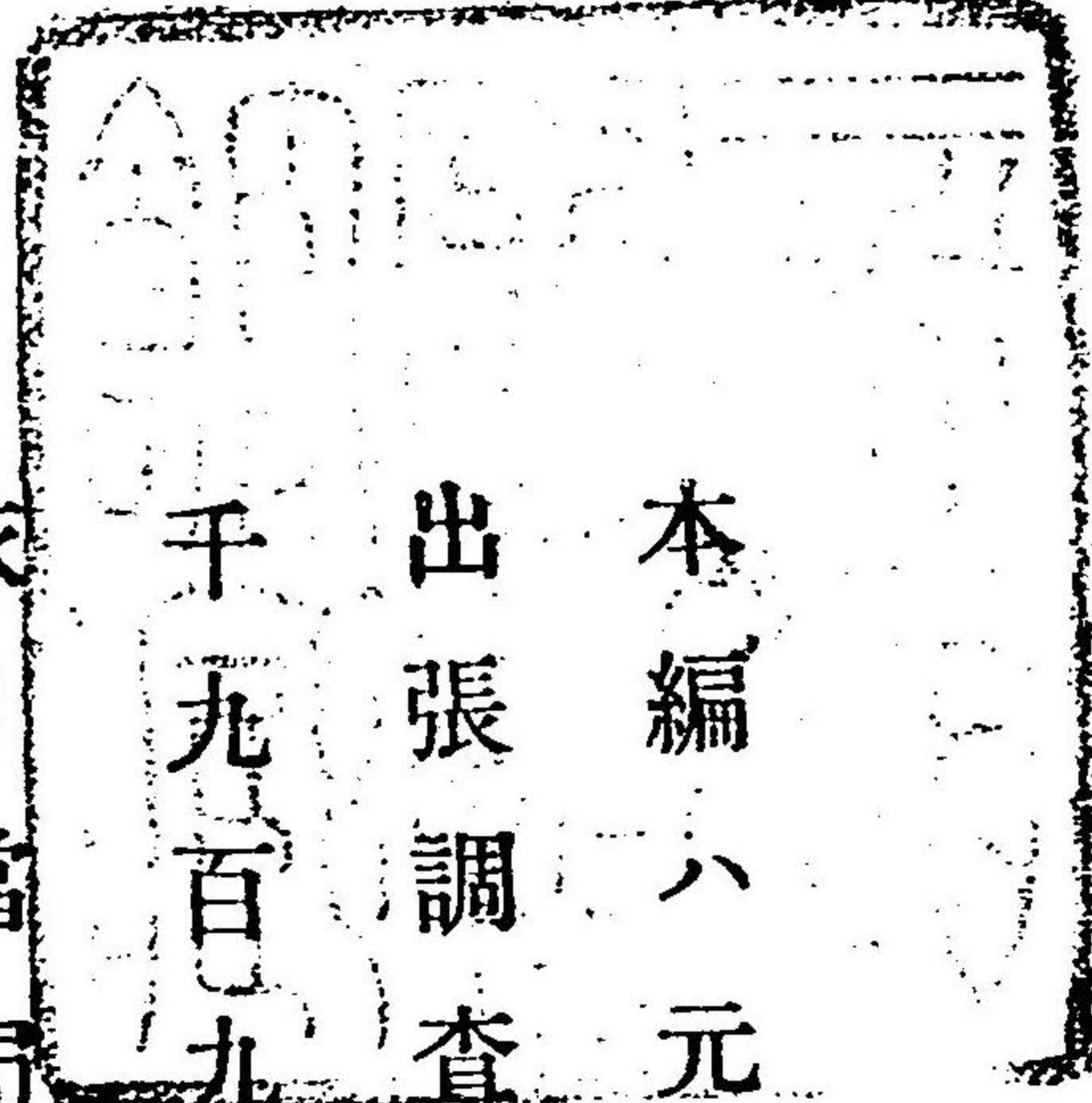
英領印度貿易指針

附 英領印度暹羅及佛領印度產米調查

農商務省商務局



337-21



本編ハ元本省囑托吉田壽信カ英領印度及暹羅ニ
出張調査復命シタルモノニシテ千九百八十九年
千九百九十一〇年ノ統計ト最近發行ノ統計書ニ
依リ當局ニ於テ之ヲ補足シタルモノナリ

明治四十四年一月

農商務省商務局



英領印度貿易指針

附英領印度、暹羅及佛領印度產米調查

目次

第一章	地理下氣候	一
第二章	人種下嗜好	三
第三章	港灣	八
第四章	鐵道	十一
第五章	農業下飢饉救濟策	十五
第六章	鑛業	二十六
第七章	山林	二十九
第八章	工業	三十一
第九章	外國貿易	三十四
第十章	重要輸入品	三十九
第十一章	重要輸出品	五十一

第十二章 日印貿易……………七十七

第十三章 英領印度輸入關稅率摘要……………百三十五

附 錄

英領印度、暹羅及佛領印度產米調査

第一章 生産 英領印度—暹羅—佛領印度支那……………一

第二章 輸出 英領印度—暹羅—新嘉坡—佛領印度支那……………五

第三章 粃、玄、白、碎米ノ種別……………十九

第四章 精米所ト精米方法……………二十六

第五章 搗減ト精米賃……………三十三

第六章 粃米ノ買付……………三十七

第七章 建直斤量ト荷造包裝……………三十八

第八章 取引方法ト諸費用……………四十

第九章 米價ノ趨勢ト玄、白及碎米ノ價格……………四十九

第十章 米ノ輸送ト玄、白米損害ノ程度……………五十七

第十一章 結 論……………五十九

目次終

英領印度貿易指針 附佛領印度產米調査

英 領 印 度

第一章 地理ト氣候

印度ハ面積百七十六萬平方哩ヲ奄有シ、露國ヲ除キタル歐州ヨリ廣ク、本邦ニ比スレハ約十倍大也。而シテ其地形ハ變化著シク、北境ニ在リテハ、氷河ト雪嶺ヲ以テ天然ノ砦塞ヲ形成セル「ヒマラヤ」ノ連山横ハリ、其山麓ニハ「インド、ガンヂス」ノ大平野アリ。即チ其東方及ヒ中央部ハ「ガンヂス」河ト「ブラマプートラ」河ノ流域、西北部ハ「インドス」河ノ流域トヨリ成リ、面積五十萬平方哩、東西ノ延長千七百哩ニ及ヒ、最高地ト雖、海拔一千呎ヲ越エスシテ、印度ニ於ケル最豐饒ナル、最般富ナル、最人口稠密ナル、最歴史ニ富ミタル地方也。進テ南方ニ至レハ、面積約七十萬平方哩ニ亘ル、三角形ノ半島形トナリテ印度洋ニ面ス、其中央ニハ大高原展開シ海拔平均一千五百呎ニ上リ、「マイソア」州ニ至レハ三千呎ノ高キニ達ス。斯ノ地方ハ山林鬱鬱今尙太古土民ノ棲息スルモノアリト云フ。其西方ハ斷崖ヲ以テ海ニ臨ミ、南方ハ徐々傾斜シテ平地トナリ印度洋ニ入ル。東方遙カニ「ブラマプートラ」河ノ東ニ至レハ、山嶽嶢嶢トシテ城壁ヲ設ケ別ニ一區畫ヲナシタル地方アリ、是レ即チ緬甸州也。故ニ現時ノ印度ナル名稱ノ範圍ハ、往昔「インドガンヂス」ノ平野地方ヲ稱シタルカ如キ狹少ナルモノニアラスシテ、其疆域ハ波斯、露國、西藏、暹羅等ヨリ支那ニ及ヒ、英國統治ノ下ニ在ル地域ハ、英領印度ノミナラスシテ土人ノ州ヲ含ムニ至リタリ。今千八百八十九年英國議會ニテ採用シタル定義ニ由レハ、英領印度ナル名稱ハ、印度總督或ハ知事又ハ總督ニ隸屬スル官吏ニ由リ統治セララル、英國皇帝陛下ノ領土内ニ於ケル總テノ土地ノ意味ニシテ、即チ印度トハ印度總督或ハ知事又ハ總督ニ隸屬スル官吏ニ依リ統治セララル、英領印度並ニ土人ノ王ニ屬スル各州ヲ總稱スルモノ也ト云フ。

第十二章 日印貿易……………七十七

第十三章 英領印度輸入關稅率摘要……………百三十五

附 錄

英領印度、暹羅及佛領印度產米調查

第一章 生産 英領印度—暹羅—佛領印度支那……………一

第二章 輸出 英領印度—暹羅—新嘉坡—佛領印度支那……………五

第三章 粃、玄、白、碎米ノ種別……………十九

第四章 精米所ト精米方法……………二十六

第五章 搗減ト精米賃……………三十三

第六章 粃米ノ買付……………三十七

第七章 建直斤量ト荷造包裝……………三十八

第八章 取引方法ト諸費用……………四十

第九章 米價ノ趨勢ト玄、白及碎米ノ價格……………四十九

第十章 米ノ輸送ト玄、白米損害ノ程度……………五十七

第十一章 結 論……………五十九

目次終

英領印度貿易指針 附佛領印度產米調査

英 領 印 度

第一章 地理ト氣候

印度ハ面積百七十六萬平方哩ヲ奄有シ、露國ヲ除キタル歐州ヨリ廣ク、本邦ニ比スレハ約十倍大也。而シテ其地形ハ變化著シク、北境ニ在リテハ、氷河ト雪嶺ヲ以テ天然ノ砦塞ヲ形成セル「ヒマラヤ」ノ連山横ハリ、其山麓ニハ「インド、ガンヂス」ノ大平野アリ。即チ其東方及ヒ中央部ハ「ガンヂス」河ト「ブラマプートラ」河ノ流域、西北部ハ「インドス」河ノ流域トヨリ成リ、面積五十萬平方哩、東西ノ延長千七百哩ニ及ヒ、最高地ト雖、海拔一千呎ヲ越エスシテ、印度ニ於ケル最豐饒ナル、最般富ナル、最人口稠密ナル、最歴史ニ富ミタル地方也。進テ南方ニ至レハ、面積約七十萬平方哩ニ亘ル、三角形ノ半島形トナリテ印度洋ニ面ス、其中央ニハ大高原展開シ海拔平均一千五百呎ニ上リ、「マイソア」州ニ至レハ三千呎ノ高キニ達ス。斯ノ地方ハ山林鬱鬱今尙太古土民ノ棲息スルモノアリト云フ。其西方ハ斷崖ヲ以テ海ニ臨ミ、南方ハ徐々傾斜シテ平地トナリ印度洋ニ入ル。東方遙カニ「ブラマプートラ」河ノ東ニ至レハ、山嶽嶙峋トシテ城壁ヲ設ケ別ニ一區畫ヲナシタル地方アリ、是レ即チ緬甸州也。故ニ現時ノ印度ナル名稱ノ範圍ハ、往昔「インドガンヂス」ノ平野地方ヲ稱シタルカ如キ狭少ナルモノニアラスシテ、其疆域ハ波斯、露國、西藏、暹羅等ヨリ支那ニ及ヒ、英國統治ノ下ニ在ル地域ハ、英領印度ノミナスシテ土人ノ州ヲ含ムニ至リタリ。今千八百八十九年英國議會ニテ採用シタル定義ニ由レハ、英領印度ナル名稱ハ、印度總督或ハ知事又ハ總督ニ隸屬スル官吏ニ由リ統治セラル、英國皇帝陛下ノ領土内ニ於ケル總テノ土地ノ意味ニシテ、即チ印度トハ印度總督或ハ知事又ハ總督ニ隸屬スル官吏ニ依リ統治セラル、英領印度並ニ土人ノ王ニ屬スル各州ヲ總稱スルモノ也ト云フ。

斯ノ如ク印度ハ廣袤大ニシテ、山嶽地方アリ、高原地方アリ、平野地方アリ、又氣候風ノ變化アルヲ以テ、地ノ異ナルニ從ヒ、寒暖ノ差違著シク、世人ノ想像スルカ如ク、何レノ地方モ四時酷熱ヲ極ムルモノニアラス。即チ「デリー」「アグラ」地方ヨリ北部ニ至レハ冬期間暖爐ヲ用ユルモノアリ、漸次北方ニ進ムニ從ヒ寒冷ノ度増進ス。故ニ其地熱帶ニ屬スト雖、其需要スル織物類ノ如キハ必スシモ薄物ト限ラスシテ、厚物モ亦需用セラル、是レ印度貿易上注意スヘキ要件ニシテ、裏毛莫大小ノ如キ又ハ毛布ノ如キハ、主トシテ是等地方ノ需用ニ供セラル、ヲ見ル。殊ニ北部ハ南部ニ比シ、富ノ程度高ク、又産物多クシテ購買力ニ富ミ、加フルニ其地境ハ西藏「ネポール」「アフガニスタン」等ニ接シ、北部ニテ需要セラル、商品ノ販路區域ハ、印度内ニ止マラスシテ、進ンテ境外ニ及フヲ以テ、冬期用品ノ研究モ亦必要トス。

右ニ述ヘタル、印度地形ノ相違ハ低氣壓ヲ調和セシメ、溫度ト氣壓ノ高低、並ニ降雨ノ多少ニ大關係ヲ有スルカ故ニ、地形ノ状態ヲ知ルコトハ、氣象ノ研究ト共ニ最モ必要事項也。印度ニ於テ、氣象ノ著シキ顯象ハ、西南氣候風ト北東氣候風ニ依リ生スル氣候ノ變化ニシテ、北東氣候風ハ亞細亞大陸ヨリ來ル風ニシテ、此ノ季節ニ際シテハ、海上ヲ經過シタル風ノ通過スル以外ノ土地ハ、空氣著シク乾燥シ概ネ晴天ニシテ、偶々土地ノ狀況ニ由リ幾分ノ降雨ヲ見ルノミ。之ニ反シテ、西南氣候風ハ大洋ヨリ來ル風ニシテ、此ノ季節ニ際シテハ、多量ノ濕氣ト降雨ヲ以テ印度全部ヲ掩フニ至ル。印度測候所ノ報告ニ據レハ、一年間ノ平均雨量ハ四十五吋ニシテ、其九割ハ西南氣候風ノ季節中ニ降りタルモノ也ト云フ。故ニ印度ニ於ケル一年間ノ氣候ヲ大別スレハ、乾燥季ト濕潤季トニテ以テ明瞭ニ區別シ得ヘシ。乾燥季即チ北東氣候風ハ、十二月中旬ニ始マリ翌年五月末ニ終リ、其間ヲ二期ニ區別ス。即チ前期ハ十二月中旬ヨリ一月及ヒ二月ノ間ニシテ、後期ハ三月ヨリ五月ニ至ル間ヲ云ヒ、前期ハ全體ノ氣候比較的溫度低ク北部ハ寒冷也、後期ハ溫度高ク炎熱太タシ。濕潤季即チ西南氣候風ハ又之ヲ二期ニ區別シ得ヘシ。即チ前期ハ七月ヨリ九月ノ間ニシテ概シテ降雨多ク殆ント全印度ヲ濕スニ至ル。後期ハ氣候風ニ變化ヲ來シ、霖雨ハ漸次退散シテ印度ヲ去ル期間ニシテ、十月ヨリ十二月マテトス。斯ノ如ク、印度ハ半年間霖雨ヲ以テ濕ヒ、半年

間乾燥シテ期末ニ至レハ百度以上ノ高熱ニ達スルカ故ニ、其需要物品ハ乾、濕氣候ノ變化ニ堪エ得ルモノナルヲ要ス。若シ又斯ノ西南氣候風ニシテ適順ヲ得サレハ、直チニ收穫ニ影響シ、延テ輸出力ト購買力ヲ減殺スルヲ以テ、貿易業者ハ常ニ此ノ氣候風ニ注目シ、商機ヲ逸セサラシメントコトヲ努ムト云フ。因ニ印度ノ商業ハ概ネ、雨季ニ閑散ニシテ乾燥季ニ頻繁也。

第二章 人種ト嗜好

印度ノ人種ハ種々雜多ナルヲ以テ、詳細ナル説明ヲナスコトハ容易ノ業ニアラス。今其概略ヲ述フレハ、「アリヤン」種族ノ侵入シ來リシ以前既ニ印度土着ノ「ドラビヂアン」ト稱スル人種ノ住スルアリ、又太古茫漠タル時代ヨリ希臘人、「アフガン」人、波斯人及其他ノ人種カ、續々西北境ヨリ移住シ來リ、北東境ヨリハ蒙古人種ノ侵入スル者アリ、現時「アッサム」及ヒ緬甸ノ住民ハ主トシテ此蒙古種族ニ屬シ、「ベンゴール」ノ種族中ニモ此人種ノ系統ヲ混スト云フ。是等ノ種族ハ、各地ニ殖民ヲ爲シテ幾多ノ年代ヲ經過スルニ從ヒ、生活並ニ周圍情態ノ影響ヲ受ケ、種々ナル變化ヲ來シ、適者生存シテ今日ニ至リタリ。譬ヘハ、北西部ノ氣候乾燥ナル地方ニテハ、間斷ナキ生存競争ノ結果トシテ、勇壯ニシテ健康ナル者生存シ、「ガンヂス」ノ肥沃ナル平野地方ニテハ、生活ノ簡易ナルニヨリ、精力無キ虛弱ナル人種トナリタルカ如キ是レナリ。現時印度國民ハ人口約三億ヲ算シ、世界人口ノ五分ノ一ニ達シ、英國統治ノ下ニ印度帝國トシテ一大國民ヲ成スモ、住民ハ種々雜多ニシテ約一百以上ノ人種ヨリ成リ、社會上商業上共ニ文明國民タル資格ヲ有スルモノヨリ、絶對野蠻ニシテ文明ノ何タルヲ解セサル者ニ至ル迄、總テノ階級ヲ網羅セルコトハ他國ニ類例ヲ見サル所ニシテ、是等人種ノ雜多ナルト共ニ宗教ノ區別多キト、言語ノ複雜ナルコトモ亦印度ノ奇觀也。今試ニ印度國民ヲ宗教上ヨリ區別スレハ左ノ如シ。(千九百一年調査)

波羅門教

二〇七、一三五、〇三七

回教

六二、四二〇、二九一

佛教及ゼイン教

シツクス

一〇、八〇八、六五二

二、一九四、八九八

耶蘇教

二、九一八、七八六

パーシー教

九四、一九〇

右ハ主要ナル宗教ニ屬スル住民ナレトモ、尙他ニ異宗教ノ者尠ナカラス。又原始ノ蠻民ニシテ、何レノ宗教ニモ屬セサル者アリ。而シテ國民ノ多クハ宗教異ナルニ從ヒ相互交際セス、又飲食ヲ共ニセサルモノアリ、印度ノ二大宗教タル波羅門教徒ト回々教徒ノ如キハ、古來相反目シテ調和セス、宛モ仇敵ノ如シト云フ。是等ノ中、「パーシー」教徒ハ紀元七世紀ノ頃回々教徒ノ追逐スル所トナリ、波斯ヨリ遁レテ移住シ來リ、現時人口僅カニ約十萬ノ少數ニシテ、勤勉能ク業務ニ堪エ、教育アリテ企業心ニ富ムヲ以テ、概シテ富者多ク資本少ナキ者ハ、歐洲人又ハ本邦人ノ商店ニ書記トナリ、資本ヲ有スル者ハ棉花仲買其他ノ事業ヲ經營シ、商業上ニ在テハ他人種ヲ壓シツ、アリトス。言語ノ區別モ亦頗ル多ク、細別スレハ約百十八種ニ及フト云フ。今其主要ナル言語ト使用スル人數ヲ擧クレハ左ノ如シ。

言語名

人數

ヒンダ	八五、六七五、三七三
ベンガル	四一、三四三、七六二
テルグ	一九、八八五、一三七
マラー	一八、八九二、八七五
パンジャビ	一七、七二四、六一〇
タミル	一五、二二九、七五九

グジャラン

一〇、六一九、七八九

カナリ

九、七五一、八八五

ウリヤ

九、〇一〇、九五七

バーミース

五、九二六、八六四

マラヤラム

五、四二八、二五〇

マサルマニ

三、六六九、三九〇

シンデ

二、五九二、三四一

サンサル

一、七〇九、六八〇

アツサミース

一、四三五、八二〇

ゴンド

一、三七九、五八〇

バハリ(西方)

一、五二三、〇九八

同(中央)

一、一五三、三八四

パールワデ

一、一四七、四八〇

バシユツ

一、〇八〇、九三一

現時英語ノ普及著シキモノアレトモ、主トシテ教育ヲ受ケタル者ニ限ラレ、國民大多數ノ間ニ通セサルヲ以テ、印度貿易ヲ經營セント欲スル者ハ「ヒンデ」ヲ知ルヲ要ス。蓋シ「ヒンデ」ハ右表ニ示スカ如ク、八千五百萬人ニ由リ使用セラル、ノミナラス、他ノ言語ヲ使用スル人種モ亦斯ノ言語ヲ知ル者尠ナカラサレハ也。

印度ノ面積ハ、千九百一年ノ調査ニ據レハ百七十六萬六千五百九十七平方哩ニシテ、其内英領ニ屬スルモノ百八萬七千二百

四平方哩、即チ百分ノ六十一、五ニシテ土人ノ州ハ六十七萬九千三百九十三平方哩、即チ百分ノ三十八、五ヲ占メ人口ハ二億九千四百三十六萬一千五十七、其内英領地ノ人口ハ二億三千八十九萬九千五百七、土人ノ州ニ屬スルモノハ六千二百四十六萬一千五百四十九人ヲ算ス。故ニ土人州ノ面積ハ總面積ノ三分ノ一以上ナルニ、人口ハ四分ノ一以下ノ比也。今人口ノ密度ヲ檢スレハ、印度全部ニテハ、一平方哩ニ付百六十七人、英領地ノミナレハ、一平方哩ニ付二百十三人、土人ノ州ハ九十二人ノ割合ニシテ、最豐饒ナル「ガンヂス」平野地方ハ一平方哩ニ付四百人以上、最モ荒蕪ナル「ラジュプタナ」地方ハ僅ニ五人也ト云フ。更ラニ印度全部ヨリ考フレハ、我邦ノ如ク稠密ナラサレトモ、其土地ノ宏大ナル點ヨリ云ヘハ頗ル多數ニシテ北米合衆國ノ一平方哩ニ付二十八人ノ僅少ナルニ比スレハ著シキ相異アルヲ見ル。今斯ノ如キ多數ノ住民カ、如何ナル職業ニ従事セルヤヲ見ルニ、約七割ハ農牧業ニシテ、一割五分ハ工業、六分ハ勞働ヲ業トシ、商業ニ在テハ僅カニ二分五厘ニ過キス、左ニ掲クル表ハ千九百一一年ノ調査ニ係ル職業別ナリ。

官 吏	一〇、六六二、六六九
家 内 業	一〇、七一七、二九四
農 牧 業	九五、六六六、八四五
商 業	七、七二五、七三七
工 業	四五、七一九、六四五
勞 働	一七、九五三、二三〇
其 他	五、七六三、九七六
合 計	二九四、二〇九、三九六

(注意此ノ合計ト前述人口數ト符合セサルハ登録ニ際シ脱漏アリシニ由ルト云フ)

印度國民ハ前述ノ如ク人種、宗教、言語等ノ同シカラサシヨリ、地ノ異ナルニ從ヒ、其風俗習慣モ自ラ差違ナキヲ得ス、然レ共大體ヨリ觀察スレハ特別ノ事情アリテ共通ノ點少シトセス。即チ其體質ハ虛弱ニシテ主トシテ野菜ヲ食シ、精力ニ乏シクシテ激シキ勞働ニ堪ユル能ハス、其生活ハ極メテ簡單ニシテ無趣味也、其希望ハ唯睡眠ト飲食ノ二ニ過キス。從テ其嗜好ト需要ハ單純ニシテ、本邦又ハ歐米文明國民ノ如ク複雜ナルモノニアラス。故ニ唯タ僅少ノ收入ヲ得ルニ甘ンシ、粗造ノ家屋ニ棲ミ、低廉ナル食料ヲ得レハ足ル也。衣服ノ如キハ必需品ヨリハ寧ロ隨意用品ト稱スヘク、南部地方ニ至レハ半身裸體ニテ生活シ得ルナリ。故ニ若シ其最モ嗜好セラル、モノアリトセハ、僅ニ金銀ト寶石ノ二ニ過キスト云フヲ得ヘシ。殊ニ金銀ノ需要ハ頗ル多額ニシテ、過去五年間ノ金銀輸出入差引輸入超過額ヲ檢スレハ、千九百二一三年ニハ約一億圓、千九百二一四年ニハ一億五千萬圓、千九百四一五年ニハ一億五千萬圓、千九百五一六年ニハ一億圓、千九百六一七年ニハ二億五千萬圓ノ巨額ニ達シタルヲ見ル。固ヨリ是等輸入超過ノ金銀ハ、全部印度人ノ需要ニ供セラル、モノナラサレトモ、亦以テ其ノ多量ナルヲ推知シ得ヘシ。斯ノ金銀ハ男女身體ノ裝飾ニ使用ス。殊ニ婦人ハ之ヲ腕環、耳環又ハ鼻環等トシテ身體ヲ裝飾スルコト盛ンニ行ハレ、婦人カ金銀製ノ腕環及ヒ足環三四對ヲ嵌メ、直徑約二吋ノ寶石入り鼻環ヲ小鼻ニ、又寶石入り耳環ヲ耳葉ニ挿ミ市街ヲ歩行スル光景ハ、宛然怪物ニ異ナラス。聞ク處ニ據レハ、五、六月ノ候、酷熱ノ時季ニ際シ、婦人ハ裝飾金屬ノ熱スルニ苦シミ、之ヲ冷却センカ爲メ池沼ニテ水浴シツ、アリト云フ。斯ノ如キ習慣ヲ馴致シタル所以ハ、數百年前國內擾亂相繼キテ起リ、壓制政治行ハレシヲ以テ、人民ハ財産ノ安全ヲ計ランカ爲メ貨幣ヲ貯藏シ、又ハ金銀ヲ裝飾品トシテ貯蓄スルニ至リタルニヨルト云フ。要スルニ印度國民ハ概評スレハ美術思想ニモ科學思想ニモ乏シク、又好奇心ニ驅ラル、カ如キコト稀ニシテ、其風俗習慣ハ幾千年前ヨリ繼續シ來リテ毫モ改良進步ノ跡ヲ見ス、只織物類其他一、二ノ商品ニシテ流行ノ變化ヲ享クルモノ無キニアラサレトモ、其範圍ハ極メテ狭少ニシテ、歐米諸國ノ如ク嗜好ノ推移、流行ノ變遷ハ急激ナラス、僅ニ古來ノ意匠圖案ニ些少ノ變化ヲ來シタルノミニテ、將來ニ至リテモ其嗜好ハ著シキ變化ヲ來サ、ルヘシ。

第三章 港 灣

印度ノ位置ハ世界交通ノ要衝ニ當リ、其海岸線ハ遠ク延長スト雖、比較的良港灣ニ乏シキカ如シ。即チ半島部ニ在テハ「バルチスタン」ヨリ「コモリン」岬ニ至ル西海岸ニハ、「シンド」州ノ「カラチ」港ト孟買州ノ孟買港ノ二アリ。東海岸ニハ「マドラス」州ニ、唯一ノ「マドラス」港アリ。北方「ベンゴール」灣ニ至リテ、漸ク「カルカッタ」ノ良港アリ。緬甸ニ在テハ良港多ク、蘭貢、「ムルメイン」、「ベセイ」、「アキヤブ」及ヒ「チタゴング」等何レモ海岸深く大船巨舶ヲ入ルヘシ。然レトモ緬甸外國貿易品ノ大半ハ、蘭貢港へ輻輳シテ内外へ分配セラル。蓋シ蘭貢港ハ「イラワデー」河ニ由リ深く内地ト交通ノ便ヲ有シ、河口ヨリ九百哩ニ至ルマテ、漁船ヲ以テ湖上スルヲ得ルニ、其他ノ港灣ハ附近ノ貨物ヲ集散スルニ過キサルニ由ル。今主要ナル港灣ト、其輸出入合計貿易額ヲ舉クレハ次ノ如シ。(但金銀ヲ除ク)

港 名	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
カルカッタ港	五九、九五、四九	六七、九二、五五	七九、五三、〇八	九五、三〇、五五	八八、六三、五七
孟 買 港	五九、〇三、三六	五八、九六、九四	五二、〇九、〇三	五〇、三三、二九	六七、九二、一〇
カ ラ チ 港	二二、六七、二〇	二六、四〇、三二	二二、〇三、五九	一六、四七、七四	一八、〇六、四九
蘭 貢 港	一六、三三、七〇	一三、三三、〇五	一六、九四、〇六	一〇、一〇〇、〇七	一四、九五、九三
マドラス港	七四、三三、五八	七九、七〇、三七	九八、八五、七五	九四、五三、六二	九八、〇二、三三

右表ノ如ク「カルカッタ」港ヨリ以下、順次其貿易額減少ス。殊ニ近年著シク發達シツ、アルハ「カラチ」港ニシテ、同港ハ孟買港ニ比シ其位置歐洲ニ近ク、加フルニ北部鐵道ノ増設セラレシヨリ、孟買港ヲ經由スヘキ貨物ハ「カラチ」港ヨリ集散セラ、ニ至リタリ。而シテ是等各港ト東部「ベルゴール」及ヒ「アッサム」州ノ「チタゴング」港ヲ加ヘタル六港ハ、現時港事「ト

ラスト」トシテ經營セラル。即チ港灣ニ關スル事務ハ政府監督ノ下ニ港務委員ニ委任セラ、港務委員ハ主トシテ各地方政府ニヨリテ任命セラレ、所屬地方貿易上ノ利害關係ヲ代表シ、其權限ハ港稅ヲ課シ港灣改良ノ爲メ社債ヲ發行シ、倉庫、埠頭及ヒ船渠ヲ修築シテ、貿易ト海運ノ利便ヲ計ルヲ得ルモノトス。此ノ港事「トラスト」ノ組織ニ依リ、印度ノ港灣ハ逐年改良ヲ加ヘ、今ヤ完備ノ域ニ達シタルモノ尠ナカラス。是等港灣ノ規模宏大ニシテ、海陸ノ聯絡能ク整備セルコトハ東洋無比ト稱スルヲ得ヘキナリ。今各港貿易ノ梗概ヲ述フレハ

一「カルカッタ」港 蘇西運河ノ開通ト、孟買及「カラチ」ノ兩港カ鐵道ニ由リ連結セラレシマテ、印度ノ外國貿易ハ主トシテ「カルカッタ」港ニ集中シタリシカ、爾來其貿易ハ他ノ港灣ヘ分配セラ、ニ至リタリ。然レトモ内部鐵道ノ延長ト港灣ノ修築ニ依リ、貿易上「カルカッタ」港ノ位置ハ、尙印度港灣中ノ第一位タルヲ失ハス。從來航船ハ川ノ中央ニ投錨シ、解舟ヲ以テ荷役ヲナシタリシカ、今ヤ埠頭へ繫船シテ鐵道貨車ヨリ直ニ貨物ヲ搭載スルヲ得ルニ至リ。又同港ヨリ「アッサム」地方ニ至ル河川ノ改修セラレテ、漁船湖上ノ便ヲ有スルニ至リタルヨリ同地方製茶業ノ發達ヲ促シ、加フルニ「ベンゴール」州ニ於ケル石炭產出高ノ増加ト、黃麻紡績工業ノ進歩トハ、「カルカッタ」港ノ繁榮ヲ持續スルヲ得セシメタリ、其主要ナル輸出品ハ黃麻及黃麻袋、紅茶、皮革、蟲膠及種子類トス。

二 孟買港 本港ノ位置ハ、小島中ニ在リテ内地ト交通ノ便ヲ缺クヲ以テ、其進歩遅々タリシカ、近年内部鐵道ノ増設ト船渠ノ修築、及ヒ内地トノ聯絡ヲ通シテヨリ以來、著シキ進歩ヲ呈シ、現時棉花ノ輸出港トシテ主要ナル位置ヲ占ムルニ至リタリ、其輸出品ノ重ナルモノハ棉花、綿糸、種子類及ヒ穀物等トス。

三「カラチ」港 本港ハ附近ニ工業ノ興起スルモノナクシテ、其貿易ハ年々著シキ進歩ヲ呈シツ、アリトス。蓋シ前述ノ如ク「カラチ」港ノ輸出入貨物ハ從來孟買港ヲ經由シタリシカ、港灣ト埠頭ノ完備セラレシト共ニ、豐饒ナル「バンヂヤブ」州ヲ貫通スル鐵道ノ竣工シタルヨリ以來、其位置一變シテ孟買港ノ貿易ヲ奪フニ至リタルニ由ルモノトス、其主要ナル輸出

品ハ小麦、棉花、羊毛及ヒ種子類ナリ。
 四 蘭貢港 本港ノ發達ハ極メテ近年ニ屬ス、即チ一八五二年ノ戰爭ニ依リ、緬甸州カ英國ノ領域トナリシ後ト雖、同港ハ僅ニ附近ノ米穀ト「チーキ」材ヲ輸出スルニ過キスシテ、其貿易額ハ微々數フルニ足ラザリシカ、精米工場ノ増設ト石油精製業ノ發達ニ依リ、今ヤ印度ニ於ケル重要ナル港灣トナルニ至リタリ、其主要ナル輸出品ハ米(玄、白及碎米)、糖、チーキ材皮革等ナリ。

五 「マドラス」港 本港ノ位置ハ海運貿易場トシテ好良ナラス、其港灣ハ巨費ヲ投シテ修築セラレシト雖、内部鐵道ノ開通ハ貿易ヲ「マドラス」港ヘ集中セスシテ却テ本州中ノ他港ヘ分配シ、唯附近ニ綿糸紡績所ノ設立アリシト、皮革工業ノ發達ニ依リ衰退ヲ防クヲ得ルノミ、其主要ナル輸出品ハ皮革及綿織物等トス。

是等諸港ノ輸入品ハ主トシテ綿織物、鐵、銅及ヒ鋼等ノ金屬品、鐵道用材料、鐵道用品、化學藥品及染料、食料品等ニシテ著シキ區別ナク、輸出ニ在リテハ前述ノ如ク各々特長ヲ有スルヲ見ル、即チ概言スレハ「カルカッタ」ハ黃麻ノ輸出場ニシテ、孟買ハ棉花、「カラチ」ハ小麦、蘭貢ハ米、「マドラス」ハ皮革ヲ輸出シツ、アルカ如シ。今最近ノ港事「トラスト」ノ成績ヲ見ルニ、一九〇六―七年中「カルカッタ」港事「トラスト」ノ埠頭ヲ經由シタル貨物ノ數量ハ、約三百七十五萬六千四百噸ニシテ、輸入シタルハ十八萬六千八百噸ヲ算シ、同年中港事「トラスト」ノ、總收入金ハ英貨六十六萬七千磅ニシテ、總支出金ハ六十五萬九千四百磅也。孟買港ハ同年度中總收入金四十八萬七千磅ニシテ總支出金ハ四十一萬七千七百磅、「カラチ」港ハ總收入金十八萬九千五百磅、總支出金ハ十二萬九千五百磅、蘭貢港ハ總收入金十三萬五千五百磅、總支出金十三萬二千三百磅、「マドラス」港ハ總收入金六萬四千六百磅、總支出金三萬五千九百磅也ト云フ。左ニ掲クル表ハ、過去二年間是等各港ノ出入船舶數並ニ噸數ヲ示ス。

主要ナル港灣	一九〇六―〇七年		全帆		一九〇七―〇八年		全帆	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
「カルカッタ」港	1,189	3,705,635	1,055	3,098,850	2,144	6,804,485	2,144	6,804,485
孟買港	1,333	3,106,042	1,333	3,106,042	1,333	3,106,042	1,333	3,106,042
蘭貢港	77	1,335,008	77	1,335,008	77	1,335,008	77	1,335,008
「カラチ」港	610	1,300,500	610	1,300,500	610	1,300,500	610	1,300,500
「マドラス」港	134	710,961	134	710,961	134	710,961	134	710,961
「チャムホン」港	70	101,600	70	101,600	70	101,600	70	101,600

出入船舶數

國名	一九〇三年―〇四年	一九〇四年―〇五年	一九〇五年―〇六年	一九〇六年―〇七年	一九〇七年―〇八年
英國	4,772	5,633	4,838	4,916	4,875
獨逸	3,933	3,339	3,877	3,711	3,755
ノルウェー	1,733	1,411	1,744	1,955	1,888
佛蘭德	1,334	1,561	1,622	1,599	1,577
日本	337	156	22	83	123
日利	337	156	22	83	123
以太利	63	74	85	77	79
佛國	314	94	105	67	61

第四章 鐵道

印度ノ鐵道ハ一八四五年ニ創設セラレシヨリ以來、今日ニ至ルマテ著シキ進歩ヲ爲シ、現時總延長三萬餘哩ニ達シ、本邦ニ比シ約六倍長ク其軌道ハ創設當時ニ在テハ五呎六吋ヲ以テ標準ト定メタリシカ、一八七〇年ニ至リ、財政上狹軌鐵道モ亦利

便抄カラサルヲ以テ、廣狹兩者併用ノ必要ヲ唱導スル者起リ、種々研究ノ結果トシテ「メートル」式即チ三呎三寸八分ノ三ノ軌道ヲ以テ第二ノ標準ト爲シ、其後人口稠密ナル地方ニシテ、附近各地ノ交通ヲ發達セシムル必要アル地方ニハ、二呎六吋及ヒ二呎軌道ヲ布設スルニ至リタリ。今各軌道ノ延長ト、總延長ヲ掲クレハ左ノ如シ。(一九〇七年末調査)

- 六呎六吋軌道 一六、〇八七、一七
- 三呎三吋八分ノ三軌道 一二、五八三、六三
- 二呎六吋及二呎軌道 一、三八二、四五
- 合計 三〇、〇五三、二五

右鐵道ノ投資額ハ總計英貨二億五千九百一萬四千八百六十七磅、即チ約二十五億圓ノ巨額ニシテ、資金ニ對スル純利益ハ五分九厘六毛也ト云フ。斯ノ如ク印度鐵道ノ増設セラレタル結果トシテ、産業ノ發達ト貿易ノ暢旺ニ多大ノ影響ヲ及ボシタリ。蓋シ往昔鐵道ノ開通以前ニ在テハ、農産物ノ市場ハ、狹少ナル範圍ニ限ラル、ヲ以テ氣候適順ニ際シ、收穫豊饒ニシテ供給ノ需要ニ超過スルトキハ忽チ價格ノ暴落トナリ、豊饒ヨリ得ラルヘキ利益ヲ失フニ至リ、甚タシキハ、收穫物ノ幾分ヲ遺棄シテ價格ノ維持ヲ計リタルコト往々行ハレタリシカ、交通ノ發達ハ是等ノ状態ヲ一變シ、遠距離間ノ物價ヲ平均セシメ、生産過剰ニ際シテハ世界ノ市場ニ販路ヲ求ムルヲ得セシメタリ。殊ニ印度ノ如キ農業國ニシテ而モ土地宏大ナル國ニ在テハ、鐵道ノ開通ニ依リ享クル利益ハ最モ著シキモノアルヲ見ル。即チ一八九八年ノ運送貨物ハ三千五百六十四萬二千噸ナリシニ、一九〇七年ニハ六千九百五十九萬三千噸ニ達シ、十年間ニ約倍數ノ進歩ヲ呈シタリ。其主要ナル貨物ハ穀物、石炭、棉花、黃麻、鹽、砂糖及木材ニシテ其内、穀物、棉花及ヒ黃麻ハ海外ヘ輸出シ、他ハ概ネ國內消費ニ供セラル。是等ノ貨物ハ皆印度ノ産出ニ係リ、産業ト鐵道トノ發達ハ國富ヲ増進シ、延テ外國品ノ購買力ヲ増大セシメ、輸入貿易ハ輸出貿易ト共ニ年々著シキ進歩ヲ呈シツ、アリトス。又鐵道布設ノ當初ハ國民ノ多クハ貧困ナレハ旅客輸送ハ好結果ヲ奏セサルヘシト想像セラレ

シカ、開通後ハ豫期以上ノ結果トナリ、下級民ノ鐵道ニ依リ旅行スル者多ク、鐵道旅客ノ大部分ハ三等客ノ占ムル所トナルニ至リタリ。即チ一八九八年ニハ旅客數一億五千一百五十六萬一千人ナリシニ、一九〇七年ニハ三億七百五十八萬四千七百人ニ上進シタリキ。今印度ニ於ケル鐵道ノ種類ト資金並ニ配當率ヲ掲クレハ左ノ如シ。

五呎六吋軌道

種類	種	一九〇七年十二月三十一日マテニ開通シタル延長	一九〇七年十二月三十一日マテニ投資シタル資本	總收入	總支出	差引利益	資本ニ對スル利益割合
官有ニシテ私立會社ノ運用スルモノ	七、九三、八一	一四、八七、二七	三、六三、三三	七、〇〇、八七	六、三九、一〇	七、二七、二二	
官有ニシテ政府ノ運用スルモノ	五、三三、七〇	五八、九六、三三	七、〇〇、八七	一、〇四、〇九	三、九九、一〇	三、〇〇、四七	
私立會社線ニシテ舊契約ニテ保證スルモノ	九、九一、〇一	九、六七、〇〇	一、〇四、〇九	一、〇四、〇九	六、七、八七	六、一、一〇	
全上新契約ニテ保證スルモノ	三、〇〇、〇〇	一、五、一三	一、〇四、〇九	一、〇四、〇九	一、〇四、〇九	一、〇四、〇九	
政府ヨリ補助ヲ受ケルモノ	九、四七、九七	四、三三、一三	六、〇、五三	四、一〇、〇〇	四、〇、〇〇	一、〇、〇〇	
土人州ノ鐵道ニシテ私立會社ノ運用スルモノ	七、一一、三三	四、七七、七三	四、一〇、〇〇	四、一〇、〇〇	三、一、〇〇	一、〇、〇〇	
土人州ノ鐵道ニシテ政府ノ運用スルモノ	二〇、一、六六	七、六、〇七	一、一、〇七	一、一、〇七	一、一、〇七	一、一、〇七	
一九〇七年中合計	一六、〇八、七〇	一八、三、七、〇〇	三、八、三、三三	三、八、三、三三	一、一、〇、〇〇	二、七、二、三三	百分ノ六、八
一九〇六年中合計	一五、七、五、〇〇	一七、四、八、八、七	三、四、六、三、七	三、四、六、三、七	一〇、七、五、〇〇	二、七、二、三三	

三呎三吋八分ノ三軌道

種類	種	一九〇七年十二月三十一日マテニ開通シタル延長	一九〇七年十二月三十一日マテニ投資シタル資本	總收入	總支出	差引利益	資本ニ對スル利益割合
官有ニシテ私立會社ノ運用スルモノ	七、六、〇九	五、五、一三	五、七〇、四七	七、〇、〇〇	三、一、〇、一三	三、八、九、八七	
官有ニシテ政府ノ運用スルモノ	七、六、一四	五、〇三、八七	五、七〇、四七	四、八、七	三、七、七三	一、一、〇、一三	
地方鐵道	一〇、一、〇六	三、九、五、四	四、八、七	四、八、七	三、七、七三	一、一、〇、一三	
政府ヨリ補助ヲ受ケルモノ	一、五、七、五	七、三、九、三三	八、六、一、七三	八、六、一、七三	四、〇、〇〇	四、六、一、七三	

土人州ノ鐵道ニシテ私立 會社ノ運用スルモノ	八〇、六	三、五二、三	三九、四六	一、五、一〇〇	一、六、二、三
土人州ノ鐵道ニシテ政府 ノ運用スルモノ	一、三〇、五	三、一〇、〇	四一、八七	一、九、八七	二、八、〇〇〇
外國領地ノ鐵道	七、六〇	一、一七、八〇〇	五、七、三	三、三、七	二、四、四
一九〇七年中合計	三、五八、六	七、八三、八	八、一五、九	四、三九、三	二、八、〇〇〇
一九〇六年中合計	三、一四、五	六、四、五	七、六、六	四、三、六	三、五、〇〇〇

二呎六吋及二呎軌道

官有ニシテ私立會社ノ運 用スルモノ	四三、三	一、三、五	八、八七	五、〇〇〇	三、〇七
官有ニシテ政府ノ運用ス ルモノ	九、一九	一、四、三	七、四七	五、三三	三、一三
政府ヨリ補助ヲ受ケルモ ノ	三、六、六	一、一、六	一、七、八〇〇	九、四、〇〇	六、一、三
政府ヨリ補助ヲ受ケサル モノ	三、二、七	七、七、三	七、二、七	四、八、七	二、一、〇〇
土人州ノ鐵道ニシテ私立 會社ノ運用スルモノ	三、二、四	三、二、〇	六、九、三	三、〇〇〇	三、九、三
土人州ノ鐵道ニシテ政府 ノ運用スルモノ	三、三、〇	一、〇、四	一、一、六〇〇	四、六、七	六、九、三
土人州ノ鐵道ニシテ土人 州ノ運用スルモノ	三、三、七	一、〇、七	六、五、三	三、一、〇〇	三、一、三
一九〇七年中合計	一、一、二、四	四、九、九	四、八、四	三、三、七	一、七、八〇〇
一九〇六年中合計	一、一、七、八	四、〇、三	二、六、六	一、三、〇	一、四、三
一九〇七年 全鐵道 總計	三、〇、五	二、五、〇	三、三、四	一、六、一	二、一、一
一九〇六年 全鐵道 總計	二、九、九	二、四、五	二、九、一	一、四、七	一、五、九

右兩年中、全鐵道ヲ通過シタル貨物及ヒ旅客數ハ左ノ如シ。

一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
旅客數	旅客數
二七一、〇六三、一〇〇人	三〇七、五八四、七〇〇人

貨物噸數

一九〇七年末ニ建設中ノ鐵道ハ左ノ如シ。	五八、八六九、〇〇〇噸	六九、五九三、〇〇〇噸
五呎六吋軌道	一、二〇〇、四三	
三呎三吋八分ノ三軌道	九八三、四四	
二呎六吋及二呎軌道	四八五、九三	
合計	二、六六九、八〇	

而シテ同年末マテニ許可セラレタル鐵道ハ三百六十哩八十五鎖也ト云フ。殊ニ注目スヘキハ緬甸雲南間ノ鐵道ニシテ、緬甸、「イラワデー」河ノ上流ナル「バモ」ヨリ支那雲南州ノ大理へ通スル鐵道ナリ、是レ日清戰爭後佛國カ佛領東京ヨリ雲南ニ通スル鐵道ヲ企畫シ既ニ開通タルヲ以テ、之レニ對抗シテ支那トノ交通ヲ開カントスルモノナルヘク、未タ起工ノ運ニ至ラサレトモ、近時調査シタル所ニ據レハ延長四百哩ニシテ約五千萬圓ノ資本ヲ要スヘシト云フ。若シ此ノ鐵道ニシテ竣工セハ、緬甸ト支那トノ交通ニ多大ノ便益ヲ與フルニ至ルヘシ。是等鐵道事業ノ改良策トシテ現時印度政府ノ執レル方法ハ、從來ノ顧問技師ヲ設ケタル鐵道ハ之レヲ廢シテ鐵道局ノ直轄トナシ調停局ヲ設ケテ、

- 一 鐵道使用人ノ給料ニ就キ増減ヲ要スルヤ或ハ
 - 二 定時間外ト休日ノ勞働ニ對シ餘分ノ給料ヲ支拂フヘキヤ又ハ
 - 三 現行鐵道規則ノ改良ヲ要スルヤ如何
- ヲ研究シテ同盟罷工ヲ防キ又印度鐵道協會ヲ設ケテ運賃率其他鐵道ニ關スル諸般ノ事項ヲ講究シツ、アリトス

第五章 農業ト飢饉救濟策

印度ハ農業國也、唯一ノ産業ハ農業也、無慮三億ヲ算スル住民ノ大多數ハ直接間接ニ農業ニ依リ生活シツ、アル也。統計ニ據レハ英領地ニ於ケル農業者ノ人口ニ對スル比ハ一八九一年ニ百分ノ六十二ナリシニ、一九〇一年ニハ百分ノ六十八ニ上リ、土人ノ州ニ於ケル兩年ノ比ハ百分ノ五十七ヨリ百分ノ六十二ニ達シタリキ。而シテ印度全體ニ就キ農業者ノ數ヲ檢スレハ、一八九一年ニハ總人口二億八千七百萬人ニシテ、農業及牧畜業者ノ數ハ一億九千六百萬トナリ、印度ノ農業ハ著シク進歩シツツアリトス。

今氣候ト收穫物トノ關係ヲ述フレハ、北部印度ハ十月ヨリ翌年四月ニ至ルマテ、約半年間ノ氣候ハ、暑氣烈シカラステ温帶產物ヲ耕作スルニ適シ、夏期ニ在リテハ熱帶產物ノ耕作ニ適ス。故ニ其生産物ノ種類ハ頗ル饒多也。北部印度ハ六月末又ハ七月初旬雨期ニ入り、收穫期ハ二、三月頃ナリ、五、六月ノ候ハ空氣乾燥シ氣候酷熱ヲ極メ農耕ヲ爲スヲ得ス、六、七月ノ西南風ニ由リ雨量ノ來ルヲ待チテ耕作ニ着手スルヲ以テ、雨期ハ重大ナル關係ヲ有ス、若シ氣候風ニシテ適順ヲ得サレハ直チニ旱魃トナリ、飢饉トナリ恐ルヘキ災厄ヲ蒙ルヲ免カレス、若シ適順ナレハ七月初旬ヨリ孟買州並ニ「ベンゴール」州ノ沿岸ハ雨期ニ入り、漸次北部ニ進行シ約二週間ニシテ印度全部ハ降雨トナリ、氾濫ヲ呈スルニ至ル。而シテ土地濕潤トナレハ夏及冬ノ收穫物ヲ播種ス。此季節ハ米ノ耕作ニ適シ、「ベンゴール」州、「マドラス」州、孟買州及緬甸州等ノ低地ニシテ濕潤ナル地方、若クハ灌溉ノ容易ナル地方ニ栽培セラル。世人往々印度ト云ヘハ直チニ米食ヲナス者ト解ストイヘトモ、實際ニ於テハ米ハ概シテ贅養食料品ニシテ米産地住民ノ需用ニ供セラレ、米産地以外ノ地方住民ハ小麥、大麥、稷及ヒ豆類ヲ常食トス。稷及豆類ハ南部印度ニテハ冬ノ乾燥期ニ耕作シ、北部印度ニ在テハ夏ノ濕潤季ニ收穫ス。甘蔗糖モ亦重要ナル產物ニシテ主トシテ夏ノ濕潤季ニ生長シ、玉蜀黍及棉花ノ如キモ此ノ季節ニ栽培ス。北部印度ハ九月末ニ至リ雨期終了シ、十月ニ入りテ秋ノ收穫物ヲ採リ、十一月ニ至リ雨止ミ乾燥期ニ入りテ冬期トナリ、温帶產物ヲ得ルニ適ス、其後些少ノ雨季アリ是レ春ノ收穫物ニ必要ナル季節ナリ。

春ノ收穫物ハ北部印度ニ於ケル主要ナル農産物ニシテ、即チ大麥及ヒ小麥ナリ、後者ハ數年來英國へ輸出シ現時重要ナル農産物也。將來交通ノ發達シテ、運賃ノ輕減セラル、ニ至ラハ一層ノ進歩ヲ促スニ至ルヘシト云フ。中央印度、孟買州及ヒ北部「デッカ」地方ニ在テハ小麥ハ重要ナル農産物ニシテ、主トシテ富者ノ常食ニ供シ、大麥ハ小麥ヲ食スル能ハサル下級民ニ用ヒラル。豆類、煙草、阿片、亞麻仁及芥類ハ多クハ此季節ニ産シ冬ノ收穫物ハ主トシテ三、四月ノ候ニ收穫セラル。要スルニ夏ノ收穫物ハ印度住民ノ需用ニ供シ、冬ノ收穫物ハ輸出ニ適スルモノト云フヘシ。

耕作方法ハ極メテ簡單、極メテ幼稚也。其農具ハ幾千年來使用シタルモノニシテ、偶々大地主ノ新式農具ヲ用ヒツ、アル者ナキニアラサレトモ、未タ全ク普ク使用セラル、ニ至ラス。印度ノ如キ農業國ニシテ、新式農具ヲ使用セサルハ太々奇異ノ感アリト雖、此ノ如キ人口過剰ニシテ貧民多キ國ニ在テハ、新式農具モ効用ヲナサ、ルモノナルヘシ。今其原因トスル所ヲ聞クニ、土人カ新式耕作法ヲ好マサルト共ニ、新式農具ヲ輸入スルニ至ラハ貧シキ農民ノ職業ヲ奪フヲ以テ之ヲ實行セスト云フ。然レトモ時勢ノ進歩ハ從來ノ如ク土人ノ經營ニ放任スルヲ許サス、近年印度政府ハ銳意農事ノ改良ヲ圖リツ、アルヲ見ル。今其振農策ノ主要ナルモノヲ擧クレハ

- 一、農事ノ改良ヲ計ルコト、
- 二、共同信用組合 (Co-Operative Credit Societies) ヲ設クルコト、
- 三、灌溉ノ設備ヲ完フスルコト、
- ノ三ト云フヲ得ヘシ。

(一) 從來印度ノ農業事務ハ土地記録局ノ一部ニ設ケラレシカ、一九〇五年ニ至リ主要ナル各州ニハ獨立ノ農務局ヲ設ケ、其附屬事業トシテ農事試驗所及農學校ヲ設立シ、歐洲文明國ノ科學ヲ印度ノ農業ニ應用シテ、一層組織的ニ改良ヲ計ラントシテ着々實効ヲ收メツ、アリトス。即チ現時「ベンゴール」州ニ在テハ「ブサ」ニ中央農事試驗所ト農學校ノアルアリ、其他

五ヶ所ノ農事試験所ヲ設ケテ米、砂糖、小麥、黃麻、稷及ヒ豆類等、各地ノ生産物ヲ試験シツ、アリ。合併州ニ在ツテハ一ノ農學校ト十ノ農事試験所アリ、孟買州ニハ十三ノ農事試験所アリ、其他漸次各州ニモ農學校ト農事試験所ヲ設立スヘシト云フ。

(二) 印度ハ農業概シテ小地主ノ經營スル所ナレハ之レニ要スル資本モ少額ニシテ、其資金ハ小資本家即チ所謂金貸業者ノ給スル所也。故ニ印度ノ農業者ハ概シテ諸外國ト同シク借金ニ依リ經營スルモノナリ。然ルニ近來土地ノ價格騰貴シ其担保價格ノ上進シタル結果トシテ、農業者ハ必要ナキ負債ヲ爲スニ至リシト共ニ、担保價格ノ上進ハ投資ニ對スル利益ヲ收ムルヲ得ス、加フルニ金貸業者カ農民ノ無智ナルニ乘シ、常ニ金利引上策ヲ講スルニヨリ農業ノ發達ヲ阻害シタリ。此ノ信用範圍ノ増大シタル結果トシテ、其土地ハ讓渡セラレ、又ハ抵當流レトナリ、遂ニ農業ヲ目的トセス、唯、一時ノ利益ヲ計ルニ汲々タル金貸業者ノ掌中ニ握ラル、ニ至リタルモノ尠カラス。故ニ印度政府ハ此ノ弊害ヲ除去スル手段トシテ共同信用組合法ヲ設ケ、農業者カ利益ヲ擧クルニ必要ナル範圍ニ於テ資金ヲ得ルニ止メ、其以外ニ資金ヲ得ルヲ得サラシメ、以テ其財産ヲ奪取セラル、憂無カラシムルト共ニ、他方ニ從來印度ノ習慣タル金貸業者カ、獨占的ニ金融ヲナシ高利ヲ食リタルヲ防キ好結果ヲ奏シツ、アリトス。共同信用組合ハ之ヲ分チテ中央、市町及ヒ村ノ三トシ、中央組合ハ村落ニ於ケル小組合ノ代表者ヲ會員トシテ組織シ、各小組合ノ爲メニ債券ヲ發行シ預金事務ヲ取扱ヒ、而シテ得タル利益ハ之ヲ積立金トシテ貯藏シ、其聯合組合カ不幸ニシテ債務ヲ負ヒタル場合ニ之ヲ救済ス。但シ專業ノ經營宜シキヲ得スシテ失敗シタルモノハ此限リニアラス。村落ノ信用組合ハ無限責任ニシテ、株券ヲ以テ資本トセス、市町ノ信用組合ハ有限責任也。蓋シ前者ハ各小農者間ニ密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ無限責任トシ、後者ハ相互ノ關係密接ナラサルヲ以テ有限責任ト定メタルモノ也。是等共同信用組合ノ金利ハ金貸業者ニ比シ頗ル低率ナルヲ以テ、之カ實施ハ金貸業者ニ少ナカラサル打撃ヲ與ヘタリ。左ニ掲クル表ハ兩者金利ノ比較ニシテ金貸業者ノ金利ハ十分ノ擔保ヲ供シタル場合ニシテ、個人信用貸ノ場合ニハ百分ノ四十乃至百分ノ百七十五ノ高率トナルト云フ。

分ノ四十乃至百分ノ百七十五ノ高率トナルト云フ。

地 區 名	金 貸 業 者	共 同 信 用 組 合	
	十分ナル擔保ニ對スル貸金ノ金利一年百分比	各組合員ノ債務ニ對スル金利一年百分比	各組合員ノ預金ニ對スル金利一年百分比
マドラス州	十二乃至十五大債務ハ九	九、	七、
孟買州	十二乃至十五	九、八分ノ三	六、四分ノ一
孟買州	十五以上富豪ノ債務ハ六	六、四分ノ一	三、乃至四
孟買州	十八乃至二十五	九、八分ノ三乃至十二	七、
孟買州	十八乃至二十五	十二、二分ノ一	六ヶ月以上六、四分ノ一
孟買州	十八乃至三十七、二分ノ一	十二、二分ノ一	六ヶ月以下三、八分ノ一
東部	十八乃至三十七、二分ノ一	九、乃至九、八分ノ三	五、
中部	十八乃至二十四	十二、二分ノ一	六、四分ノ一
中部	十二乃至十八	十二、二分ノ一	六、四分ノ一
中部	三十七、二分ノ一	十二、二分ノ一	六、四分ノ一
中部	毎月二、乃至五	十五、	九、
中部	十二、	十二、	九、

一九〇七年(明治四十年)六月三十日マテニ登記セラレタル共同信用組合ハ總計八百四十六、會員數九萬一千三百四十三ニ達シ、其内中央組合ハ十四、市町組合ハ八十九、村落組合ハ七百四十三ニシテ其進歩著シキモノアリ。今一九〇五年(明治三十八年)三月ニ登記セラレタルモノヲ見ルニ中央組合ハ九、市町組合ハ三十七、村落組合ハ二百三十七ニシテ總會員數ハ二萬八千六百二十九ナリ。

(三) 灌溉ノ目的ハ言フ迄モナク、人工ヲ以テ水利ヲ便ニシ天然ノ雨量ヲ補フニ在リ、印度ニ於テハ太古ヨリ灌溉法ヲ行ヒタリ、蓋シ風土ノ關係上自ラ之カ發達ヲ促シタルモノニシテ、「シンド」或ハ西南「パンジャブ」州ノ如キ荒蕪地ハ雨量殆ト皆

無ニシテ、灌溉ヲ施スニアラスンハ耕地トナスヲ得ス。又「デツカン」高原地方ノ如キハ雨量一定セシテ往々旱魃ヲ免カ
 レス。且又「ヒマラヤ」山麓附近ハ雨量ノ不足ヲ來スコト稀ナレトモ、土人ハ簡單ナル灌溉法ヲ設ケ收穫ノ増加ヲ計リ。或
 ハ米産地方ノ如キハ雨量乏シカラサルモ、氣候適順ヲ得サル場合ノ準備トシテ灌溉法ヲ設ケサレハ收穫ノ安全ヲ期待シ難
 シ。要スルニ、印度ノ農産物ハ多大ノ助力ヲ灌溉ニ仰キツ、アリトス。但シ「ベンゴール」「アッサム」下緬甸ノ如キ一年ノ
 平均雨量七十吋以下ニ降ラサル地方ハ、人工的保護ヲ要セスト云フ。灌溉方法ハ昇揚法、貯藏法、河川法ノ三ニシテ井戸、
 貯水槽及運河ニ由ルモノニ區別シ得ヘシ。然レトモ是等三者ヲ併用スル例少ナシトセス。井戸又ハ貯水槽ヲ以テスル方法
 ハ專ラ南部印度ニ行ハレ、現時「マドラス」州中ニハ六萬ノ貯水槽アリ、是等ノ多クハ土人ノ設計シタルモノニシテ印度政
 府カ修理シ改良ヲ加ヘタル者也ト云フ。運河ニ由ルモノハ其規模宏大ニシテ「アグラ」及「オウヅ」ノ合併州、「バンヂャブ」
 州、其他「マドラス」ノ河川流域地方等ニテハ其成績顯著ナルモノアリト云フ。英國政府ハ是等ノ灌溉事業ヲ財政上ヨリ區
 別シテ大設計、小設計ノ二トナス、即チ前者ハ國債ヲ以テ資金トシタルモノニシテ、得タル利益ハ投シタル資金ノ利息ヲ
 償フヲ得ル見込アル者、並ニ飢饉救済ノ目的ヲ以テ設計シタルモノニシテ、其資金ハ債務ナラサルモ飢饉救済トシテ歳入
 ヨリ支出スルモノヲ云ヒ。後者ハ通常歳入ヨリ支出スルモノニシテ、其事業ト資金ハ歳出ニ豫算科目ヲ設ケサルモノヲ云
 フ。故ニ其名ハ大小ト稱スト雖其實ハ規模ノ大小ヲ云フニアラス、只前者ハ比較的規模大ニシテ、主トシテ機械力ヲ用ユ
 ルノ差アル已也。左ニ掲クル表ハ最近三ヶ年間ノ灌溉用運河ノ結果ヲ示スモノトス。

大 設 計	直接間接二年未迄 ニ投シタル資本		總 收 入	總 支 出	差 引 利 益	利 益 ノ 投 資 ニ 對 ス ル 割 合 百 分 比	灌 溉 面 積
	磅	圓					
大 設 計	29,079,555	3,323,877	3,323,877	1,038,885	2,284,992	8.2	(エーカー) 3,355,155
小 設 計	1,150,032	77,899	77,899	25,399	52,500	5.6	2,488,959

一 九 〇 六 一 〇 七 年 合 計	一 九 〇 五 一 〇 六 年 合 計	一 九 〇 四 一 〇 五 年 合 計	三三,三九,六六四	三,七二,七六六	一,二九,一五二	二,四八,五七四	七.七	一五,七九,五八八
一 九 〇 六 一 〇 七 年 合 計	九〇,五一〇,〇六	三三,〇四〇,三三〇	三,七二,七六六	三,三二〇,〇七七	一,一四,〇〇〇	二,一〇六,〇七七	六.四	一六,八五,〇七〇
一 九 〇 五 一 〇 六 年 合 計	九〇,四一〇,〇五	三三,〇七九,六一〇	三,七二,七六六	三,三二〇,〇七七	一,一四,〇〇〇	二,一〇六,〇七七	六.四	一六,八五,〇七〇

右灌溉料金ハ土地ノ事情並ニ收穫物ノ如何ニ由リ一定セス。譬ヘハ「ブーナ」ニ於ケル甘蔗耕地ノ如キハ「エーカー」ニ付
 五十留比ニシテ、「ムサ」運河ハ「エーカー」ニ付十二留比乃至四十留比、「デツカン」高原地方ハ十留比乃至二十五留比、
 「バンヂャブ」ノ如キハ「エーカー」ニ付三留比四安乃至七留比ナルカ如シ。而シテ是等灌溉事業ノ効果ハ地味風土ノ如
 何、水利ノ便、不便並ニ住民ノ習慣等ノ關係ニ從ヒ同シカラスト雖、概シテ好良ナリシヲ見 即チ一八九七―九八年ヨ
 リ一九〇一―〇二年ニ至ル五年間平均ニテ、「バンヂャブ」州ニ於ケル灌溉地ノ米收穫高ハ、「エーカー」ニ付千二百二十六
 英斤ニシテ、未灌溉地ハ七百三十四英斤、合併州ニ於ケル棉花ハ「エーカー」ニ付百九十英斤ト百三十英斤ノ比、北西境
 州ノ棉花ハ百八十三英斤ト七十二英斤ノ比、又中央州ニ於ケル小麥ノ產出高ハ九百二十五英斤ト、五百七十英斤ノ比ナリ
 ト云フニ徴シ灌溉ノ價值ヲ知ルヘシ。

運河ト灌溉ハ、共ニ運輸ノ便ヲ開キ得ル場合尠ナカラスシテ兩者ハ密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ、若シ河川ニシテ航行シ得
 ヘキモノナレハ、灌溉、運輸ノ兩目的ヲ以テ、十分之カ利用ヲ計リ得ヘシ、然レトモ運河ニシテ大都會又ハ商業ノ中心市
 場ヲ通過セス、或ハ水路ニシテ海港ニ通セス、又ハ生産物ニ乏シキ地方ヲ通過スル場合ニハ、運輸ノ目的ヲ以テ之ヲ利
 用スル能ハサルヲ以テ、單ニ運輸ノ目的ノミニ設ケラレタル運河モ尠ナシトセサル也。左ニ掲クル表ハ灌溉ノ目的ヲ以テ
 設ケラレタル運河ニシテ、併セテ運輸ノ便アルモノトス。

種 類	地 區 名	運 河 名	航 行 得 へ 延 長 哩 數	運 河 ノ 總 延 長
緬甸	甸	シウエタチャン	二四	二〇四

「ベンゴール」	オ	二〇五	合 計	二、七七八
	ソ	二一八		一、八五八
合 併 州	ミ	七二	運 河 名	哩 數
	ド	二一八		
「バンヂャプ」	ガ	二一三	下 緬 甸	合 計
	下	一九九		
「マドラス」	ア	二二五	「ベンゴール」	八六九
	西	一八九		
「シンド」	サ	二四三	「マドラス」	二九七
	東	一八〇		
合 計	ゴ	四九三	「マドラス」	二九七
	キ	三〇七		
「シンド」	ク	一九〇	「マドラス」	二九七
	フ	一八〇		
合 計	ナ	一、六七〇	「マドラス」	二九七
	レ	一、八〇〇		
合 計	ナ	一、四八三	「マドラス」	二九七
	ラ	四、四八二		
合 計	ナ	一、四八三	「マドラス」	二九七
	ラ	四、四八二		

此表ニ由テ觀レハ、印度ニ於ケル灌漑用運河ノ四分ノ一ハ運輸ノ利便ヲ有ス。左ニ掲クル表ハ運輸用ノミノ運河トス。

「マドラス」	二六二	二九七
「ベンゴール」	三五	二九七
「マドラス」	二六二	二九七
「ベンゴール」	三五	二九七

是等ノ運河ハ鹹味ヲ含ムヲ以テ灌漑用トナスヲ得スト云フ。印度ニ於ケル運河ノ多クハ通過税ヲ徴收ス、其率ハ土地ニ由リ一定セス。譬ヘハ、北部地方ニ在テハ航行ノ延長ニ關セス毎月又ハ一年ニ四回宛、舟ノ大小ニ從ヒ課税シ、「マドラス」ニテハ無税、緬甸ニテハ粉米ヲ秤量シタル籠ニテ舟ノ積量ヲ定メテ課税ス、「ベンゴール」ニテハ航路ノ延長ニ由リ課税ス、即チ舟ノ噸數ニ從ヒ一噸ニ付七厘乃至九厘ヲ課税スト云フ。

印度ニ於ケル灌漑用運河ノ大部分ヲ利用シ、運輸ノ便ヲ開カントシテ種々研究スル所アリシガ、運河ノ目的タル主トシテ灌漑ニ在ルヲ以テ運輸用トシテ適當ナラス、若シ運輸ノ目的モ併セ達セントスルトキハ多クノ場合、收支相償フニ至ラス。即チ運河ハ農業保護トシテ價值アル事業ナレトモ、運輸交通ノ機關トシテハ一小區域ノ利便ヲ計ルニ過キスシテ其効用僅少ナリシトイフ。又飢饉救済ノ手段トシテ灌漑ト鐵道ト兩者ノ得失ヲ論スル者尠ナカラサリシカ、實驗ニ據レハ鐵道ハ運河ノ如ク食料ヲ供給スル能ハサレトモ、生産過剩地ノ產物ヲ不足地ヘ輸送スルノ便ヲ有スルト共ニ、灌漑工事ヲ施ス能ハサル地方ノ飢饉ニ際シテハ、迅速食料品ヲ供給スルト同時ニ、食料品價格ノ暴騰ヲ防クヲ得ルアリ、其他灌漑地ノ農產物ヲ分配スルノ利益等ヲ列舉シ來ラハ、鐵道ハ灌漑以上ノ利益アリト云フ可ク、灌漑ハ鐵道ノ便ヲ得テ十分ニ農業保護ノ目的ヲ達シ得ヘク、兩者ハ相互唇齒輔車ノ關係ヲ有スルモノナルコトヲ確メ得タリト云フ。

今印度ニ於ケル飢饉ト、之カ救済策ニ就キ述ヘントス。

前述ノ如ク印度人口ノ約七割ハ農業ニ從事シ、多クハ其日暮シノ生活ヲナシ貯蓄餘財ノアルニアラサルヲ以テ、不幸ニシテ一朝氣候風ノ不順ニ際スレハ、直ニ飢饉ノ悲境ニ陥ルヲ免カレス。通常氣候風ハ規則正シク來レトモ偶々變化ヲ來ス場合少ナシトセス、今年起リタル飢饉ノ著シキモノヲ舉クレハ、一八七六―八年中ニ起リタル南部印度ノ被害ヲ始メトシ、次ハ

一八九六—七年及ヒ一八九九—九〇〇年ノ三回トス。就中最後ノ飢饉ハ其損害最モ激シク、中央州ヨリ「ベンゴール」、孟買、「アジュマール」、「バンチャブ」、「バロダ」、中央印度、「ハイドラバット」及ヒ「アシアワー」ノ各州ニ至リ、被害面積ハ四十七萬五千平方哩ニ上リタリキ。一九〇四年ハ印度全體ヲ通シテ、雨量殆ント皆無ニシテ秋ノ收穫ハ不結果トナリ、一九〇〇年七月末ニ救助ヲ要スル人員ハ、六百五十萬人以上、餓死者ハ百萬人以上ニ達シタリト云フ。近時印度政府ハ一方ニ亞弗利加、亞刺比亞、其他ノ島嶼ニ氣象臺ヲ設ケテ氣象ノ觀測ヲナシテ報告シ、數月前ヨリ收穫ノ豊凶ヲ豫想シ得ルコトヲ努メ、他方ニハ農事ノ改良其他ノ方法ニヨリ飢饉救濟策ヲ講シツ、アリトス。但シ飢饉救濟策ハ即チ農業振興策ト云フヲ得ヘキモ、亦多少ノ區別アルヲ以テ爰ニ飢饉救濟策ト見ルヘキ要點ヲ摘記スレハ左ノ如シ。

- 一、灌溉工事ヲ起シテ耕地ノ擴張ヲ計ルト共ニ、人口稀薄ノ地ヘ移轉セシメテ人口ヲ平均スルコト。
 - 二、鐵道ヲ建設シ又ハ交通機關ヲ設備シ以テ、食料品ノ輸送ヲ便ナラシムルコト。
 - 三、富源ヲ啓發スルコト、即チ鑛業、林業、漁業、其他ノ事業ニシテ未タ世人ノ熟知セサル事業ヲ企畫スルコト。
 - 四、人民ヲシテ勤儉貯蓄ヲ爲サシムルコト。即チ郵便貯金制度。其他ノ方法ヲ講シテ之ヲ獎勵シツ、アリトス。
- 其他前述ノ如ク農學校、農事試驗所、共同信用組合ノ設立ノ如キ、或ハ利息法ヲ改正シテ農業者ノ利益ヲ計リ、或ハ各州ニ州債ヲ發行スルコトヲ許可シテ、土地ノ改良ト種子及ヒ牛ノ購入資金ニ對シ低利ノ貸付金ヲ爲シ、農事ノ振興ヲ計リツ、アリトス、左ニ掲クル表ハ最近印度政府ノ調査ニ係ル主要ナル農産物ノ耕地面積トス。

一九〇五—〇六年中ノ主要ナル農産物收穫面積(土人ノ州ヲ除ク)

(但シ收穫面積ナレハ二回以上ノ收穫面積ヲ含ムカ故ニ實際ノ面積ハ最後ニ示シタル差引面積ナリ)

米	七三、三二〇、〇〇〇
小 麥	二二、四〇二、〇〇〇

大 麥	七、三二七、〇〇〇
稷	二〇、七〇三、〇〇〇
全 全	一一、五〇四、〇〇〇
全	三、三八五、〇〇〇
玉 蜀 黍	五、七八六、〇〇〇
豆 類	一一、〇二四、〇〇〇
其他食料穀物及豆類	二七、九五六、〇〇〇
食料穀物合計	一八三、三九八、〇〇〇
油 種 子 類	一一、四八六、〇〇〇
砂 糖	二、四一三、〇〇〇
棉 花	一三、〇九二、〇〇〇
黃麻及其ノ纖維植物	三、七九二、〇〇〇
阿 片	六五四、〇〇〇
茶 及 珈 琲	六〇七、〇〇〇
煙 草	一、〇一八、〇〇〇
糧 秣	三、九四〇、〇〇〇
果 物 類	三、九一七、〇〇〇

其他	食料	三、〇九〇、〇〇〇
其他	食料ナラサルモノ	二、二六五、〇〇〇
總收穫面積		一三八、〇四〇、〇〇〇
一回以上收穫地		三〇、五三五、〇〇〇
差引面積		二〇七、五〇五、〇〇〇

第六章 鑛業

鑛業ハ未タ幼稚ノ域ヲ脱セスト雖、近年石炭及滿俺ノ産出ハ著シク發達シ、石炭ハ新嘉坡市場ニテ本邦炭ト競争ヲ爲シ滿俺鑛ノ産出ハ世界ノ第二位ヲ占ムルニ至リタリ、今最近ノ調査ニ係ル鑛物ノ産出額ヲ示セハ左ノ如シ。

品名	一九〇五年	一九〇六年
金	二、四一六、九七一	二、三三〇、二八四
石炭	一、四一九、四四三	一、九一二、〇四二
石油	六〇四、二〇三	五七四、二三八
鹽	四四一、三九二	四二〇、九一〇
硝石	二三五、七二三	二七〇、五四七
滿俺	二四八、三〇九	四三五、二六八
雲母	一四二、〇〇八	二五九、五四四
紅寶石其他ノ寶石	八八、三四〇	九六、八六七

其他ノ鑛物	九三、四六九	一一三、一二七
合計	五、六八九、九四八	六、三二二、八一八

是等ノ中、輸出貿易上必要ナルハ、前述ノ石炭ト滿俺ノ二也。今其産出並ニ分配ノ狀況ヲ述フレハ、印度國內石炭ノ消費ハ内國産九割七分、輸入炭三分ノ割合ニシテ一九〇四—〇五年ヨリ、一九〇六—〇七年ニ至ル三年平均一年間ノ國內消費高ハ左ノ如シト云フ。

鐵道	二、七〇〇、〇〇〇
船舶燃料	一、〇〇〇、〇〇〇
沿海航路船用	四五〇、〇〇〇
黃麻紡績所	五〇〇、〇〇〇
綿糸紡績所	六一〇、〇〇〇
其他ノ消費	二、九六五、〇〇〇

而シテ一九〇七年ノ産出概算ハ約一千萬噸ニシテ、輸出先ハ錫蘭、新嘉坡及ヒ香港ナリトス、坑山渡シノ價格ハ一八八〇年ニ一噸ニ付三留比六安(約二圓二十錢)ヨリ、一九〇六年ニハ二留比十五安(約一圓九十二錢)ノ平均ニシテ、世界無比ノ低價ナリ、蓋シ印度ノ石炭坑ハ、地ノ表面ヲ採掘シツ、アルヲ以テ經費ヲ要セサルト、勞銀ノ低廉ナルニ由ルモノニシテ、若シ採炭方法ニシテ改良セラレ、輸送賃銀ニシテ輕減セラレン乎、將來一層ノ發達ヲ促スニ至ルヘシ。唯印度炭ノ缺點ハ品質ノ優勝ナラサルコトニシテ、其優等品ト稱スルモノニテモ、本邦九州二等炭ト同品位ニ過キス。

採掘方法ハ未タ十分ノ改良ヲ加フルニ至ラサレトモ、輸送賃ハ漸次輕減セラル、ヲ見ル。即チ從來一千哩以上ノ鐵道ニ依ル石炭輸送賃ハ、一噸ニ付十四留比三安ナリシカ、一九〇六年十一月十五日以來、九留比十三安ニ減シタリ、其結果トシテ國

内消費ト海外輸出ヲ増進シタリ。現時ベンゴール地方ノ採炭會社ノ如キハ最低一割ヨリ最高四割ノ配當ヲ爲シ、石炭業ハ印度産業中最有利ナルモノトナレリ。因ニ一九〇六年中印度石炭坑ニ於ケル平均一日ノ使用労働者數ハ十萬人ニシテ、其内男子ハ三分ノ二ヲ占ムト云フ。

印度ニ於ケル滿俺ノ採掘ハ極メテ最近ノ事業ニ屬シ、約十五年前マドラス州ノ北方ビジャナグラムニテ始メテ之レカ採掘ヲ爲シ爾來斯業ノ發達著シク、中央州及ヒ中央印度ニテ盛シニ採掘セラル、ニ至リタリ。採掘ハ地ノ表面ニシテ手工的ニ採取ス一九〇五年中ノ一日平均労働者數ハ六千八百十一人ナリシカ、一九〇六年ニハ一萬二千六百七人ニ増進シタリ。採取シタル滿俺ハ鑽石ニテ英、獨及白耳義へ輸出ス。印度ノ滿俺鑛ハ品質優勝ニシテ、一九〇六年ニハ世界需用ノ約半額ヲ供給シタリト云フ。今近年ノ產出量ヲ示セハ左ノ如シ。

一八九八年	六〇、四四九 ^噸
一九〇一年	一二〇、八九一
一九〇四年	一五〇、二九七
一九〇五年	二五三、九三六
一九〇六年	四九五、七二九

次ニ輸出貿易ト關係少ナシト雖モ、印度鑛業中將來發達ヲ呈スヘキモノハ石油ト鐵ニシテ、就中石油ノ產出ハ印度鑛產品中類例無キ進歩ヲ呈シツ、アリ。即チ一八九四年ノ產出額ハ千五百五十萬「ガロン」ナリシニ、一九〇三年ニハ八千八百萬「ガロン」ニ上リ、一九〇六年ニハ一億四千萬「ガロン」ニ増進シタリ。主ナル產地ハ緬甸及東部ベンゴールアツサムニシテ、產地ニ於ケル價格ハ原油「ガロン」ニ付平均一安(約四錢)也ト云フ。然レトモ其產出額ハ國內ノ需用ヲ充スニ足ラスシテ、北米合衆國、「スマトラ」及露國ヨリ供給ヲ仰キツ、アリトス。

鐵ノ產出ハ微々タルモノニシテ、一九〇五年ニハ十萬二千噸、一九〇六年ニハ七萬四千噸ニシテ、多クハ歐洲式ヲ以テ經營シツ、アルベンゴール州ノ「バラカー」製鐵所(資本金約二百五十萬圓)ノ製出ニ係リ。一九〇六年中同製鐵所ノ產出額ハ六萬九千三百九十七噸ニシテ、價格ハ一噸ニ付英貨二志一片ナリト云フ。其他小規模ナル製鐵所ノ數漸次増加シ、一九〇五年ニ二百七十九ナリシニ、一九〇六年ニハ三百七十九ナリ、製鐵所全體ノ職工一日ノ使用數ハ、一九〇五年ニ二千〇六十人ニシテ、一九〇六年ニハ三千二百六十九人ヲ算シタリキ。殊ニ注目スヘキハ「タ、ー」氏ノ計畫シツ、アル製鐵所ニシテ調査費二十萬圓ヲ投シテ研究シタル結果トシテ斯業ノ有望ナルヲ認め、資本金一千萬留比ヲ以テ現時中央洲ノベンゴールナクパー鐵道ノ接合點ニ近キ所ニ於テ工場ヲ建設シツ、アリトス。

一九〇一年制定ノ鑛業條例ニ依リ登録セラレタル鑛山數ハ、一九〇六年ニ七百四十八ヲ算シ、其内三百八十八石炭鑛ニシテ、主トシテベンゴール州ニ在リ、總労働者ノ數ハ一日平均十二萬八千六百六十六ニシテ、其内男八萬三千五十三人、女三萬九千五百八十二人、十二歳以上ノ少年千四百二十人ナリト云フ。

要スルニ印度ノ鑛業ハ比較的新事業ニシテ、坑夫ノ如キモ尙未タ鑛業ノミニ依リ生活スルヲ得スシテ、農業ト鑛業トヲ兼營スルモノ尠ナカラス。一九〇一年制定ノ鑛業條例ニ依リ唯一ノ鑛山局アリ、鑛山局及ヒ地質調査所ノ如キハ、一九〇五年ニ至リ漸ク設立セラレタル有様ニテ、印度ノ鑛業ハ未タ研究時代ニ在リトス。

第七章 山 林

山林ハ主トシテ國有ニシテ一八七八年ニ制定セラレタル山林法ニ依リ、燃料ト木材トヲ得ルト共ニ、土地ヲ濕潤ナラシムル目的ヲ以テ之レヲ保護シツ、アリトス。即チ山林ヲ區別シテ保存林(Reserved forest)ト保護林(Protected forest)トニ分チ、前者ハ完全ニ保護ヲ爲スモノ、後者ハ保護ノ完全ナラサルモノニシテ將來耕地トナルヘキモノヲ含ム。現時保存林ハ約九萬二

千平方哩、他ノ國有林ハ十六萬八千平方哩ニシテ、未タ保護ノ十分ナラサル緬甸及マドラス兩州ノ山林モ、漸次保存林ヘ編入スヘシト云フ。保存林以外ノ國有林ハ普通ノ場合、其地方住民カ無料ニテ自家所要ノ木材、竹及ヒ牧草ヲ採收スルヲ得ヘク、保存林ハ十分ノ保護ヲ怠ラサルモ、特ニ許可ヲ得タル者ニ限り料金支拂ノ上、木材其他ノ林產物ヲ採收スルヲ許可セラシ。而シテ山林ノ收入ハ、借地法ニヨリ、又ハ販賣法ニヨリ、或ハ家畜飼養ト木材薪炭其他ノ產出物ヲ採收スルモノニ對シ特ニ料金ヲ定メテ許可シタルモノヨリ得ル組織ナリトス。

斯ノ如ク保護法ノ設ケラレタル結果、濫伐ヲ防キ、國民需用ノ木材又ハ林產物ヲシテ缺乏ヲ感セシメサリシ效果ハ蓋シ著シキモノアラシカ。現時カシユミヤ、マイソア、「トラバンコール」及ヒバロダノ如キ土人州モ英領地ニ倣ヒ、山林保護法ヲ講シ、山林收入ノ増進ヲ見ルニ至リタリト云フ。然レトモ印度ハ木材供給國ニアラスシテ、寧ロ需用國タル情態ニアリトス。蓋シ山林所在地ハ木材ヲ需用スル市場ヨリ遠距離ニ在ルヲ以テ、市場ハ他國品ヲ仰クヲ利益トスル場合アルニ由ル。故ニ輸入ハ輸出ニ超過シ、茶箱ノ如キハ本邦並ニ歐洲ヨリ仰キ、鐵道枕木ノ如キハ歐洲ヨリ輸入シ、其他英國、北米合衆國、暹羅及ヒ瓜哇ヨリ多量ノ木材並ニ木材製品ヲ購買セリ。現時各地方政廳ニテハ山林收入ノ増加ヲ計ランカ爲メ、林業ノ發達ヲ講シツ、アリ。譬ヘハベンゴール州ニテハ良質樹ノ植林ヲ計畫シ、合併州ニテハ松精油ノ製造ヲ獎勵シ、緬甸州ニテハ製紙原料ナル「バルブ」ノ製造ヲ企畫シ、又ハ護謨樹ノ栽培ヲナシ、中央洲及ペラーニテハ蟲膠製造業ノ發達ヲ計リツ、アルカ如シ今最近印度(土人州ヲ除ク)山林ノ收支ヲ舉クレハ、左ノ如キ計算ナリト云フ。

一九〇六—〇七年	收入	一、七六六、六〇一
	支出	九四六、五五七
差引	利益	八二〇、〇四四
一九〇五—〇六年利益		八二四、七四八

一九〇四—〇五年利益

七三二、八五九

第八章 工業

印度ハ古來農業國ニシテ現時ニ在テモ専ラ農業ヲ經營シ、未タ製造工業ノ國ト稱スルニ至ラス、蓋シ印度ハ概説スレハ、(一)氣候ノ適順ナラサルコト、(二)階級制度ノ弊習アルコト、(三)宗教ノ區別多キコト、(四)進歩的思想ニ乏シキコト、等ノ事情アルカ爲メ、國民一般ニ勤勉事ニ當リ財貨ヲ得テ之レヲ蓄積セントスル觀念ニ乏シク、只食物ヲ得ルヲ目的トシ、一日ノ勞働ヲナス所以ハ一日ノ食料ヲ得ルカ爲メナリ、故ニ僅ニ飢ヲ滿スニ足レハ、進ンテ勞働シ精力ヲ消磨シテ奮勵スルヲ好マス、宛然太古ノ民タルカノ如キ觀アリ。是レ印度工業ノ進歩セサル最大原因ニシテ、加フルニ現時工業ノ發達ニ必要ナル要件ヲ缺クモノアリ、即チ印度全體ヲ通シテ農業ニ要スル勞力ハ其需用ヲ超過スルモ、工業ニ要スル勞力ノ供給ハ十分ナラス、殊ニ技術ニ熟練ナル職工ニ乏シク、又國民ハ概シテ資本ノ合同ナル觀念ヲ缺クヲ見ル。思フニ英國ノ統治以前ニ在テハ、各種族ハ各地ニ割據シ互ニ爭鬪ヲ事トシタルヲ以テ、國民ハ財産ノ安全ヲ期スル能ハサリシニ依リ、資本トナルヘキ貨幣ハ之レヲ利用セスシテ各自、徒ニ死藏スルノ習慣ヲ生シタルニ由ルナルヘシ。然レトモ近時印度政府ハ工場調査委員ヲ任命シテ、各地製造場ノ情態ヲ視察研究セシムルアリ、民間ニ在テモ銳意工業ノ進歩發達ヲ講シツ、アリトス。現ニ一部ノ英國人及ヒ印度人中ニハ、單純ナル農業ハ主トシテ天然力ニ依頼スルカ故ニ、一朝氣候適順ヲ得サレハ忽チ飢饉トナリ幾百萬ノ住民ハ餓死ニ迫ラル、ヲ以テ、漸次工業ノ發達ヲ計リ、國民ノ職業ヲ轉スルノ策ヲ講スヘシト云フ者アリ。或ハ印度ニ工業ヲ起サスンハ、印度ノ貿易市場ハ、將來新興國ナル獨逸ト日本トノ爲メニ侵略セラル、ニ至ルヘシト云フモノアリ。又一昨年來起リシ「スワデツシ、ムーヴメント」ノ如キ未タ統計ニ依リ其成績ヲ見ル能ハサレトモ、土人ノ資本ヲ以テ輸入歐洲品ヲ製造シ、衣服日用品等ハ自ラ供給セント企圖シツ、アルコトハ、明ニ印度ニ工業熱ノ起リシコトヲ示スモノニシテ、是等ノ行動

ハ固ヨリ無謀ニシテ豫期ノ如ク實効ヲ收ムル能ハサルヘシト雖、幾分印度ノ工業ヲ助長スヘキヤ疑ヲ容レサル所ナリトス、此ノ「スワデッシュムーヴメント」ノ目的トスル所ハ、歐洲ノ貨物ヲ排斥シ自國品ヲ以テ一切ノ用ヲ辨セントスルニ在レトモ、本邦品ハ除外シ、若シ自國品ヲ以テ辨スル能ハサルトキハ、東洋殊ニ本邦ヨリ之ヲ仰クコトヲ規約スト云フ。今最近ノ調査ニ係ル印刷ノ工場及ヒ職工數ヲ擧クレハ左ノ如シ

工場ノ種類	現一九〇六年 在工場數	一九〇六年 使用職工數
棉花壓搾所	九六二	九四、八九四
綿紡績所	二一七	二二一、一五六
黃麻壓搾所	一二六	二三、六三九
黃麻紡績所	四四	一六六、八九五
精米所	九二	一二、七五六
木挽所	六二	七、七三一
鐵眞鍮製作所	七四	二六、一二三
製藍工場	一九六	一〇二、一四八
土管工場	八六	一五、六四五
印刷工場(私立)	八八	一四、八二八
全(官立)	一四	七、五二四
造船所	一一	九、一七〇
鐵道工場	八七	八七、四一九

造兵廠

一四

一六、〇三七

前述工場調査委員ハ生産額、分配及ヒ外國ノ競争情態ヲ研究スルモノナレトモ、斯ノ外、工場取締法ニ就キテモ亦研究シツ、アリトス。今一八八一年ニ制定セラレタル印度工場條例ノ、一八九一年ニ修正セラレタル要點ヲ摘記スレハ左ノ如シ。詳細ハ明治二十九年中帝國領事ノ報告ニアルヲ以テ之ヲ畧ス、

- 一 「毎月五十人以上ノ人員ヲ使用スルモノ」トアルヲ、「一日五十人以下二十人以上ノ職工ヲ使用スル者ハ官報ニ其工場名又ハ營業ノ種類ヲ公告シ之レニ本條例ノ一部又ハ全部ヲ適用スルコト」ト修正シテ工場取締ノ範圍ヲ擴張シタリ。
- 二 少年職工ノ最少七歳ナリシヲ九歳トシ、最大十二歳ナリシヲ十四歳ト改メ。
- 三 少年者ノ使役時間九時間ナリシヲ七時間ニ短縮シ。
- 四 女工ニ關シテ別ニ制限ナカリシヲ、一八九一年ニ至リ新ニ制限ヲ設ケ、一日ニ一時間半ノ休息時間ヲ設ケタリ。
- 一九〇六年ニ至リ印度政府ハ、織物工場ノ労働者調査委員ヲ設ケタリ、其調査命令ノ要點下ノ如シ。
 - 一 成年男工ノ労働時間ハ之レヲ制限スルヲ要スルヤ、又長時間ノ労働ノ爲メ職工ノ健康ヲ害シタルコトアリヤ。
 - 二 工場ヘ少年ヲ採用スル前ニ、健康ノ労働ニ適スル證明書ヲ差出スヲ必要トスヘキヤ。
 - 三 九歳ト定メタル少年ノ最少年限ヲ増加スル必要アリヤ。
 - 四 成年者ヲ十二歳トスルト、十四歳トスルトノ差違ニ依リ、特ニ青年者ニ關スル法律ヲ設クル必要アリヤ。
 - 五 特ニ工場ヲ視察監督スヘキ衛生官廳ヲ設クル必要アリヤ。

右調査委員ハ工場視察ノ結果、職工使役時間ノ長キニ過クルカ爲メ職工ノ健康ヲ害シ、又ハ少年又ハ青年ノ使役ニ關シ弊害アリト認ムルトキハ現行工場法ノ改正ヲ献言スルヲ許サレタリ。斯ノ調査ハ既ニ結了シ一昨年四月議會ニ提出セラレ、現時之レヲ基礎トシテ工場條令修正ノ歩ヲ進メツ、アリト云フ。

右ニ述ベタル目的ヲ以テ調査委員ガ、一九〇六年中視察研究シタル工場ト労働者數トハ左ノ如シ。

洲名	工場數	男平均一日ノ使用年數	女平均一日ノ使用年數	合計
パンゴール洲	一九〇	二二〇、〇一八	三一、八六四	二六六、二〇五
合併洲	一五四	四〇、六一三	五、三一六	四七、八〇九
パンシヤ洲	一八二	二二、三三〇	三、三九五	二六、八七五
北西境洲	一	二八	三二	六〇
緬甸	二二九	二九、九〇一	六五二	三〇、八六六
中央洲及ハラ	三二八	二一、七六六	一、六一五	三六、一七一
マドラス洲	八七	三七、五八五	三、〇四〇	四三、一〇八
孟買洲	四七八	一五九、二六八	四四、七一〇	二二二、六三七
東ベンガル及アツサム	九九	一六、五〇六	七八七	一八、〇〇二
アツサム	四	八、六七八	二〇五	九、九七九
一九〇六年合計	一、七三二	五四六、六九三	一二〇、七九六	六九〇、七一二
一九〇〇、五〇年合計	一、五四五	五〇一、二二七	九三、四三一	六三二、六三六
一九〇四年合計	一、四四九	四六六、七二一	八五、二二一	五八七、五六〇

第九章 外國貿易

印度ハ國富ノ増進ト共ニ、其外國貿易モ逐年著シキ發達ヲ呈シツ、アルヲ見ル、今印度ノ外國貿易表ヲ檢スルニ、一九〇三—四年ニハ海上貿易輸出總額十八億三千三百萬圓、陸上貿易額七千三百萬圓、合計十九億〇六百萬圓ニシテ、一九〇七—八年ニハ海上貿易二十二億七千九百萬圓、陸上貿易一億三百萬圓、合計二十三億八千二百萬圓ノ巨額ニ達シ、五年間ニ

四億七千六百萬圓ノ増進ヲナシタリキ。左ニ掲グル表ハ、最近七年間ノ海上及陸上貿易ノ消長ヲ示ス。

海上貿易 輸入 (單位圓)

品目	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
商金	五五九、三、七三四	六六〇、七、七三三	六八〇、三、四八〇	七四〇、三、〇〇〇	八五七、〇、二、八七	八〇〇、三、三、九五	七三、五、九、八六
銀	一三、八、五、七五	一三、九、九、〇三	九、七、〇、三、二	一三、九、七、一、九	一三、八、四、八、二	一五、四、七、九、五	一五、二、五、四、四
輸入總額	七〇、三、九、五〇	七〇、〇、三、七六	七八、〇、三、八〇	八八、四、五、七三	九〇、三、三、〇七	九五、七、一、四六	一〇、九、五、九、〇

輸出 (單位圓)

品目	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
印度品	六七、五、〇、四二	一、〇、七、三、三、二	一、〇、四、〇、八、七三	一、二、四、三、四、一、八七	一、二、四、九、五、九、二	九、九、〇、三、九、四	一、二、三、六、五、六、四
外國品再輸出	三、九、五、八、三〇	三、三、三、一、一、二	三、三、二、〇、一、四	三、三、九、四、六、七	三、四、八、四、四、三	二、〇、九、三、八、七	三、三、三、〇、九、三
金	三、〇、七、七、三	三、四、七、七、三	三、三、〇、〇、八	三、三、四、〇、四	三、三、四、〇、四	二、四、三、四、〇	三、一、〇、〇、一、七
銀	一、〇、三、三、七〇	一、六、九、七、八	七、六、四、九、八	一、三、四、三、三〇	一、三、六、〇、六、三	一、四、九、七、六、六	三、〇、九、五、八、七
輸出總額	一、〇、三、三、七〇	一、〇、三、三、七〇	一、〇、三、三、七〇	一、〇、三、三、七〇	一、〇、三、三、七〇	一、〇、三、三、七〇	一、〇、三、三、七〇

輸出入總計 (單位圓)

品目	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇七—〇九年	一九〇九—一〇年
海上貿易	一、八、三、三、三、八六	一、九、九、〇、七、六六	一、六、八、三、三、六八	二、〇、九、七、八、三〇	二、三、九、四、九、七〇	一、九、九、〇、三、八三	二、三、〇、七、八、五二
輸出超過額	二、九、六、五、三〇	三、三、九、三、八、八〇	二、二、四、七、二、〇〇	三、八、六、五、三、三〇	三、三、〇、六、四、五〇	一、三、〇、六、四、五〇	三、二、九、五、七、二二

英領印度 第九章 外國貿易

輸入超過金	全上銀	輸出超過商品
一〇七、六八、八四	四九、九六、一〇四	四九、九六、五八
二九、四三、三〇	四一、四八、八三	四一、五七、九七
三三、六三、二四	三三、二八、九八	三六、六四、一四
九七、六六、九九	四一、八三、九七	四〇、五五、九〇
二四、五七、九七	三六、二、七〇	三三、六六、一七
三三、二六、五〇	六、九六、六〇	三九、六〇、六六
一四三、〇五、七二	六、八〇、三三	四六、四〇、八八

陸上貿易 金銀ヲ含ム (單位圓)

自一九〇〇—一九〇一年	輸 入	五〇、三七七、八二九	輸 出 入 合 計	九二、一九九、七一
至一九〇四—一九〇五年	輸 出	四一、八二一、八八二		
平均				
一九〇五—一九〇六年	輸 入	六二、〇三五、九八一	全	一一〇、五八四、二三六
	輸 出	四八、五四八、二五五		
一九〇六—一九〇七年	輸 入	六五、四三三、一三〇	全	一一六、七〇〇、二四六
	輸 出	五一、二六八、一一六		
一九〇七—一九〇八年	輸 入	六五、四三三、一三〇	全	一一〇、五七〇、六六七
	輸 出	五一、二六八、一一六		

一九〇七—一九〇八年陸上貿易ハ輸出別ノ統計ヲ缺クテ以テ單ニ合計ヲ記載スルコト、シタリ。然レドモ過去ノ陸上貿易情況ハ僅少ノ輸入超過ヲ呈シ、太シキ變化ヲ見ズ、又陸上貿易ハ海上貿易ニ比スレバ頗ル少額ナルヲ以テ、最近輸出超過額ノ如キハ、大體右海上貿易ノ超過ヲ以テ推定スルモ太シキ誤リナカルベシ、言フ迄モナク、是等輸出超過額ハ印度へ投ゼラレタル公私ノ事業、即チ鐵道、灌漑、工業等ニ對スル利息、又ハ印度統治ノ費用トシテ英國へ流出スルモノトス。其支拂方法ハ、印度ノ輸出業者ガ印度ノ產物ヲ歐洲ニテ販賣シ、歐洲ノ輸入業者ハ之レヲ支拂フニ當リ現金ノ輸送ヲ爲スカ、又ハ倫敦ニテ印度宛ノ手形ヲ購入スルカノ二方法ニ依ルベシ、然ルニ英國政府ハ印度ヨリ送金ヲ要スルヲ以テ、印度ニテ財政收入ヨリ支拂ハルベキ金額ニ對シ手形ヲ振出ストキハ、歐洲ノ輸入業者ハ斯ノ手形ヲ購入シ、英國政府ハ所要ノ現金ヲ入手スルヲ得

ル也。今主要ナル貿易關係國ノ消長ヲ、輸入ト輸出ニ區別シ百分率ニテ示セバ左ノ如シ。

印度 度 へ 輸 入

(總輸入額百ニ對スル比)

國 名	一九〇三—一九〇四年	一九〇四—一九〇五年	一九〇五—一九〇六年	一九〇六—一九〇七年	一九〇七—一九〇八年
英 國	六四、九	五五、二	六六、七	六六、八	六六、八
獨 逸	三、四	三、九	四、二	五、三	四、〇
白 耳 義	三、九	三、六	四、三	四、〇	四、八
埃 旬 國	二、六	四、一	四、〇	二、八	二、一
瓜 哇	一、四	二、一	一、八	二、七	四、四
海峽殖民地	二、九	三、二	二、五	二、六	二、一
北米合衆國	一、五	一、一	二、二	二、三	二、五
「モーリシアス」	三、一	二、一	二、〇	二、〇	二、一
日 本	一、五	一、二	一、二	一、五	一、七
支 那	二、三	二、〇	一、七	一、四	一、七
佛 國	一、九	一、九	一、七	一、四	一、六
伊 太 利	一、一	一、三	一、一	一、〇	一、〇
露 國	二、九	一、七	〇、三	〇、一	〇、二

是ニ由テ觀レハ輸入貿易ハ英國ノ占有スル所ニシテ、白耳義、獨逸之レニ次ギ、東洋諸國トノ關係ハ微々タリ。瓜哇ノ優勢ナルハ砂糖ノ供給ニ由ルモノニシテ、海峽殖民地並ニモーリシアスノ如キハ英領地タルヲ以テ、印度トノ貿易關係ハ密接ナリ、而シテ我邦ノ貿易ハ、未タ是等一小殖民地ニ及ハサルヲ見ルヘシ。近時印度政府ハ英國品ノ輸入ト他國品ノ輸入ト正ヲ

確ニ區分シテ、自國ノ貿易ヲ保護セントシテ、輸入商品ニハ必ス原產地國名ヲ記載スヘシト定メ。又從來輸入貨物ニシテ、途中積替(通シ船荷證券「Through Bill of Lading」ノ場合ヲ除ク)ヲ爲シタル場合ニハ積替地ヲ以テ積出地トシテ調査シタリシガ、一九〇六—〇七年度以來、原產地ヲ調査スルコト、ナシ、列國ノ競争ヲ研究シツ、アリトス。

印度 ヨリ 輸出

(總輸出額百ニ對スル比)

國名	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英 國	三七、一	二七、五	二五、三	二六、九	二八、二
支 那	一一、九	一二、六	一三、五	一〇、九	八、六
獨 逸	九、九	九、二	八、九	一一、〇	一一、一
北 米 合 衆 國	六、〇	六、三	八、二	九、〇	七、七
日 本	五、六	六、三	六、三	四、一	五、一
佛 國	六、六	六、二	五、九	六、四	六、六
白 耳 義	五、一	五、四	四、〇	四、一	五、二
海 峽 殖 民 地	四、八	四、一	三、九	三、八	四、〇
錫 蘭	三、〇	三、二	三、五	三、七	三、七
伊 太 利	三、三	二、七	二、九	三、三	三、二
奧 匈 利	三、二	三、〇	二、八	三、三	三、六
埃 及	〇、一	〇、八	二、二	二、四	一、一

右表ニ據レバ輸出貿易モ亦英國ノ位置優勢ナレトモ、其額、總輸出額ノ約四分ノ一ニ過キスシテ、印度商品ノ市場ハ英國以外へ分配セラル、モノ多キヲ見ルヘシ、支那ハ印度商品ノ需用地トシテ其位置優勢ナレトモ、他國ト趣ヲ異ニシ其ノ大部分

ハ原料ニアラスシテ製品也、即チ綿糸ノ需要多額ナルニ由ル、然ルニ英國ノ需要品ハ原料ニシテ獨逸モ棉花、種子類、穀物ノ如キ原料品ヲ需要シ、北米合衆國モ皮革其他ノ原料品ナリ、本邦モ棉花ノ如キ原料品ト、食料品タル米ヲ購入シツ、アル也。是等英、獨、米ノ諸國ガ印度ノ原料品ヲ購買スルコトハ、印度ノ利益タルト同時ニ又需要國ノ利益也。即チ商業上賣手ノ利益ヲ得ル所以ハ、買手ノ利益ヲ得ル所以ナルト同一理由也。而シテ印度ノ輸出品ハ概ネ原料ナルヲ以テ、印度品ヲ需要スル目的ハ之ヲ利用スルニ在リ、故ニ印度品ヲ需用スル國ハ工業ノ隆盛ナルヲ示スモノニシテ、此點ヨリ見レバ我邦ノ位置ハ未ダ鞏固ナラズト云フベキ也。

第十章 重要輸入品

一 綿布 印度輸入品中ノ太宗タルモノハ綿製品ニシテ、商品總輸入額ノ約四割ヲ占ム。就中綿布ハ最多額ニシテ之レヲ生綿布、晒綿布及ヒ色綿布ニ分ツヲ得ヘシ。是等三種ノ綿布輸入額ハ一九〇七—八年中二十五億四千萬碼、價額約二億七千七百萬圓ノ巨額ニ達シ、人口一ニ對スル需要ハ八碼半也。但シ是等輸入品中アフガニスタン、ネプールの其他ノ國境諸國へ輸送セラル、モノ尠ナカラサレハ、實際ノ需要ハ此ノ計數ヨリ幾分ノ減少アルヘシ、然レトモ、内地ニ於ケル綿布ノ産出モ漸次進歩シツ、アルカ故ニ、此ノ計數ヲ以テ印度ニ於ケル綿布需要額ト見ルモ大差ナカルヘシ。今其輸入情況ヲ見ルニ、

年次	生綿布 百萬碼	晒綿布 百萬碼	色綿布 百萬碼
自 一八八九—一九〇〇年	一一二二三	三六八	三七四
自 一八九三—一九〇四年	一一〇〇九	四一八	三五一
自 一八九四—一九〇五年	一一〇〇四	三六九	四三〇
自 一八九八—一九〇九年	一一二一〇	五八四	四九三
自 一九〇三—一九〇四年	同	同	同
自 一九〇四—一九〇五年	同	同	同
五ヶ年平均	一一二二三	三六八	三七四

英領印度 第十章 重要輸入品

一九〇五—〇六年	一三四八	五七二	五四一
一九〇六—〇七年	一二九八	四九四	五二四
一九〇七—〇八年	一二五三	七三三	五四四
一九〇八—〇九年	一〇四二	四七七	四七二
一九〇九—一〇年	一二三六	四九三	四六二

即チ生綿布ハ最多量ニシテ、近年晒綿布ノ輸入増進シツ、アルヲ見ルヘシ。是等三種綿布ノ英國製品輸入情況ハ左ノ如シ。

種 類	一九〇五—〇六年		一九〇六—〇七年		一九〇七—〇八年		一九〇八—〇九年		一九〇九—一〇年	
	總輸入額	英國ヨリ輸入額	總輸入額	英國ヨリ輸入額	總輸入額	英國ヨリ輸入額	總輸入額	英國ヨリ輸入額	總輸入額	英國ヨリ輸入額
生綿布	三、四八	一、三三	三、三九	一、三九	三、三三	一、三三	三、三三	一、三三	三、三三	一、三三
晒綿布	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三
色綿布	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三	五、三三	一、三三

是ニ由テ觀レハ英國ハ生綿布ノ九割九分五厘、晒綿布ノ九割八分四厘、色綿布ノ九割五分一厘ヲ供給シ、綿布市場ハ殆ント英國ノ獨占ナリ。英國以外ノ綿布供給國ハ和蘭、埃旬利、太利及獨逸等トス、是等英國ランカシャイヤ製ノ綿布類ハ、印度綿業ノ發達ト共ニ一大變化ヲ來シタリ、即チ往時ランカシャイヤハ、印度棉花ヲ原料トシテ綿布ヲ製シ、印度ノ需要ニ應ジタリシカ、印度紡績業ノ發達ニ從ヒランカシャイヤハ、米國又ハ印度以外ノ地ヨリ原棉ヲ仰キ、優等品ヲ製シテ印度市場ヘ輸送スルニ至リタリ。

即チ右表ノ如ク生綿布ノ輸入ハ内國産ノ競争ニ依リ壓セラレツ、アリトス。

二 綿糸 本品ノ輸入額ハ綿布ニ比スレハ頗ル少額ニシテ、漸次退歩シ、細糸ニシテ染色シタルモノ之レニ代リテ輸入セラレツ、アリトス、今輸入綿糸ト印度産綿糸トヲ太糸、細糸

ニ區別シテ之レヲ比較スレハ左ノ如シ。

品 位	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
輸入品	三、四七六	二、五三九	二、三八〇
印度品	六三四、六八八	六〇三、〇九六	五七九、三〇九
輸入品	三三、六九七	二五、六〇六	二三、九五七
印度品	四四、〇九一	四九、一一五	五六、〇五三
輸入品	五、八二二	六、四六一	七、四七〇
印度品	一、一三九	一、四二一	二、七〇七

即チ二十五手以下ノ太糸ニ在テハ、印度産九割九分五厘九毛ノ多量ヲ占ムレトモ、二十六手以上四十手以下トナレハ印度産ハ七割六毛ニ減シ、四十手以上ノ細糸トナレハ印度産ハ二割六分六厘ニシテ、輸入品ハ七割三分四厘トナリ、輸入品ト印度産ノ位置顛倒ス。是レ印度棉花ノ品質優勝ナラサルヲ示スモノニシテ、細糸ノ製造ニハ外國産ノ原棉ヲ仰カサルヲ得サルヲ以テ、此場合ニハ印度ノ位置未タランカシャイヤニ及ハサルモノト云フヘシ。其他綿製品ハ手巾、肩掛、莫大小及ヒ縫糸等ニシテ、莫大小ノ貿易ハ本邦トノ關係最モ深キヲ以テ、詳細ナテ説明ハ後章日印貿易ノ部ニ述フヘシ。

三 金屬 眞鍮、銅、鐵、鋼、鉛及錫等、金屬ノ輸入額ハ商品總輸入額ノ約一割ヲ占メ、其輸入額ノ年々増進ヲ呈シツ、アルハ、印度ニ於ケル經濟全般ノ發達ヲ示スモノトス、眞鍮及銅ノ如キハ從來印度人カ器具ニ製シタルモノ尠ナカラサリシカ、近年獨逸、埃地利ノ製造ニ係ル珐瑯鐵器ヲ代用スルニ至リシヲ以テ幾分ノ影響ヲ蒙リタリ然シ銅ハ電氣事業ノ發達ニ依リ漸次回復シツ、アリトス。近時印度ニテ銅ノ產出スヘキ見込アリトテ、ベンゴール州ノシンダバムニテ鑿孔試驗ノ

結果、一千呎ノ地下ニ鑛脈ノ存スルヲ發見シタリ。然レトモ其鑛量ト品質カ、果シテ、組織的ノ經營ヲ爲ス投資ニ適スルヤ如何ハ疑問也ト云フ。鐵ノ供給ハ英國ヲ第一トシ、獨逸及白耳義之レニ次ク、即チ一九〇七—〇八年中英國ヨリ鐵二十萬九千五百七十四噸鋼十三萬七千七百四十五噸ヲ輸入シ、獨逸及白耳義兩國ヨリ鐵五萬五千七百三十八噸、鋼十七萬五千五百四十二噸ヲ輸入シタリキ、

四 機械類及ヒ鐵道用材料 本品モ亦殆ント全部英國ノ供給ニ係リ、其輸入額ハ印度工業ノ進歩ト鐵道ノ延長ニ伴ヒ、年々増加シツ、アリトス。今輸入機械類ヲ區分スレハ左ノ如シ。

(單位 千圓也)

種 類	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇
織物機械	一六、二五八	一四、八五二	一七、一九三	一八、九八一	一四、〇四九
蒸機及部分品	六、五五二	八、五六三	八、九九四	七、一六七	五、三五〇
電氣機械	一、五五三	一、七六六	一、九四〇	二、三四一	二、〇七三
鑛山用機械	四八七	四〇五	五〇七	八一五	四八一
其 他	七、三三四	一、二二二	一四、三六八		
合 計	三二、一六三	三七、八〇八	四三、〇〇二	九、三七六、九三六	一一、〇四五

五 鑛油 以上列舉シタル商品ハ殆ント全部英國ノ製品ナレトモ、英國以外ノ國ヨリ輸入スル商品ニシテ重要ナルモノハ油類ト砂糖ノ二ナリ。油類中最モ多ク需用セラル、ハ鑛油ニシテ、印度ニ於ケル一年間消費額ハ少クモ一億一千五百萬「ガロン」價額二千七百萬圓ナルヘシ。近時英國カ其屬領地ノ宏大ナルニモ拘ラス、印度需要ノ油類ヲ供給スルヲ得スシテ、他國ニ仰キツ、アルハ不利益ナルヲ以テ、英帝國內ニ於テ斯業ノ發達ヲ計ルノ必要アリト稱スル者アリ、即チ英帝國內ニ在テモ加奈太、緬甸及西印度等ニ産スルノミナラス、印度本部ノアッサム、カシユミヤ、バルチス、及ヒパンヂヤブ、

其他埃及ニモ産出スヘキ見込アリトノ報告アリ、加フルニ、英領亞弗利加モ鑛油ノ包藏セラル、ハ疑ナキ所ナレハ、調査ト研究ノ進ムニ從ヒ漸次發達ヲ見ルニ至ルヘシト云フ。今石油ノ輸入ト緬甸ヨリ印度本部へ輸送シタル數量價額ヲ示セハ左ノ如シ。

國 名	數 量 (單位ガロン)					額 (單位千圓)				
	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年				
露 國	七、六二〇,〇〇〇	二、三九〇,〇〇〇	九、三七〇,〇〇〇	一、七六六	六、〇三三	二、三六四				
米 國	三、三三三,〇〇〇	二、八六六,〇〇〇	二、四二六,〇〇〇	六、二六四	七、九五六	七、八三〇				
ポ ー ー	五、一七二,〇〇〇	一、三三三,〇〇〇	七、九四四,〇〇〇	八、〇	二、三三三	一、三七八				
海峽殖民地	一〇,〇〇〇,〇〇〇	六、三三三,〇〇〇	六、〇六六,〇〇〇	一、七三三	一、〇五五	一、〇九九				
ス ー ー	五、三三三,〇〇〇	一〇,七七七,〇〇〇	二、一四四,〇〇〇	一、〇一四	二、三三三	四、一				
ル ー ー	—	三、三三三,〇〇〇	一、五九九,〇〇〇	—	七、四八	三、三三三				
其 他	五、〇〇〇	九,〇〇〇	五,〇〇〇	七	五	三				
合 計	五、九四四,〇〇〇	五、〇六六,〇〇〇	五、三三三,〇〇〇	二、六六六	三、八二二	二、三三三				
緬甸ヨリ輸送	四、七五五,〇〇〇	六、八八八,〇〇〇	六、三三三,〇〇〇	一〇,〇〇一	一四、三三三	一四、八〇五				

是レニ由テ觀レハ緬甸ノ消費ハ不明ナルヲ以テ之ヲ除キ、過去三年間ノ平均ニテ一年一億一千三百九十萬「ガロン」ヲ需要シ、其内約半數ハ國內即チ緬甸ノ産出也、石油以外ノ鑛油ニシテ緬甸ニ産スルモノハ機械油ニシテ、一九〇七—〇八年中ノ輸入額千二百八十九萬「ガロン」、緬甸ヨリ沿海へ輸送シタル數量ハ四百〇五萬「ガロン」トス。

六 砂糖 砂糖ノ消費力ハ正確ナル統計ヲ得ルコト難シト雖モ、一九〇七—〇八年ニ輸入シタル總額ハ約五十萬噸、價格五千八百萬圓ニ達シ、年々増進ヲ呈シツ、アルヲ見ル、而シテ其輸入額ハ印度産出額ノ約五分ノ一也トイフ。歐洲ノ甜菜糖カ獎勵金ニ依リ、印度市場ニテ競争セサリシ以前ニハ印度甘蔗糖ノ耕地ハ、約二百九十萬「エーカー」ナリシカ、爾來減少

シテ現時二百三十萬乃至二百六十萬「エーカー」トナリタリ。印度政府ノ調査ニ據レハ一九〇七—〇八年ノ砂糖栽培面積ト生産額ノ豫想ハ、二百六十二萬七千「エーカー」ニシテ、産出額ハ二百五萬一千九百噸也ト云フ。今甘蔗糖及甜菜糖ノ輸入情況ヲ見ルニ左ノ如シ

甘蔗糖

(單位ハ噸)

合計	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
モリスシアス	二五、八三三	九一、二八四	一〇〇、六一一	一一五、五〇一	一三〇、〇〇五
支那	一七、四四三	一四、二五二	六、五三三	二、五九四	三、〇九六
瓜哇	六、七七七	一〇四、五七五	八四、三〇〇	一六五、二三八	三五、三六八
海峽殖民地	二、五〇〇	一〇、五五二	七、五三四	二、〇七七	一、八九五
英國	二、五七七	三、五四五	五、三三八	五、四八九	八、二七七
其他	一八、四四四	一七、五五八	八、八〇三	五、五三三	一、三三三
合計	七四、五七〇	二四、六六六	二三、二七七	二九、六四二	四二、五四三

甜菜糖

合計	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
獨逸	一四、六三三	七、〇三三	一七、〇七六	八、八八八	三四、七九九
英國	三、〇三〇	八、八二四	三、六三三	一〇、〇六六	三、九三三
其他	二、五三三	二、五三三	八、八二四	三、三三三	四、六八八
合計	九、七〇〇	二、四一五	一〇、三三三	五、九〇五	五、二

合計	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
砂糖合計(糖蜜及氷)	二七、六三三	八五、八四四	一七、六三三	一九〇、一九三	三九、七〇三
砂糖	三〇、〇六六	三七、四九六	三六、八〇〇	四六、五三四	五三、二二二
糖蜜	三、五六七	四八、三四八	四、八三三	五三、三四三	五七、四八一
氷	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

今英帝國ト他國ノ供給額トヲ比較スレハ一九〇七—〇八年度ニテ

英國及英領地 一三六、六四三噸
 外 國 二六五、六〇三噸

即チ輸入糖ノ約三分ノ二ハ英領以外ヨリ仰クヲ見ル、一九〇三—〇四年即ニ在テハ、英國及英領地ノ供給額ハ約十九萬噸ニシテ、外國ノ供給額ハ十一萬噸、其以前ニ在テモ、英國及英領地ノ供給ハ他國ヨリモ遙ニ多量ナリシカ、近年其位置顛倒シ、鑛油ト同シク砂糖モ亦英國及英領地ノ供給ヲ以テ、印度ノ需要ヲ充タス能ハサルニ至リタリ。近時「ノーエルバト」氏ノ調査セシ所ニ據レハ、印度甘蔗糖ノ生産ハ「エーカー」ニ付キ一噸二分五厘ヲ趣ユル能ハサルニ、「キューバ」ニテハ二噸、瓜哇ハ三噸四分五厘、布哇ハ四噸二厘ノ割合也ト云フ、現時印度ノ糖業ハ「ガー」即チ糖蜜ヨリ極メテ幼稚ノ方法ヲ以テ製造シ、未タ科學ノ應用ヲ見ルニ至ラサルヲ以テ、其産出ハ需要ノ増進ニ伴ハスシテ輸入品ノ壓迫ヲ受クルハ必然ノ結果ト云フヘシ。今印度ノ甘蔗糖栽培面積ト産出額ノ豫想ヲ舉クレハ左ノ如シ。

- 一九〇三—〇四年 一、八七一、九八六噸
- 一九〇四—〇五年 二、一六九、〇〇〇
- 一九〇五—〇六年 一、七二五、五〇〇
- 一九〇六—〇七年 二、二〇五、三〇〇
- 一九〇七—〇八年 二、〇五一、九〇〇

七 其他ノ輸入品 印度輸入商品ノ種類ハ頗ル多ク、其内重要ナルモノハ別表ニ示スカ如ク約二十六種ニシテ、殆ント全部製造品也。是等商品ハ英國及英領地ノ供給ニ係ルモノ優勢ナレトモ、前述綿布、金屬及ヒ機械類等ノ如ク英帝國ノ獨占品ナラスシテ列國ノ競争ニ遭遇セル者アリ、今價額ノ順序ニ從ヒ其輸入情況ヲ述フレハ、金屬製品及及物類、毛製品、食品、帽子、靴、衣服其他ノ附屬品、銅、香料、器具及附屬品、馬車及貨車、酒料、紙及板紙、藥材、煙草、化學藥品、花棉、寶石及眞珠、塗料、麥酒、石炭、文房具等ハ、英國及英領地ヨリ輸送シタルモノ半數以上ヲ占メ、歐米及東洋ヨリハ其殘餘ヲ供給ス、然ルニ絹製品、硝子器、生糸、塗料、木材、鹽、燐寸ニ至リテハ、英國ノ勢力微弱ニシテ主トシテ他國品ヲ仰キツ、アリトス、左表ハ一九〇七—〇八年度ノ主要ナル輸入品ヲ、英國及英領地ト他國トニ區分シ其供給ヲ示ス。

金屬製品及及物類	一三、一一三、四六四	英國及英領地
毛製品	一一、二二七、〇一五	獨逸、埃匈國、和蘭其他
絹製品	六、八四七、〇五二	英國及英領地
帽子、靴、衣服其他ノ附屬品	二、五二七、〇八七	獨逸、白耳義、佛國其他
硝子器	一一、四一三、七六六	英國及英領地
香料	八、六三九、六一九	日本、佛國、支那其他
銅	八、二二七、四〇五	英國及英領地
其他ノ附屬品	九、四六六、八一〇	佛國、埃匈國、獨逸其他
硝子器	四、〇〇七、五七九	英國及英領地
香料	九、八六一、九五二	獨逸、日本、白耳義、佛國其他
硝子器	三三五、九二〇	英國及英領地
硝子器	一、三四四、〇六三	英國及英領地
硝子器	八、〇九二、九四五	埃匈國、獨逸、白耳義、支那、日本其他

器具及附屬品	六、三九七、〇一五	英國及英領地
馬車及貨車	二、五〇五、〇九九	獨逸、白耳義、佛國其他
酒類 (麥酒及葡萄酒ヲ除ク)	六、五四一、二九八	英國及英領地
紙及板紙	一、一六三、九〇七	白耳義、獨逸、佛國其他
原料絹	四、三六五、三一〇	英國及英領地
藥材	二、八四六、四三六	佛國、獨逸、米國其他
塗料	三、五六八、六三〇	英國及英領地
煙草	二、九一一、九一三	英國、獨逸、埃匈國其他
木材	二、四二三、九四八	英國及英領地
鹽	三、九八五、三三七	支那、暹羅其他
化學藥材	七、三五五、二六三	英國及英領地
燐寸	四、〇九四、一三二	米國、日本其他
燐寸	三三九、七九八	英國及英領地
燐寸	五、一八八、〇三〇	白耳義、獨逸、伊太利其他
燐寸	三、七二〇、六五六	英國及英領地
燐寸	一、七八六、六四七	米國、埃及、和蘭其他
燐寸	一、〇〇一、七二八	英國及英領地
燐寸	四、三五三、二三六	暹羅、米國、瓜哇其他
燐寸	二、五七一、六七一	英國及英領地
燐寸	二、六六六、一六四	西班牙、亞刺比亞、獨逸其他
燐寸	四、一一〇、六八七	英國及英領地
燐寸	一、〇六六、六六四	獨逸、伊太利、白耳義其他
燐寸	九四九、五二三	英國及英領地
燐寸	三、八六七、五五一	瑞典、日本、獨逸、埃匈國、白耳義其他

棉花	三,八一〇,六三八	英國及英領地
寶石及真珠	八二二,七三五	埃及、波斯其他
塗料	三,〇七三,一〇八	英國及英領地
麥酒	一,四六九,九三八	亞刺比亞、波斯其他
石炭	三,二五六,八〇八	英國及英領地
文房具	八一六,一五五	白耳義、獨逸、米國其他
	三,二九一,六七一	英國及英領地
	六九九,〇一一	獨逸、白耳義其他
	三,四三四,八二一	英國及英領地
	五六,六八九	英國及英領地
	二,一三二,九五六	日本其他
	七六五,一〇一	英國及英領地
		奧匈國、獨逸、白耳義、和蘭、日本其他

要スルニ印度ノ輸入品ハ製造品也、只々鹽、石炭、棉花ハ例外ニシテ原料的ノモノナレトモ、是等ノ商品ハ國內ニテ産出スルモノナルヲ以テ、將來特別ノ保護ト獎勵方法ヲ講スルニ至ラハ内國品ニテ需要ヲ充スヲ得ヘシト雖モ、及物、金屬製品、毛製品、硝子器、燐寸ノ如キ製品ハ他國品ノ輸入ヲ防遏スル能ハサルヘシ。近時英國ノ資本家ニシテ投資ヲ爲スニ至ラハ是等ノ輸入品ヲ製出シ得ヘシト説ク者アレトモ、印度ノ製品カ歐洲列國ノ豐富ナル資本ト熟練ナル技術ニヨリ製セラレタル商品ト競争シ得ヘキニアラス、又英國ノ莫大ナル資本カ印度生産ヲ加工スル工業即チ綿紡績又ハ黃麻紡績等ニ投セラレタル所以ハ、其販路ノ廣クシテ市場ヲ世界ニ求ムルヲ得ルニ由ルモノナレトモ、輸入品ヲ製造スル場合ニハ、其市場ハ僅ニ國內ニ止マリ世界ニ分配スル能ハサルヲ以テ新ニ資本ヲ投スルモノアリヤ如何ハ疑問也、故ニ印度ハ現時ノ關稅策、其他商工業ニ對スル特別政策ノ行ハレザル限リハ、其工業ハ生産物ノ加工ニ止マリ、是等輸入品ヲ製造スルニ至ラサルヘシ。

印度需要輸入品五ヶ年間對照表 (海 上)

品名	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
棉製品合計圓	二七,一五〇,四四三	三三,七九二,三三〇	三三,七七七,八五五	三三,〇八八,八三三	三三,四三二,四三三
綿糸 英斤	四,七六七,七三二	七,〇三三,二六八	七,〇三三,七七七	四,五五五,〇五五	四,〇二八,八三〇
生綿布 圓碼	三,三三三,八五五	三,〇三三,三三〇	二,四二二,六八八	三,〇三三,八三三	三,〇三三,七七七
晒綿布 圓碼	一,三三三,八五五	一,三三三,三三〇	一,三三三,七七七	一,三三三,八三三	一,三三三,七七七
色綿布 圓碼	五,五五五,〇〇〇	五,五五五,〇〇〇	五,五五五,〇〇〇	五,五五五,〇〇〇	五,五五五,〇〇〇
帆布 圓碼	一,九九九,九九九	一,九九九,九九九	一,九九九,九九九	一,九九九,九九九	一,九九九,九九九
帆 圓碼	六,六六六,六六六	六,六六六,六六六	六,六六六,六六六	六,六六六,六六六	六,六六六,六六六
江戶手巾並肩掛 圓個	一八,五五〇,五五〇	二二,五五〇,五五〇	二二,五五〇,五五〇	二二,五五〇,五五〇	二二,五五〇,五五〇
莫大小(混織共) 圓	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二
レース及特許網 圓碼	四,四四四,四四四	四,四四四,四四四	四,四四四,四四四	四,四四四,四四四	四,四四四,四四四
網 英斤	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二	二,二二二,二二二
縫糸 英斤	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇
其他 英斤	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇
其 圓	四,八三三,三三三	五,〇三三,三三三	五,〇三三,三三三	四,八三三,三三三	四,八三三,三三三

英領印度 第十章 重要輸入品

鐵及鋼	英斤	一, 二六五, 六六六	一, 七三三, 一七〇	一, 三二八, 六八七	一, 三三三, 五七三
砂	英斤	四, 三六四, 七七一	四, 九三〇, 三三三	三, 七七一, 八三九	五, 〇〇九, 七五五
鐵道用材料	圓	五, 〇七三, 六二五	一, 四三三, 五二〇	一, 二五二, 三三三	一, 三三三, 七三〇
機械類	圓	一〇, 五九三, 六二五	五, 〇五九, 六二五	六, 〇一三, 五九九	六, 三〇一, 五九九
金屬製品及物類	圓	三, 一三三, 〇三三	七, 〇八八, 九二二	四, 〇〇〇, 〇三三	四, 一〇〇, 〇三三
織	油	六, 二二六, 四四四	三, 一八六, 九二〇	五, 九三三, 〇〇〇	六, 八四四, 〇三三
毛製	圓	一五, 八三三, 八二七	一五, 八三三, 八二七	一八, 〇七三, 七三〇	一九, 〇〇八, 七三〇
食料	圓	一五, 五八六, 〇九〇	一五, 八三三, 八二七	一七, 〇六三, 三三一	一八, 〇七三, 七三〇
帽子靴衣服其他	圓	一四, 四八五, 七五二	一三, 七三三, 五九九	一六, 〇六七, 〇三三	一五, 七四七, 六六六
絹製	圓	三, 四二六, 〇三三	一, 九二七, 五九九	三, 九四〇, 〇三三	一四, 〇八七, 三三三
銅	英斤	四, 〇四九, 〇三三	三, 七三九, 四〇八	三, 三三三, 四〇八	三, 三三三, 四〇八
香	料	九, 〇三三, 〇三三	九, 〇三三, 〇三三	三, 三三三, 四〇八	三, 三三三, 四〇八
硝子及硝子器	圓	一七, 〇〇〇, 〇三三	一八, 一五五, 四一八	二二, 〇六八, 〇三三	二二, 〇六八, 〇三三
電氣音樂其他	圓	七, 八三三, 〇三三	九, 三九八, 五九九	一〇, 一七三, 八二二	八, 九三三, 〇三三
乘車及荷貨車	圓	五, 九三三, 〇三三	七, 九三三, 〇三三	九, 九三三, 〇三三	七, 三三三, 〇三三
酒類(麥酒及葡萄酒)	圓	一, 三三三, 〇三三	一, 〇八八, 三三三	一, 三三三, 〇三三	一, 三三三, 〇三三
染及板紙	圓	六, 一八三, 七三三	六, 四四四, 七三三	六, 一八三, 七三三	六, 一八三, 七三三
紙及板紙	圓	四, 〇三三, 〇三三	五, 三三三, 〇三三	六, 〇三三, 〇三三	六, 〇三三, 〇三三

糸	生	英斤	一, 六四三, 六六六	一, 四三三, 三三三	二, 〇三三, 〇三三	二, 一六八, 四一八	二, 三三三, 〇三三
藥材	圓	四, 〇七三, 三三三	五, 〇七三, 〇三三	五, 九三三, 〇三三	五, 九三三, 〇三三	四, 七三三, 〇三三	六, 三三三, 〇三三
煙草	英斤	五, 五二一, 〇三三	五, 九三三, 〇三三	六, 三三三, 〇三三	五, 九三三, 〇三三	五, 九三三, 〇三三	七, 三三三, 〇三三
木	材	圓	五, 四八八, 〇三三	五, 三三三, 〇三三	五, 三三三, 〇三三	四, 八三三, 〇三三	四, 八三三, 〇三三
鹽	噸	圓	四, 九三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三	五, 八三三, 〇三三	五, 八三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三
化學藥品	圓	四, 九三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三	五, 八三三, 〇三三	五, 八三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三	五, 八三三, 〇三三
煉	寸	圓	三, 八三三, 〇三三	四, 一三三, 〇三三	四, 一三三, 〇三三	四, 一三三, 〇三三	四, 一三三, 〇三三
棉花	花	英斤	一八, 〇三三, 〇三三	一三, 〇三三, 〇三三	一七, 〇三三, 〇三三	一四, 〇三三, 〇三三	一〇, 〇三三, 〇三三
寶石及真珠	圓	八, 七三三, 〇三三	二, 九三三, 〇三三	四, 五三三, 〇三三	四, 五三三, 〇三三	三, 七三三, 〇三三	三, 七三三, 〇三三
塗料	圓	三, 三三三, 〇三三	三, 七三三, 〇三三	四, 〇三三, 〇三三	四, 〇三三, 〇三三	三, 三三三, 〇三三	三, 三三三, 〇三三
麥	酒	圓	五, 〇〇〇, 〇三三	四, 九三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三	四, 九三三, 〇三三
石	炭	噸	二, 〇三三, 〇三三	三, 三三三, 〇三三	三, 三三三, 〇三三	三, 三三三, 〇三三	三, 三三三, 〇三三
文房具(紙ヲ除ク)	圓	二, 〇三三, 〇三三	二, 〇三三, 〇三三	二, 〇三三, 〇三三	二, 〇三三, 〇三三	二, 〇三三, 〇三三	二, 〇三三, 〇三三

第十一章 重要輸出品出

(米ノ輸出ハ附録ニ記述ス)

一 棉花、綿糸及綿製品 輸出品中棉花ハ金額ニ於テ第一位ヲ占メ、輸出總額ノ一割五分、原料輸出額ノ三割三分也。本品ノ輸出ハ一九〇七—〇八年(明治四十年)ニハ幾分増進ヲ呈シタレドモ、其後輸出貿易ハ遅々トシテ進マザルヲ見ル、蓋シ國內綿工業ノ發達ニ從ヒ原棉ノ需要増加シタルト、生産力ナルモノハ急激ニ増大スベカラザル等ノ事情アルト共ニ、歐洲ノ紡績業ハ米國其他ノ棉花ヲ原料トスルモノ多ク、殊ニ英國ランカシャイヤノ如キハ主トシテ米國及ビ埃及棉花ヲ原料トスルニ至リタルニ由ル。然レドモ印度ノ棉花業ガ衰運ニ赴カサルハ、國內消費ノ増加及本邦ノ需要増進シタルト共ニ、歐洲ノ需要モ亦少カラズシテ其需要ノ方面ヲ轉ジタルニ過ギザル状態ニアラカ故ナリ。今之ヲ事實ニ徴スルニ一九〇七年ノ英國商品輸出額約四十三億圓ノ二割六分ハ綿製品ニシテ、原棉ノ輸入額ハ約百萬噸也、然ルニ印度ヨリ輸入シタル棉花ハ僅ニ其百分ノ四ニ過ギズ、又若シ轉シテ印度ノ輸出ヨリ見ルモ、一九〇七—〇八年ノ棉花輸出額約四十二萬八千噸ノ内、英國へ輸送シタルハ二萬三千噸即チ百分ノ五也。此ノ如ク綿製品工業ノ隆昌ナル英國ニシテ印度棉花ヲ利用セザルハ奇異ノ觀アリト雖モ、是レ英國綿業ノ進歩ハ、比較的品質ノ劣等ナル印度棉花ヲ需要スルヲ要セサルニヨルモノニシテ、本邦ノ如キ印度棉花ヲ最モ多ク需要スル國ハ、綿工業進歩ノ程度未ダ低位ニアルモノトイフベシ。今一九〇七—〇八年ノ輸出額ト、主要ナル仕向國別トヲ擧クレハ左ノ如シ。

國 別	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
輸出總額	數量(英斤) 價(圓)	數量(英斤) 價(圓)	數量(英斤) 價(圓)
日 本	九六、九四、六八八	七六、四三、〇三三	九六、五二、四八〇
獨 逸	二五、三九、七五二	四八、九四、三六八	三六、七五、九四四
白 耳 義	三〇、五九、七五二	二七、二六、九六〇	三〇、八七、五九八
伊 太 利	一四、四三、五七五	一七、七六、六八一	二二、三三、〇〇八
佛 國	二八、七六、八六八	二九、二七、四三三	一四、〇〇、三三三
英 國	六六、九三、八五五	五二、〇五、三六六	五五、六三、四四六
其 他	二二、〇四、七九四	四一、五七、七五〇	七五、〇九、四九八
總 計	三〇、六六、八三三	四二、八五、三五六	七〇、九四、四七五

是等ノ輸出棉花ハ印度産出額ノ約半數也、而シテ輸出棉花ハ少量ニ過キサルカ故ニ、國內消費ハ産出額ノ半數ト見做スヲ得ヘシ。今過去五年間ノ栽培面積ト産出額ヲ見ルニ左ノ如シ。

(但シ一九〇三—〇四年ニ至ルマデハ實際ノ産出額ニシテ一九〇五—〇六年ハ印度ノ輸出額ト紡績會社ノ消費額ヲ合計シタルモノ其以後ハ豫想ナリ)

年 次	面 積	産 出 額
一九〇二—〇三年	一六、五八一、〇四六	一、五〇〇、二九一、六〇〇
一九〇三—〇四年	一八、〇二五、〇〇〇	一、四三一、八五七、二〇〇
一九〇四—〇五年	一九、九一八、〇〇〇	一、五三〇、四〇〇、〇〇〇
一九〇五—〇六年	二一、〇七二、〇〇〇	一、五八六、八〇〇、〇〇〇
一九〇六—〇七年	二二、三四四、〇〇〇	一、九六三、二〇〇、〇〇〇

右一九〇六—〇七年中ノ産出豫想ヲ州別ニスレハ左ノ如シ。

州 別	面 積	産 出 額
マドラス	六二、八〇〇、〇〇〇	二、一五〇、〇〇〇
ベンガル	二五五、二〇〇、〇〇〇	一、四三〇、〇〇〇
併 州	七五八、〇〇〇、〇〇〇	一、五八六、八〇〇、〇〇〇
孟 買 州(土人洲、シンド及 パニダを含む)	一四八、〇〇〇、〇〇〇	一、九六三、二〇〇、〇〇〇
パシヤブ州及北西境州	三五二、八〇〇、〇〇〇	一、五三〇、四〇〇、〇〇〇
中央州及ベラー	三五二、八〇〇、〇〇〇	一、五三〇、四〇〇、〇〇〇

ニ
ビ
中央
ラ
ベ
東部
マ
ア

一七二、〇〇〇、〇〇〇
一四、〇〇〇、〇〇〇
九〇、八〇〇、〇〇〇
七〇、四〇〇、〇〇〇
六、四〇〇、〇〇〇
五、六〇〇、〇〇〇
四、〇〇〇、〇〇〇
二二二、二〇〇、〇〇〇
一、九六三、二〇〇、〇〇〇

合 計

而シテ平均「エーカー」ノ生産ハ、一九〇五—〇六年ニハ五十六英斤、一九〇六—〇七年ニハ八十八英斤ニシテ、後者ハ過去ニ於ケル平均生産額ノ最多量ヲ示シタリ。然レ共、一九〇六年中米國生産額豫想ノ「エーカー」ニ付二百三十三英斤ニ比スレハ半數ニモ及ハサル也。此ノ如ク生産力ノ微弱ナルニモ拘ラス、能ク米國ノ競争ニ堪ヘ得ル所以ハ生産費ノ低廉ナルニ由ルトイフ。此ノ生産力ノ低位ニ在ルト、織緯ノ短小ナルト、品質ノ劣等ナルコトハ、印度棉ノ缺點トスル所ナレハ、之レカ改良ヲ計ラントシテ從來、屢次、米棉及埃及棉ノ栽培ヲ試ミシニ、多クハ失敗ニ歸シタリシニ、近時孟買農務局ヨリ吏員ヲ派シテ、埃及棉花ノ栽培法ヲ研究セシメ、シンド地方ニテ試験シタル結果ハ、頗ル好良ニシテ、栽培面積ハ漸次擴張サレツアルヲ以テ、將來埃及棉ト幾分ノ競争ヲ爲シ得ルニ至ルヘシ。蓋シシンド地方ハ雨量少クシテナイル河ニ比スヘキインダス河ノ在ルカ如キ、氣候風土ノ關係ハ總テノ點ニ於テ埃及ニ酷似セルニ由ル。今其試験ノ經過ヲ見ルニ一九〇四年三月同局ニテ埃及棉二十「エーカー」ヲ栽培シテ、十一月ニ至リ品質好良ナル棉花ヲ得タリ、翌一九〇五年ニ至

リ五百俵(四百英斤入)ヲ收穫シ、一九〇六年及一九〇七年ニ至リテハ二倍ノ收穫ヲナシタリ。此趨勢ヲ以テ進メハ、將來埃及ニ拮抗スヘキ良質ナル棉花十萬俵ヲ生産スルハ容易ノ業ナルヘシトイフ。又西部バノヂャブ州モ埃及及ヒ米棉ノ栽培ニ適スルヲ以テ、之レカ獎勵法ヲ講セハ多大ノ優等棉花ヲ産出シ得ヘシトイフ。印度ニ於テ綿紡績工場ノ始メテ設立セラレタルハ一八八一年ニシテ、爾來其發達著シク、一九〇八年(明治四十一年)三月三十一日ノ調査ニ據レハ、綿紡績工場數二百二十四、内百八十一ハ株式組織ニシテ、其資本金約九千五百萬圓ニ達ストイフ。而シテ其機臺數ハ六萬五千七百四十一ニシテ、錘數五百七十六萬四千三百四十六ニ達シ、過去十年間ニ機臺數ハ七割六分、錘數ハ二割九分ヲ増加シタリ。今過去五年間ノ紡績ト機織ノ發達ヲ見ルニ

年次	綿糸	錘數	綿糸產出額 英斤	平均一ヶ月 一錘ノ產出額 英斤
一九〇三—〇四年	五、一六七、六〇八	五七八、七五九、〇七三	九、三	九、三
一九〇四—〇五年	五、一九六、四三二	五七八、三八一、二七五	九、三	九、三
一九〇五—〇六年	五、二九三、八三四	六八〇、九一八、五八一	一〇、七	一〇、七
一九〇六—〇七年	五、五四六、二八八	六五三、七〇〇、四六〇	九、八	九、八
一九〇七—〇八年	五、七六四、三四六	六三八、二九五、一一五	九、三	九、三
年次	機臺	綿布產出額 英斤	平均一ヶ月 一臺產出額 英斤	
一九〇三—〇四年	四、五、二八一	一三八、〇四四、一七二	二、五四	二、五四
一九〇四—〇五年	四、七、三〇五	一五八、七四六、五五五	二、八〇	二、八〇

英領印度 第十一章 重要輸出品

一九〇五—〇六年 五二、二八一 六六三、八八〇、一九四 二六一
 一九〇六—〇七年 九九、五九九 一六五、七六七、八五八 二二二
 一九〇七—〇八年 六五、七四一 一八九、〇五一、七二九 二四〇
 是等兩品ノ輸出ハ左ノ如シ。

國別	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
輸出總額	三、五七、七九六 英斤	三、四九、〇九六 封度	三、三、四、四八六
清國(香港及澳門を除く)	九、四、六〇〇	二、七、七、五〇〇	二、六、五、八三三
香港	三、三、三、八四四	九、〇、九、三、三六六	八、三、七、四、四三三
土耳其	三、三、三、三三四	一〇、一、三、一、〇五五	一〇、七、九、一、四八八

綿糸

國別	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
輸出總額	七、二七、六九六 磅	七、六六、六四四 ヤール	六、三三、三三三 ヤトル
海峽殖民地	一、〇、四、七、七五五	二、七、九、三、三三三	一〇、七、六、二、四九九
錫蘭	八、三、三、九、九〇一	一、八、六、三、三三三	一〇、七、七、二、八七七
アデロン	二、五、三、九、四七五	一、七、三、七、七五五	一〇、四、五、一、二三三

是ニ由テ觀レハ印度綿糸ノ最大需要地ハ清國ナリ。從來清國市場ハ印度ト本邦綿糸ノ競争地ニシテ、明治四十年ノ清國需

要ハ印度品約三千百萬圓、本邦品約二千二十萬圓ニシテ印度品優勢ナリ、然ルニ印度ノ綿糸業ハ年々進歩シ來リ三十手以上四十手ニ至ル細糸ノ產出ハ、一九〇一—〇二年ニ千二百五十萬英斤ナリシニ、一九〇六—〇七年ニハ千七百萬英斤ニ達シ、現時孟買ニ於ケル紡績會社カ埃及棉花ヲ輸入シテ四十手以上ノ細糸ヲ製出シツ、アルハ大ニ注目スヘキ現象ナリ。顧フニ印度紡績業ノ將來ハ、棉花ノ增收ト品質ノ改良如何ニアリト云フヘク、原料棉花ノ增收カ紡績業ノ發達ヲ促カスハ當然ノ結果ナレトモ、品質ノ改良ニシテ成功スルニ至ラハ、印度ノ綿業ニ一變化ヲ來スヘキハ疑ヲ容レサル所也。綿布業ニアリテ、機臺數ハ年々増加シツツアリト雖、未タ幼稚ニシテ其販路ノ區域モ亦狹少也。印度產ノ綿布ハ機械織ト手織トノ二種ナレトモ、後者ハ漸次前者ニ壓倒セラレ、現時手織綿布ノ產出額ハ機械織ノ三分ノ一ニ過キス、然レトモ綿布業ニアリテハ機械紡績力、手工紡績ヲ壓倒シタルカ如ク迅速ナラサル所以ハ良職工ノ乏シキニ由ルカ如シ。今印度商業會議所會頭ノ説ヲ摘記スレハ「英國ランカシャイヤノ職工ハ一週五十四時間ノ労働ニテ綿布製造量四百六十六萬英斤ナルニ印度ノ職工ハ一週七十二時間ノ労働ニテ僅カニ七十萬英斤ヲ製シ得ルニ過キス。是レ印度カ工業國タル能ハサル所以ニシテ將來ニ至リテモ良職工ヲ養成セスンハ、印度綿布業ノ發達ハ容易ニ期待シ得ヘカラス」トイフニ徴シテ之ヲ證スルヲ得ヘシ。其他ノ輸出綿製品ハ手巾、肩掛、莫大小及ヒ縫糸等アレトモ微々少額ニ過キス、又將來發達スヘキ趨向ヲ見ス、要スルニ印度ノ綿工業ハ綿糸ニ限ラル、モノトイフヘシ。

二 黃麻及黃麻製品 一八三〇年頃ヨリ英國ダンデーノ製麻會社ハ、黃麻ヲ以テ大麻ノ代用ト爲サントシテ、種々ナル方法ヲ以テ試驗シタル結果、之レカ利用方法ヲ發明シテヨリ以來、「カルカッタ」ヨリ黃麻ノ輸出ヲ見ルニ至リタリ、其ノ後「クリミヤ」戰爭ニ際シ、露國產亞麻及大麻ノ供給杜絶シタルカ爲メ、印度ノ黃麻業ニ刺激ヲ與ヘ、其輸出貿易ハ迅速ニ發達シタリキ。往昔黃麻布ハ手織ニテ製シ、貧民ノ衣服トシテ使用シタリシカ、歐洲ト交通ノ便開ケテヨリ以來、低廉ナル綿布輸入セラレテ之ニ代リ爾來黃麻ハ輸出穀物ノ包裝、又ハ絨氈ノ原料トシテ歐洲及ヒ東洋諸國ヘ輸出セラル、ニ至リタリ。即チ

黄麻袋、又ハ黄麻布トシテ世ニ知ラル、モノ也、而シテ手織黄麻布ノ輸出ハ、一八五六—七年カルカッタ附近ニ黄麻紡績所ノ設立セラレテヨリ漸次衰頽シ、今日ニテハ手織布ハ全然消滅シテ専ラ機械製トナリ、カルカッタ附近ハ黄麻紡績ノ中心トナリ、其工場數四十四、機臺數二萬五千、鍾數五十二萬、一日ノ職工使用數平均十六萬八千人ヲ算シ、拂込資金及社債ノ總額ハ七千七百萬圓ニ達シ、原料黄麻ノ産産額ハ左ノ如ク驚クヘキ計數ニ上リタリ。

年次	面積	生産額	概算印度ノ消費	概算輸出力
一九〇三—〇四年	二,三三〇,〇〇〇	二,八六〇,〇〇〇 英斤	一,三三三,〇〇〇	一,五二七,〇〇〇 英斤
一九〇四—〇五年	二,八〇〇,〇〇〇	二,九〇〇,〇〇〇	一,三六九,〇〇〇	一,五三〇,〇〇〇
一九〇五—〇六年	三,一八〇,〇〇〇	三,二九〇,〇〇〇	一,三九〇,〇〇〇	一,九〇〇,〇〇〇
一九〇六—〇七年	三,四〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	一,四一〇,〇〇〇	二,〇九〇,〇〇〇
一九〇七—〇八年	三,八〇〇,〇〇〇	三,九〇〇,〇〇〇	一,四三〇,〇〇〇	二,四七〇,〇〇〇

約五十年前ニハ黄麻ノ生産ト製造業ハ英國及印度ノ獨占ナリシカ、爾來歐洲諸國ニテハ黄麻紡績ノ有利ナルニ著目シ、黄麻製品ニ對シ輸入税ヲ課シテ保護政策ヲ執リ、獨逸ハ第一着ニ黄麻紡績所ヲ起シ、續テ歐洲諸國モ保護關稅ノ下ニ斯業ノ興起ヲ促サシメタリ。此ノ如ク保護政策ノ行ハレタル結果トシテ、英國ノ黄麻紡績業ハ打撃ヲ受ケ、一八八五年ニ紡績所ノ數百十八ナリシカ、一九〇五年ニハ百七ニ減縮セリ、今ヤ世界ニ於ケル原料黄麻ノ消費ハ、増進シテ八百五十萬俵(四白英斤入)ニ達セントシツ、アルニ、英國ノ消費ハ歐洲大陸諸國ニ及ハス、即チ印度ペンゴールノ消費ハ三百五十萬俵、歐洲大陸諸國ハ二百十萬俵、英國ハ百八十萬俵、米國ハ六十萬俵、ペンゴール以外ノ印度國內消費ハ五十萬俵ニシテ、英領ノ斯業ハ他國ヘ奪ハレツ、アリトス。今又最近原料黄麻ノ仕向地ヲ對照セハ。

國別	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
英國	一,五九〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇
獨逸	六二〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
佛國	三三〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
米國	一五〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
日 本	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
他國	四〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇
總額	二,一〇〇,〇〇〇	二,六〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇

即チ英國ノ需要優勢ナレトモ、輸出額ノ半數以上ハ他國ヘ輸送セラレツ、アルヲ以テ、黄麻製造業ハ英國ト印度ノ獨占ナラサルヲ見ルヘシ。

黄麻ハ百年前ニ在テハ商品トシテ世ニ知ラレサリシカ、今ヤ世界的ノ商品トナリ、印度ノ工業品トシテ第一位ヲ占メ、其需要ノ逐年増進セルカ爲メ過去五年間ニ其價格ハ二倍シ、價格ノ上進ハ耕地ノ擴張ヲ促シ、其面積ハ同年間ニ二百二十萬「エーカー」ヨリ三百八十萬「エーカー」ニ増加シタリ。然レトモ黄麻ハ殆ント「ペンゴール」州ト「アッサム」州ニ限ラル、ヲ以テ、將來他ノ地方ヘモ擴張ヲ圖ラントシテ、現時各地ノ農事試驗所ニテ試驗シツ、アリトイフ。黄麻製品ハ黄麻袋ト黄麻布トノ二種ニシテ前者ハ米、小麥、種子、穀物等ノ包裝又ハ運搬用ノ袋トナシ、後者ハ主トシテ棉花、羊毛其他纖維類ノ包裝ニ使用ス。今是等兩品ノ需要國ヲ見ルニ、米國ハ第一ニシテ以下左ノ如キ順ニ需要ス。

輸 出 額	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
英領印度	一一九,二九三,五六九	一〇二,六七一,六四三	一一一,六〇七,五三四
重要輸出品			五十九

米	國	四三、四〇〇、八八五	三四、一四八、四七四	四〇、二九九、八六二
アルゼンチン共和國	國	一五、九三〇、七六二	一四、七四〇、七〇三	二一、三三八、一七四
英	國	一〇、九三三、八四六	八、二三三、六二〇	七、七〇四、九八六
ニュー・サウス・ウエールズ(濠洲)		四、八四九、〇七七		
海峽殖民地		四、三〇七、三七一	三、一二八、七五二	二、四一一、八七八
智利		三、九一六、九〇二	三、〇五二、三七三	四、六九九、七九八
ウイクトリア州(濠洲)		三、三六四、一九一	一〇、一八一、八九四	二、六八四、三七九
日本		一五三、二二三	三八〇、八八三	一、三二三、九八一

過去三年間、原料黃麻ノ最高最低價格ハ左ノ如シ。

年次	四百英斤入一俵ニ付最高	同上	最低
一九〇五年	三十圓三十七錢		二十五圓四十七錢
一九〇六年	四十七圓二錢		三十圓六十九錢
一九〇七年	四十圓八十一錢		二十五圓二十六錢

三 原料皮革及熟皮 印度輸出品ノ主要ナルモノハ黃麻、棉花及米ノ三ニシテ以下三十乃至四十種ノ輸出品アリ。此ノ中主要ナルモノハ皮革、種子、阿片、小麥、蟲膠及羊毛等也。殊ニ皮革ノ如キハ世界文明ノ進歩ト共ニ需要増進シタルヲ以テ、印度ノ皮革ハ必要ナル商品トナリ、最近ノ輸出額ハ原料ト製品トヲ合計スレハ約七千〇圓ニ達シタリ。今原料皮革ヲ需要シタル諸國ヲ檢スレハ、米國ハ第一位ニシテ輸出額ノ三割二分、獨逸ハ二割七分、埃國ハ九分、以太利ハ八分ニシテ、英國ハ僅カニ七分ニシテ本邦ノ如キハ一萬分ノ一二過キス、然ルニ熟皮ニ在リテハ原料需要國ト異ナリ、英國及ヒ本邦ノ

需要多クシテ、歐洲諸國ノ需要僅少也。是レ英國ノ政策カ自由貿易主義ニシテ、保護的關稅ヲ設ケサルカ爲メ製品ノ侵入シ來ルモノニシテ、本邦ノ如キハ未タ製革業ノ進歩セサルヲ示スモノナリ。今原料皮革ト熟皮トノ輸出額、並ニ主要ナル仕向地ヲ列擧スレハ左ノ如シ。

原料皮革

國別	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
輸出額	二二、八六、七六四 英斤	一八、九三、七〇三 封度	二二、七六、四八〇 封度
米國	三、一七、七八八	五、四三、四七三	六、〇三、三九六
獨逸	三、五、四〇八	三、八五、四四五	三、七三、四八〇
埃國	二、五九、八四〇	三、〇五、九〇九	三、七〇、二六〇
伊太利	八、五、四、五八	四、六〇、八四六	三、八七、〇〇八
英	八、四、六、四〇〇	三、五、一、四三	一〇、六、四、二六
西班牙	四、九、四、九四四	九、〇、五、六〇	二、九、五、三三四
佛	四、四、六、八四	五、三、九、七六	六、三、三、七六
日本	一五、三、四、四	三、七、七、八八	五、五、八、一八〇

熟皮

國別	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
輸出額	三、七三、三三三 英斤	三、二四、二七六 封度	三、七〇、〇六六 封度
英	二七、八、四、四三三	三、二、五、四七三	三、〇、四、八〇六
米	二、〇、四、二八八	二、三、六、〇〇八	一、九、五、四四四

英領印度 第十一章 重要輸出品

是等ノ油種子類ハ英國並ニ佛、獨及ヒ白耳義等歐洲諸國ノ需要スル所ニシテ石鹼ト蠟燭ノ原料ニ供セラル、棉種子ノ如キハ比較的近年ノ貿易品ナレトモ著シキ進歩ヲ呈シタリ、然ルニ原料ニテ輸出スルハ不利益ナリトノ理由ニテ、棉種子壓搾工場ヲ設ケタルモノアリシカ其成績好良ナラス、苦心研究ノ結果ハ、油トシテ輸出ニ適セサレハ内地需要タケノ油ヲ製スルニ止メ、其種粕ヲ輸出スルノ有利ナルヲ知リタリトイフ。若シ是等ノ種子油類カ印度ニテ製造セラル、ニ至ラハ、勞働者ニ職業ヲ與ヘ國富ヲ増進スル利益ハ尠少ナラサルヘシト雖モ、歐洲諸國ニテ、油類ニ對スル關稅保護策ノ行ハル、間ハ其目的ヲ達スル能ハサルヘシ。過去三年間孟買市場ニ於ケル亞麻仁ノ價格ハ左ノ如シ。

一九〇五年	一「ハンドレッド、ウエート」(百十二英斤)ニ付	四圓七十三錢
一九〇六年	同上	五圓七十一錢
一九〇七年	同上	六圓十四錢

五 製茶 近年製茶ノ貿易ハ激甚ナル競争ヲ生シタリ、即チ往昔世界ニ於ケル茶ノ需要ハ清國ノ供給スル所ニシテ、約四十年前ニ在リテハ競争國皆無ノ有様ナリシカ、本邦製茶貿易ノ發達ト共ニ、約三十年前ヨリ印度及錫蘭茶ノ市場ヘ出ツルアリ、爾來印度茶ハ長足ノ進歩ヲナシ、今ヤ支那及本邦茶ヲ壓倒セントスルニ至リタリ。今英領印度及錫蘭島ニ於ケル栽培面積ト生産額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

(但シ海上輸出高ハ實數ニシテ其他ハ概算ナリ)

英領印度ノ紅、綠茶生産ト輸出

年次	曆年	面積	積	生産額	輸出		額
					陸上	海上	
一九〇三年	一九〇三年	五、三六二	五、三六二	二〇、四一八	六、九六六	二四、三八四	

一九〇四年	一九〇四年	五、四四七	五、四四七	二一、五五三	七、四三三	二八、九八六
一九〇五年	一九〇五年	五、八〇六	五、八〇六	三三、七三三	九、〇五五	四二、七八〇
一九〇六年	一九〇六年	五、九三三	五、九三三	三二、四〇一	九、四二五	四一、八二六
一九〇七年	一九〇七年	五、六六三	五、六六三	二八、〇〇〇	八、五八六	三六、五八六

(備考) 印度ニテ最多量ノ茶ヲ産出スルハ「アッサム」州ニシテ次ハ本部、ベンゴール、トラバンコールトス

英領印度ノ綠茶生産額

一九〇四年	(曆年)	四、八七一、〇〇〇 英斤
一九〇五年	(全)	三、九九九、〇〇六
一九〇六年	(全)	三、五八七、〇〇〇

英領印度ノ綠茶輸出(海陸輸出額合計)

一九〇五—〇六年	(會計年度)	二、一八三、九四〇 英斤
一九〇六—〇七年	(全)	二、〇三四、三八四
一九〇七—〇八年	(全)	一、八〇六、〇三一

錫蘭ノ紅茶栽培面積ト輸出額

年次	面積	輸出高
一九〇三年	三、八四、〇〇〇 英斤	一、四二、四七二、三四五
一九〇四年	三、八三、〇〇〇	一、五三、八四五、六三六
一九〇五年	三、八〇、〇〇〇	一、六九、四六〇、六七四
一九〇六年	三、八五、〇〇〇	一、六五、八九九、三九九

錫蘭ノ綠茶輸出額

一九〇七年 三八七、〇〇〇

一九〇五年 一七六、一一七、〇一六

一九〇六年 三、一六九、二八六英斤

一九〇七年 四、〇〇九、九三六

五、九〇六、七一六

是ニ由テ觀レハ印度、錫蘭共ニ栽培面積ト產出並ニ輸出額ノ逐年増進シツ、アルト共ニ、國內產出額ノ大部分ハ他國ヘ供給セラル、モノナルヲ知ルヘシ。即チ錫蘭ノ消費ハ未詳ナレトモ需要多キ印度ノ消費ヲ以テスルモ、概略七百萬英斤即チ產出額ノ約百分ノ三ニ過キスシテ、殘餘ハ他國ヘ供給シツ、アリトス。英國ノ統計ニヨレハ、一八六五年ニ英國ヘ製茶ヲ供給シタルハ清國(九割三分)印度(二分)ニシテ錫蘭ハ皆無ナリシカ、一九〇六年ニハ清國ハ四分ニ降リ印度ハ五割七分錫蘭ハ三割三分ニ増進シ、四十年間ニ清國ト印度トハ其位置ヲ顛倒シタリキ。元來印度ニ於ケル製茶業ハ本邦及ヒ清國ニ比スレハ近年ノ産業ニシテ、一八三〇年ノ頃清國ヨリ移植ヲ試ミ、種々ナル研究ト困難トヲ經テ遂ニ實績ヲ擧ケタルモノニシテ今ヤ製茶ノ主產地タル清國ヘ輸出ヲ爲スニ至リタルハ驚クヘキ成功トイフヘシ。

此ノ如ク英領印度(錫蘭ヲ除ク以下同シ)製茶貿易ノ發達ニ伴ヒ投資額モ著シク増進シ、一九〇五年一月マテニ、英京倫敦ニテ登記シタル製茶業ノ資本金ハ約一億四千四百萬ナリシカ、一九〇七年十一月マテニ登記シタル資本金ハ約二億一千六百萬圓ニ達シ、一九〇六年中央英領印度ノ茶園ニ於ケル使用労働者ハ、常雇者四十八萬九千人、臨時雇者八萬一千六百八人ニシテ、同年中常雇者ノ數二萬二千人ヲ増加シタリトイフ。是等以外ニ登記セラレサル小規模ノ製茶業ハ其數少カラス殊ニ近年英國及獨逸ノ輸入稅輕減ト、内地消費ノ増加ト、歐洲諸國ノ需要増加ハ、英領印度製茶業ノ發達ヲ促シタルカ如シ。(英國ノ製茶輸入稅ハ一英斤ニ對シ六片ナリシカ一九〇六年五月十四日ヨリ五片トシ又獨逸ハ一英斤ニ對シ約五片二分

ノ一ナリシカ一九〇六年三月一日ヨリ一片三分ノ一ニ輕減セラレタリ)左ニ掲クル表ハ英領印度ノ最近三ヶ年ニ於ケル輸出額ト主要ナル仕向地ヲ示ス。(但シ紅綠茶ヲ合計ス)

國別	一九〇七年	一九〇八年	一九〇九年	一九〇九年	一九〇九年
	數量(英斤)	價額(圓)	數量(英斤)	價額(圓)	數量(英斤)
英國	一六、三三、七二七	四、三三、六六四	一七、二六、九七一	五、三三、〇二五	一八、三六、六五五
加奈陀國	四、七三、五三三	一、三七、〇四四	七、〇六、四四九	二、三六、一六五	六、八〇、三三七
露國	一五、〇七、〇七二	四、四四、五三四	一八、五五、四四五	五、四三、八〇〇	一〇、三三、〇〇五
亞細亞	一一、〇九、〇三三	三、〇三、三七一	八、四〇、〇四八	二、〇六、四九九	八、一〇、七四四
亞細亞土耳其	三、〇四、〇八二	一、〇一、四三三	三、三三、三五二	九、四九、七七二	二、六三、〇一八
錫蘭	八、八〇、八八四	三、三三、四四三	四、二六、八五三	一、七八、五九九	一五、五八、四四九
清國	六、七三、九〇〇	二、〇六、四四三	五、七二、四八二	一、六四、七五五	六、二〇、五八三
波蘭	一、五七、九三九	四〇、〇四三	九〇、五九九	三、五、八四三	三、七、三三八
北米	二、〇六、四〇八	六七、四四三	二、三六、八五三	三三、八四三	二、五七、九三三
輸出總計	三七、〇三、三三七	一〇、三三、三三七	三三、六二、五五八	六、八〇、四三三	二四、九、四三三

錫蘭茶輸出額ト主要ナル仕向地

(曆年ニシテ一九〇七年)

輸出額

英國 一八二、〇三三、〇三二英斤

露國 一一一、六六八、八三六

亞細亞 二四、二八五、六七六

英國 一九、九五二、〇一一

英領印度 第十一章 重要輸出

米 國 清 國

一二、五七五、八一八
八、四六一、八一六

六十八

是ニ由リテ觀レハ印度茶ノ需要國ハ英國ヲ第一トシ露國、濠洲、錫蘭、清國、亞細亞土耳其、北米合衆國、波斯ニシテ錫蘭茶ハ英國、濠洲、露國、米國、清國ノ順序ナリトス是等ノ内英國、清國等ハ販路區域限定シ將來ノ需要ハ人口ノ増加ニ俟タサルヲ得サルヲ以テ、近時印度ノ茶業者ハ露國、北米合衆國及波斯ノ如キ販路ノ餘地ヲ存スル諸國ノ市場ヲ開拓セントシツ、アリ。殊ニ印度茶ノ市場トシテ露國ハ最重要ニシテ、一方ニハ海運ニ依リ直接ニ供給スルヲ得ルノミナラス、他方ニ國境ヨリ陸上輸送ヲ爲スト共ニ、英國、獨逸及清國ヲ經テ輸出シ得ルヲ以テ其需要區域ハ廣大無限也。故ニ近時印度茶業者バ爰ニ着眼シ、販路擴張策ヲ講シタル結果、西比利亞鐵道ヲ經テ輸送スルノ有利ナルヲ知り、カルカッタ、ウラジオストツク間ニ航路ヲ開キ、コロソ積替ノ不便ヲ避ケントスル計畫ヲナシ、一九〇九年製茶貿易期ヨリ實行スヘシトイフ。因ニ印度政府ノ計算ニ據レハ一九〇七年一日ヨリ九月ニ至ル九ヶ月間ニ、印度及錫蘭茶ヲ露國へ供給シタル數量ハ、三〇、五四二、〇八一英斤ニシテ、前年同期間ニハ二四、五六六、三二九英斤ナリ。而シテ是等ノ内ニハ、清國ヨリ輸送シタル磚茶中へ混入ノ印度粉茶ヲ含マストイフ。印度ニ於ケル茶ノ賣買ハ主トシテ競賣法ニ依ル、今カルカッタニテ最モ多ク賣買セラル、品位ノ平均價格ヲ舉クレハ左ノ如シ。

年 次	ボローケン、ペコー 英一、斤ニ付	全	ハコー、スーチヨン 全
一九〇四—〇五年	二十三錢八厘	二十一錢八厘	十八錢四厘
一九〇五—〇六年	二十五錢五厘	二十一錢一厘	十七 錢
一九〇六—〇七年	二十七錢二厘	二十二錢八厘	十八錢九厘

一九〇七—〇八年

二十九錢二厘

二十六錢九厘

二十五錢二厘

斯ノ如ク價格ノ逐年昇騰シツ、アル所以ハ、需要ノ增加カ其主因ヲナスハ勿論ナレトモ、又英國ノ關稅低減ニヨリ、價格ニ影響ヲ及ホサスシテ混合程度ヲ變シテ品位ノ改良ヲ促シ、價格ヲ維持セシメタルニ由ルモノ少カラストイフ。

六 小麥及麥粉 麥粉ハアデン、亞細亞土耳其、東部亞弗利加、錫蘭及海峽殖民地等ノ東洋諸國へ輸送シ、小麥ハ主トシテ英國、白耳義及ヒ佛國へ供給ス。往時小麥ハ合併州ニ産シカルカッタヲ經テ輸出シタリシカ、鐵道ノ發達ニ從ヒ本品ノ貿易ハボンベール港ニ移リ、最近ニ至テハカラチ港ノ奪フ所トナリ、其生産地モバンジャブ州ヲ第一トスルニ至リタリ。現時印度ノ小麥生産額ハ、一年約八、九百萬噸ニシテ一割乃至二割五分ヲ國內消費ニ供シツ、アリトス。將來北部印度ニ於ケル灌溉設備ノ擴張セラル、ニ至ラハ、一層産出高ノ増進ヲ來スヘシト云フ。左ニ掲クル表ハ最近年間ノ栽培面積ト生産額并ニ輸出額ヲ示ス。

年 次	面 積 エーカー	生産額 噸
一九〇二—〇三年	二二、三九五、二七七	七、九一七、四四六
一九〇三—〇四年	二八、四一三、七四三	九、六四一、一四五
一九〇四—〇五年	二八、四七〇、二〇〇	七、五八二、〇四〇
一九〇五—〇六年	二六、三五七、四〇〇	八、五七九、一四〇
一九〇六—〇七年	二九、四八八、九〇〇	八、四四七、八四〇

(備考) 最モ多ク小麥ヲ産スル地方ハバンジャブ合併州、中央州、ボンベール州、北部印度等トス

小 麥 輸 出 額

英領印度 第十一章 重要輸出品

六十九

年次	數量	價額
一九〇三—〇四年	八八〇、四五九	五六、〇六〇、二七九
一九〇四—〇五年	一、二九五、五六五	七二、四一〇、八七四
一九〇五—〇六年	二、一五〇、〇二五	一一六、九二一、六三二
一九〇六—〇七年	九三七、五二三	五五、七六一、九三九
一九〇七—〇八年	八一、四四五	四七、三七一、六五六
一九〇八—〇九年	一〇九、七五七	八、七五〇、七〇七
一九〇〇—一〇年	一、〇五〇、五七四	八二、〇九〇、三四七
一九〇三—〇四年	四〇、五二一	三、四六〇、一四四
一九〇四—〇五年	五一五、七四八	四、五一九、八一
一九〇五—〇六年	四四、九五三	四、一六八、二七一
一九〇六—〇七年	四〇、九二三	三、八二四、六九七
一九〇七—〇八年	三七、二九九	三、六六〇、二三〇
一九〇八—〇九年	三〇、一〇四	三、四〇三、〇〇九
一九〇九—一〇年	三五、〇五四	三、八七七、六一五

現時小麥ハ印度ノ重要輸出品ナレトモ、其生産額ハ世界各國ニ比スレハ頗ル僅少也。今主要ナル小麥産出國ノ生産ヲ見ル

ニ、一九〇七年ニ世界ノ生産額ハ約八千四百六十八萬噸ニシテ歐洲諸國ハ百分ノ五十、米國ハ百分ノ二十、亞細亞ハ百分ノ三十、ニシテ其内印度ハ僅ニ百分ノ十、ニ過キササル也。左ニ掲クル表ハ一留比即チ我六十六錢ニ對スル賣買數量ナリ。

年次	バンジャブ州	合併州	中央州及ベラー	ボンベイ州
一九〇三年三月	三〇、八八	三〇、三四	二六、六二	二一、二九
一九〇四年三月	三四、六六	三二、三二	四八、八二	二七、二三
一九〇五年三月	三〇、四六	二四、九五	二八、〇六	二五、六五
一九〇六年三月	二七、〇五	二一、七二	二三、三七	一八、二三
一九〇七年三月	二六、一〇	二六、一〇	二七、四四	二〇、五一

七 羊毛 印度ノ羊毛ハ歐洲及濠洲産ニ比スレハ毛、短少ニシテ縮絨性ニ乏シク概シテ品質良好ナラス。品質ノ優等ナルハ北部産ニシテバンジャブ、合併州、シンド、中央州等ハ其中心也。普通ニ賣買セラル、品種ハ第一等品ハ「oria」トイヒ最上等ニシテ毛長ク縮絨性ニ富ミ帽子又ハ薄地羅紗ヲ製スルニ適ス。次ニ優等品ニシテ「Ainani」ト稱スル種類アリ、毛強クシテ重量アリ其價格ハ前者ト同一ニテ主トシテ羅紗ノ重量ヲ増加スルニ用ヒラル。下等品ニ二種アリ、一ハ「Malwa」トイヒ毛弱ク柔軟ニシテ最モ細シ、他ハ「Johpore」トイヒ毛強ク重シ。是等ノ羊毛ハ「ボイベイ」港、又ハカラチ港ヨリ輸出セラル。現時「カラチ」港ノ發達ニ從ヒ、「ボンベイ」ノ輸出ハ減退シツ、アリトス。本品ノ輸出貿易ハボンベイ及カラチニ於ケル大商人カ生産者ト特約ヲ結ヒ前貸金ヲ以テ生産者ヨリ購買權ヲ掌握シ、貨物集積シ來レハ之ヲ委託販賣トシテ歐洲へ輸送スル習慣ニシテ、ボンベイ及カラチニテ取引契約ヲナス場合ハ極メテ稀ナリ。此ノ委託荷ノ到着スルヤ、英國ノ仲買商人ハ之ヲ競賣ニ附シ決算ヲ爲ストイフ。印度羊毛ハ本邦ノ需要ニ適セサルニアラサレトモ、英國ノ需要多ク價格高率ナルヲ以テ、未タ十分ナル需要ヲ見ルニ至ラサル也。今其輸出統計ヲ擧クレハ左ノ如シ。

輸 出 額	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
英 國	英 斤 元、七〇、六〇	英 斤 四、三三、五〇	英 斤 元、三三、三三
日 本	三、四、八〇	四、一三、七五	三、五五、〇六
米 國	三、七〇	六、〇三	三、三〇
留 比	二、一〇、五三	三、三〇、七〇	一、八五、八六
留 比	二、四、八四	三、三三、三三	一、八二、〇六
留 比	一、九、三〇	三、七六	三、三〇
留 比	二、四、二〇	三、六、〇〇	一、八七、八四
留 比	二、四、二〇	三、七六	三、三〇
留 比	二、四、二〇	三、七六	三、三〇

八 蟲膠 蟲膠ハ小蟲ノ分泌物ニシテ、幼蟲ハ母蟲ノ死體ヨリ出テ樹枝ヲ匍ヒ、一定ノ位置ヲ求メテ食ヒ込ミ成蟲トナルマテ其位置ヲ動クコトナク、分泌物ハ群蟲ノ周圍ニ堆積シ五、六月及ヒ十、十一月ノ採收期マテニ其莖幹ヲ掩蓋スルニ至ルスノ蟲ノ成育スル樹木ハ種類多シト雖、就中世人ニ熟知モラレタルハ *Bursera robusta*, *Schleichera tinjiza* 及ヒ *Thorea bohuana* ノ三也トイフ。從來世人ハ一般ニ膠蟲ノ色ノ異ナル所以ハ生育シタル樹木ノ如何ニ由ルモノ也ト信シタリシナ、近時研究ノ効ヲ積ミタル結果トシテ漆蟲ノ種類ニ起因スルモノトノ新説出ツルニ至リタリ。斯ノ分泌物ヲ以テ掩蓋シタル莖幹ハ、之レヲ棒狀蟲膠ニ乾燥シテ粉末トシ莖幹ヲ除去シ水ニテ洗滌ス、斯クシテ得タルモノハ之レヲ「シードラック」ト云ヒ、煮沸シテ精溜シタルモノハ之レヲ「ラツクダイ」ト稱ス。

製造法ハ其用途ニ從ヒ、黄色砒石又ハ松脂ヲ混シテ製ス。印度ノ外國貿易表ヲ檢スレハ、外國産殊ニ加奈太産ノ松脂ヲ多量ニ輸入シツ、アルヲ見ル、是レ主トシテ蟲膠製造用ニ供スルモノナリ。右純粹及混合ノ蟲膠ハ、之レヲ雲齋布ノ袋ニ入レ溶解スルマテ熱スルトキハ布目ヨリ浸出スルニ至ル、此時熱シタル管ヲ以テ擴ゲ薄キ板形トナシ、漸次之レヲ擴ゲテ紙ノ如ク薄片トナラシム。是レ即チ「セーラック」ト稱シ商品トシテ廣ク需要セラル、モノナリ又薄片トナサシテ溶解シタル蟲膠ヲ平滑ナル板面ニ滴下スルトキハ「ボットン、ラック」ヲ製スルヲ得ヘシト云フ。「柘榴ラック」ハ其名ノ如ク柘榴色ヲナシ、蒸汽力ヲ用ユル工場ニテ多量ニ製造セラレ、其製造中ニハ砒石ヲ混セスシテ製スト云フ。

本品ハ漸次機械的ニ製造セララル、ニ至リシモ、尙未タ手工業ノ存スルモノ尠カラス。蓋シ手工業ニ在テハ、機械的ニ製造スル能ハサル品位ヲ製スルヲ得ルニ由ルト云フ。

英領印度ニ於ケル本品製造業ノ中心ハ、ベンゴール及ヒ合併州ニシテ、過去五年間ノ工場數及職工數ハ左ノ如シ。

年 次	工場 數	職 工 數
一九〇二年	四六	五、八三六
一九〇三年	七一	六、八三七
一九〇四年	五九	五、八四三
一九〇五年	七二	六、四四二
一九〇六年	六二	五、八六九

本品ハ種々ノ用途アレトモ就中最有用ナルハ洋漆及ヒ封蠟ノ原料ニシテ、次ニハ帽子ノ製造及石版用「インキ」ノ原料ニ用キラル。印度ニ在テハ、農業ニ、美術ニ、工業ニ、其用途廣シ。譬ヘハ大工、車匠及輻輳細工匠等ハ其製作品ニ塗リ、又真鍮ニ着色シテ琺瑯及象嵌ノ模造製ヲ作り、象牙匠ハ着色ニ使用シ、磨玉師ハ砥ノ代用トナシ、又小刀及刀劍等ノ柄ニ用ユル等其用途ノ廣キ枚舉ニ遑アラストイフ。

本品ノ始メテ歐洲へ輸出セラレシハ千七百九十年ノ頃ニシテ、千八百六十八—九九年ニ至リ「セラック」百二十萬「ルビー」ラックダイ「八十萬「ルビー」ヲ輸出シ、爾來後者ニ輸出ハ漸次衰退シ、前者ノ輸出ハ著シク増進シタリ。近年電氣工業ノ發達ト、優等洋漆ノ需要増進ノ爲メ、價格ノ昇騰ヲ促シ、價格ノ昇騰ハ、次期ノ收穫ヲ害スルヲ顧ミスシテ濫收スル弊ヲ生シタリ。故ニ現時印度政府ノ山林局ニテハ、科學ヲ應用シテ一層收穫ノ増加ヲ計ランコトヲ講シツ、アリト云フ。「セラック」及ヒ「ボットン、ラック」ハ精製品ニシテ、棒狀「ラック」及ヒ「シード、ラック」ハ粗製品ナルヲ以テ、今兩

者ヲ區別シテ最近輸出數量及ヒ價額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

但し數量の單位は(ハンドレット、ウエイト) 價額の單位は留比なり

品名	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
セラック	二七、五三三	二〇、四三三	二八、三三六	三〇、七〇七	二六、〇七〇
ボットンラック	四、八五二	四、四四一	三、七二七	四、四四一	三、五八〇
合計	三二、三八五	二四、八七四	三二、〇六三	三五、一四七	二九、六五〇
スチツク及シ	二、九〇四	三、〇九〇	三、七二〇	三、九八〇	三、七二〇
ド、ラック	一一、〇〇〇	七、七三三	一五、八八八	二〇、二七四	一五、六三三

右「ラック」ヲ最モ多ク需要スル國ハ北米合衆國ニシテ、次ハ英國、獨逸ノ順序也。今最近三年間ノ最高最低價格ヲ示スコト左ノ如シ。

年次	最高	最低
一九〇五年	「ハンドレット」 ウエイトニ付 一三八留比三	「アンナ」 一五五留比三
一九〇六年	同	同
一九〇七年	同	同
一九〇八年	「ボットンラック」 「ハンドレット、ウエイト」 留比 九、九七八	「アンナ」 一五六留比六
一九〇九年	「セラック」 「ハンドレット、ウエイト」 留比 三、八八九	「アンナ」 一五六留比六
一九〇四—〇五年	六、〇九八	一、四九一
一九〇五—〇六年	二、五三四	八、一六
一九〇六—〇七年	三、一五〇	九、四二
一九〇七—〇八年	二、五	一、六九四
一九〇八—〇九年	三、三	一、二五五
一九〇九—一〇年	一	一、五六七

本品ノ本邦ニ對スル貿易ハ數量價額共ニ僅少ナリト雖モ、逐年進歩ノ趨勢ヲ呈シツ、アルヲ見ル。今最近七ケ年間本邦ヘノ輸出額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

九 其他ノ輸出品 以上列舉シタル商品ノ外、阿片ノ如キハ金額ニ於テハ蠟膠、羊毛以上ニ位スト雖モ、本邦ト貿易關係皆無ニシテ、且清國政府カ禁止策ヲ執レルカ爲メ生産、輸出共ニ漸次減退シ、一九〇八年(曆年)ノ如キハ清國トノ條約ニヨリ、六萬一千箱(百四十英斤入)ヲ限リ供給シ、次ノ二年間ハ毎年五千一百箱ニ減スルコトヲ定メタルヲ以テ、將來印度ノ産業トシテ重要ナラサルニ至ルヘシ。珈琲ハ約二十年前ニ在リテハマインソア、クルグ、トラバンコール等ノ地方ニテ盛ニ栽培セラレ、品質優等ニシテ歐洲ノ需要ニ適シ、一九〇五—〇六年ニハ約一百万圓ノ輸出ヲナシタリシカ、爾來ブラジル産ノ増進シタルカ爲メ打撃ヲ受ケ、今ヤ其輸出ハ約半額ノ低下シタルト共ニ價格モ亦半額ニ下落シタリ。藍ハ獨逸人造藍ノ發明セラレシ以來漸次衰運ニ赴キ、現時、瓜哇ナタール種ヲ輸入シテ品質ノ改良ヲ講シツ、アリト雖、將來回復ノ見込無キ状態ニアリトス、其他油類、木材、絹等ノ如キ輸出品モ概シテ不振ナリ。是等ノ商品ハ印度ノ位置カ、列國ノ競争ニ堪ユル能ハサル事情ノ下ニアルモノニシテ、本邦ノ需要ニ適シタル商品ハ概言スレハ棉花ト米トノ二ニ過キス。

印度重要輸出品五ケ年對照表 (海上)

品名	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
花(英斤)	八六、七五三	八六、八三三	九六、六六六	七三、四三三	九八、五三三
圓	一、三〇、三三三	一、三三、五三〇	一、三〇、八三三	三三、〇八八	三三、三三三

ニ達シタリ、然ルニ日印間ノ輸出入總額ハ僅カニ七千二百萬圓ニ過キス。其内我ノ彼ニ供給スル所ハ四分ノ一、彼ノ我ニ供給スル所ハ四分ノ三ニシテ、兩國ノ貿易ハ甚タ少額ニシテ且輸出入額ハ頗ル不均勢ニアリトス。今過去六年間ノ日印輸出入額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年
本邦ヨリノ商品輸入額	八、三三〇、五〇〇圓	七、六三三、三三三圓	八、三六六、九〇〇圓	一〇、三三三、六〇〇圓	一四、一五三、七三三圓	一三、九三三、六三三圓
本邦ヘ商品輸出額	五、五〇一、二〇〇圓	六、三三三、三三三圓	六、四三三、三三三圓	四、三三三、三三三圓	七、〇〇〇、〇〇〇圓	四、三三三、三三三圓
輸出入合計	三、八二九、三〇〇圓	一、二九九、〇〇〇圓	一、九三三、五〇〇圓	六、〇〇〇、〇〇〇圓	七、一五三、七三三圓	九、六〇〇、〇〇〇圓

右輸出ハ原料品、輸入ハ製造品ニシテ其品種數多アレトモ、要スルニ本邦ハ棉花ト米トヲ購入シテ、絹織物ト莫大小トヲ販賣シツ、アル状態ニアリ。然ルニ本邦品中、最多額ヲ占ムル絹織物ト次位ト莫大小トノ合計金額ヲ以テスルモ、本邦ヘ第二位ノ輸出品タル米ノ價額ヲ償フ能ハス、本邦品輸入總額ヲ以テスルモ、本邦ヘ第一位ノ輸出品タル棉花價格ノ三分ノ一ニ達セサル也。是レ種々ナル事情ニ妨ケラル、ニヨルモノナルヘシト雖、兩國間貿易ノ聯絡相通シテヨリ日尚ホ淺ク、本邦商工業者カ、未タ彼地ノ嗜好需要ノ如何ヲ熟知セサルコトモ亦其一原因ナルヘシ。今左ニ逐次本邦品ノ貿易情況ヲ述ヘントス但シ本邦ヘ輸出スル商品ハ前章輸出ノ部ニ述ヘタリ。

イ 絹織物ト絹糸 絹織物需要ノ趨勢ハ逐年進歩シ、一九〇七—〇八年ノ輸入額ハ九百二十八萬圓ニ上リ、其ノ内、本邦品ハ五百六十三萬圓即チ半額以上ヲ占メ最優勢也。本邦品ノ種類ハ紋壁、羽二重、琥珀其ノ他ノ薄キ絹織物ニテ、在留外人ノ需要ハ僅少ニシテ多クハ土人ノ需要ニ供セラレ、婦人ノ衣服、肌着、鉢巻等ニ用ヒ、色ハ赤色、薄桃色、草色等ニシテ色彩ハ本邦ニテ普通用フルモノト異リ、印度人ノ嗜好ハ特種ノモノナルカ故ニ、本邦ニテ加工シタルモノハ需要ニ適スルモノ少ク、概ネ白地ニテ輸出シ、孟買又ハ蘭貢ノ都市ニ於テ染上ケ刺繡ヲ施シタル後各地ヘ分配セラル。近年本邦ニテ染

色シ、又ハ刺繡ヲ施シテ輸出スルモノアレトモ、本邦商工業者ノ研究シタルモノナラス、主トシテ神戸、横濱、在留印度人商館ノ指定ニ從ヒ製造シタルモノ也。從來本邦人ニシテ彼地ニ渡航シ、絹織物業ヲ營ミタルモノナキニアラサレトモ、多クハ失敗ニ歸シ、現時本品ノ商權ハ、本邦在留印度人ノ掌握スル所ナリ。元來、印度向織物ハ下等品ニシテ、價格ノ低廉ヲ必要トスルヲ以テ、印度商館ハ本邦價格ノ下落ニ乘シテ買付ケ、印度市場ノ好況ニ際シ販賣スルカ如キ取引方法ヲ爲シ、幾分投機的也。之レニ反シ本邦人ハ約定賣買ニ依ラントスルヲ以テ、其ノ市場ハ印度人ノ左右スル所トナルヲ免レシ又本邦人ハ彼地ノ嗜好需要ノ詳細ヲ知悉スルコト、印度人ニ及ハサルト共ニ、其ノ輸入港ハ孟買、蘭貢、カルカッタ等區々ナレハ、本邦品ノ需要ハ年額五百萬圓以上ニ達スルモ、一市場ノ集散ハ多額ナラス、從テ絹織物ヲ專業トスル特別ノ支店又ハ販賣店ヲ設クルモノナク、未タ直接貿易ノ發達ヲ見ルニ至ラサルナリ。

印度ニハ古來養蠶業行ハレ、ベンゴール、アツサム、合併洲、パンチャブ、マイソア其他各州ヘ普及シ、現時登錄セラレタル製糸場數ノミニテ七十三、使用職工數一萬四千五百八人ニ達シ、廣ク行ハル、産業ナレトモ、概評スレハ印度ハ絹ノ生産地トシテ價値ナク、將來ニ至リテモ發達ヲ見サルヘシ。又、絹織物業モ漸次衰運ニ赴カントシツ、アルカ如シ。故ニ最近絹織物ノ輸入額、九百二十八萬圓ハ巨額ナレトモ、未タ最極限ニ達シタルモノニアラスシテ、將來發達ノ餘地ヲ存スルハ疑ヲ容レヌ。今、過去九年一八九九—一九〇〇年間ニ於ケル一ケ年ノ輸出入額ト最近年間ノ絹物ノ貿易統計ヲ見ルニ左ノ如シ。

印度ヨリ輸出

	一八九九—一九〇〇年	一九〇七—一九〇八年	一九〇八—一九〇九年	一九〇九—一九一〇年
生絲及繭(野生)	一、九三九、七七八 英斤	一、九四三、一二六 英斤	一、八三三、六四四 英斤	一、五七四、四七七 英斤
絹織物	一、二二七、三三三	六二四、八二二	五〇七、六七一	六〇七、四八五

紡績絹物	生絲	織絹	絹物
一九〇九—一九一〇年	二、三三〇、一八五 英斤	二、〇五〇、八三九 英斤	一、六九四、八四八 英斤
一九〇九—一九〇九年	二、一六八、四五八 英斤	一、八七二、五三三 英斤	一、八二二、六三二 英斤
一九〇七—一九〇八年	二、〇五〇、八三九 英斤	一、八七二、五三三 英斤	一、六九四、八四八 英斤
一九〇九—一九〇九年	二、一六八、四五八 英斤	一、八七二、五三三 英斤	一、八二二、六三二 英斤
一九〇九—一九一〇年	二、三三〇、一八五 英斤	二、〇五〇、八三九 英斤	一、六九四、八四八 英斤
一九〇九—一九〇九年	二、一六八、四五八 英斤	一、八七二、五三三 英斤	一、八二二、六三二 英斤

注意 紡績絹糸ハ一八九五—一六年来、印度統計書ニ一欄ヲ設ケタルモノニシテ、同年ニハ一、〇〇六、九〇九英斤ノ輸入アリシカ、其以前ノ輸入高ハ知ルコト能ハス。

即チ輸出ノ不振ナルニ反シ、輸入ハ著シキ増進ヲ呈シツ、アリトス。絹織物ノ輸入地ハ、第一孟買、第二蘭貢、第三カルカッタノ順序ニシテ孟買ノ輸入額多キ所以ハ、其販路區域宏大ニシテ、遠ク北部印度へ分配セラル、ニ由ルモノナリ。カルカッタハ般富ナルベンゴール州ヲ控ユルモ、販路區域ノ狭少ナルト絹織物ノ産地ナルヲ以テ、其ノ輸入額僅少ナリトス近年ベンゴール地方ハ、外國品輸入ノ増進シタルカ爲メ、養蠶業ハ打撃ヲ蒙リタリトイフ。緬甸人ハ最モ多ク絹織物ヲ需要スト雖、人口稀薄ナルヲ以テ、其ノ輸入額ハ比較的僅少ナリトス。緬甸ノ絹織物市場ハ、往時英國品ノ獨占ナル所ナリシカ、今ヤ大半本邦品ヲ需要スルニ至リ、其絹業ハ漸次衰頽セントシツ、アリ。然レトモ印度本部ニ於ケル孟買、アーメダバット、ベナレス、カルカッタ等ノ都市ハ、今尙ホ絹業盛ニシテ錦繡、銀繡、縞絹、薄縐子、絹綿交織物、琥珀等ヲ製シ、原料ハ内國産ト、支那産ノ絹糸ヲ使用ス。是等絹織物ノ内、錦繡、銀繡等ハ、主トシテ各土人州王族ノ衣服、又ハ裝飾品ニ供セラレ、優等品ノ原料ハ支那廣東産ノ生糸也。

前ニ表示シタル輸入生糸ハ全部支那産ニシテ、本邦産生糸ノ如キ織度ノ細小ナルモノハ需要ニ適セス。蓋シ印度人ノ嗜好

ニ適シタル是等ノ高貴ナル織物類ノ原料ハ、織度太クシテ、光澤ニ富ムヲ必要品位トスル由ルモノトス。然レトモ紡績絹糸ニアリテハ、本邦産ノ侵入シ得ヘキ餘地ノ存スルモノアリ、現時印度ニ大規模ノ絹糸紡績所アレトモ、水ノ不良ナルト良職工ニ乏シキトノ二點ハ、本邦産ニ拮抗スル能ハス。又現時本品ヲ供給スル國ハ伊太利、獨逸、英國等ニシテ、伊太利ハ第一位ヲ占メ殆ント獨占ノ形勢ニアレトモ、二、三年前ヨリ試賣シツ、アル本邦品ノ商狀ヲ觀ルニ、富士紡績會社製品ノ如キハ、品質伊太利産ト同等ニシテ、價格幾分低位ナルヲ以テ、將來聲價ノ維持ヲ計リ、販路ノ獲得ニ盡瘁セハ、漸次伊太利製品ヲ驅逐スルハ難事ニアラサルヘシ。今左ニ紡績絹糸輸入貿易ノ梗概ヲ述ヘントス。

印度へ輸入シ來ル紡績絹糸ハ、從來支那又ハ佛領印度支那ヨリ輸入セラレタル生糸ノ代用ニ供セラレ、通常支那生糸ヲ混用シ、時トシテハ經緯共ニ紡績絹糸ヲ用ユルアリ、或ハ綿糸ト混用シテ土人用ノ腰卷、肩掛、下着等、各種ノ織物ヲ製シ其ノ用途極メテ廣シ。近時ベナレス地方ニテ新ニ製織セル「カシー」ト稱スル絹織物ノ如キハ、原料トシテ紡績絹糸ヲ使用シ漸次流行セントストイフ。今歐洲各國ヨリ輸入シ來ル種類ヲ舉クレハ左ノ五種ナリ。

- 一、片 糸 緯糸ニシテ白、黄二種
- 二、諸 糸 同上
- 三、同 上 經糸ニシテ白、黄二種
- 四、三本諸糸 經糸ニシテ白色
- 五、屑 糸 同上

右經緯及屑糸ノ輸入ハ、一九〇七—〇八年ニ三十九萬五千七百二十三英斤、價額百四十八萬二千四百八十八圓ニ達シ、伊太利、英國製品多額ヲ占メ、本邦品ハ五萬五千百十五英斤、價額二十一萬二千八百九圓ニシテ未タ少額ニ過キサレトモ、三年前即チ一九〇五—〇六年中本邦品ノ輸入額一萬二千〇六十九英斤、三萬九千六百六十三圓ニ比スレハ著シキ増進ヲ呈

シタリトイフヘシ。(右ハ視察當時ノ事情ナルカ最近印度統計ヲ見ルニ印度ノ紡績絹糸輸入額ハ一九〇八—一九〇九年度ニ約二百五十萬圓ニシテ本邦品ハ輸入額ハ約五十二萬圓ノ多額ニ達シタリ) 歐洲品ハ經緯兩者約半々ニ輸入スレモ、現時本邦ニテハ未ダ緯糸ヲ製出スルニ至ラサルハ遺憾也。(聞ク處ニ據レハ其後富士紡績會社ニテ緯糸ヲ製スルニ至リシトイ云) 今經緯兩者ノ需要ニ適スル番手ヲ擧クレハ如ノ左シ

緯糸

百四十手、百六十手、二百十手、二百八十手ハ需要多ク、時トシテ二百手、百二十手、三百四十手ヲ需要スルコトアリトス。

經糸

六十二手長サ五十二碼二分ノ一、六十四手長サ五十四碼四分ノ一、六十六手長サ五十六碼四分ノ一、六十九手長サ五十八碼四分ノ一、八十三手長サ五十二碼二分ノ一、ニシテ一玉ノ重量ハ約一英斤四分ノ一ナリ。

紡績絹糸輸入比較表

國別	一九〇八年—一九〇九年		一九〇九年—一九一〇年	
	數量	價額	數量	價額
英國	九二、七一五	三、八〇、五四〇圓	九五、五六二	三、七一、四一七圓
獨逸	一、五〇三	一、〇六二	三一四	二、二六三
白蘭地	三、九一六	五、一九一	一、四〇〇	二、六九九
佛蘭西	五六、四六七	一、二、六六四	五二、一四〇	六三、二八五
伊太利	二八五、五四二	八六、九三七	三六六、八五〇	八四七、二〇五

塊甸(船港)	一九〇八年—一九〇九年		一九〇九年—一九一〇年	
	數量	價額	數量	價額
支那(香港及澳門ヲ除ク)	四二、八九一	一、七二、八二二	二八、二八八	一〇二、七九四
日本	七〇、〇二八	二、二四、一八一	六〇、八四七	一九七、三三三
日及	一六八、〇八九	五、二〇、一九四	二二三、八〇三	六四八、九七〇
埃及	一一八、七七五	四、二八、〇六一	四六、九三八	一六四、〇八六
合計(其他ヲ含ム)	八四〇、二五六	二、五二五、〇七六	八七六、一七三	二、四〇〇、二二五

同 輸入港別

但シ一九〇八—一九〇九年

ベンガル港	二二、八二七	一〇〇、二九九
孟買港	七九七、〇二三	二、三九六、三六一
シンド港	一七、九五四	一九、九二九
マドラス港	一、五三二	六、三三六
ビルマ港	九二〇	二、一五一

現時印度市場ノ紡績絹糸ハ、支那生糸ノ價格ニ支配セラレ、支那生糸ノ價格高低ニ從ヒ需要増減ス。然レトモ、將來紡績絹糸カ支那生糸ヲ壓スルニ至ルヘキ趨向アリトス。

要之、廣東生糸ヲ原料トスル金襴、銀襴等ハ、本邦ニテ廣東生糸ヲ原料トシテ、製織スルニアラサレハ、本邦品ノ侵入ヲ許ササルヘク、又紡績絹糸ヲ原料トスル各種ノ織物ノ如キハ、手織機ヲ以テ製シツ、アレハ、將來本邦ニテ機械ヲ用ヒ、低廉ニ製造スルヲ得ハ本邦品ヲ供給スルヲ得ヘキモ、是等ノ織物類ハ印度固有ノ織方、染上、意匠ヲ施シタルモノ多ク、急速製出シ得ヘキニアラス。故ニ現下ニアリテハ、織物トシテ供給スルヨリハ、絹糸トシテ需要ニ應スルノ容易ナルニ如

カス。即チ本邦品ハ前述ノ羽二重、琥珀等織度ノ細キ生糸ヲ原料トシタル織物ト、紡績絹糸ノ如キ原料ノ販路ヲ擴張スルヲ以テ得策トスヘキ也。但シ、是等本邦製絹織物ノ内、染色、刺繡等ノ加工十分ナラスシテ、往々取引ノ障礙ヲ與フルアリ、又加工ヲ施サス白地或ハ無地ニテ輸送スルモノ尠ナカラサルハ、本邦技術ノ未熟ナルヲ示スモノニシテ當業者ノ研究スル點也。

ロ 綿製莫大小 本邦製莫大小ノ輸入貿易ハ近年ノ事業一屬スト雖、其ノ發達ノ迅速ナルハ驚クヘキモノアリ。即チ一八九九—一九〇〇年ノ輸入額ハ、約二百九十五萬圓ナリシニ、一九〇七—〇八年ニハ約四百四十萬圓ニシテ、九年間ニ五割ノ増進也、而シテ本邦製品ハ、同年間ニ一萬六千圓ノ少額ヨリ激進シテ、約五十餘萬圓ノ巨額ニ上リ、今ヤ英、獨、埃等各國品ヲ驅逐スルト共ニ印度ノ莫大小業ヲ壓スルニ至リタリ。現ニボンベイノ工場ニシテ閉鎖ノ已ムヲ得サル者アルニ至リ工場主等ハ、若シ本邦政府ニシテ保護金ヲ下附セル場合ニハ、印度政府モ相當ナル補助ヲ與ヘラレタシトテ請願スル者アリ、又印度政府ノ商事通信局ニテ發行スル報告書中ニモ、日本カ原料棉花ヲ印度ヨリ輸入シテ莫大小ヲ製シ、海上幾千里ノ往復ニ要スル運賃及保險料等ヲ支拂ヒ、尙且此ノ如キ勢力ヲ以テ輸入シ得ル所以ハ、政府ノ後援アルニ依ルモノナルヘシト、暗ニ輸出獎勵金ヲ下附セルカラ疑ヒタル論文ヲ掲ケタリシカ、其ノ後本邦駐在英國商務官ヨリ、日本政府ハ莫大小ニ對シ何等ノ保護ヲ與ヘスシテ、今日ノ盛大ヲ來シタル所以ハ主トシテ、

- 一 日本カ莫大小製造ニ熟練ナルコト、
 - 二 器械及製造費ノ低廉ナルコト、
 - 三 勞銀ノ低廉ナルコト、
 - 四 印度市場へ輸出スルニ熱心ナルコト、
- ノ四理由ニ歸因スルモノナリトノ報告ヲ得テ疑念ヲ去ルニ至リタリ。是ニ於テボンベイ地方ノ莫大小業者ハ、日本ノ製造

業者カ政府ノ補助ヲカラスシテ、此ノ如キ優勢ヲ占ムルニ至リシトスレハ、將來日本ノ莫大小、浴巾、靴下等ハ、必スヤ東洋市場ノ需要全部ヲ供給シ得ルニ至ルヘキヲ以テ、此ノ際、印度莫大小製造業者ハ、宜シク職工ヲ日本へ渡航セシメテ其ノ製造法ヲ練習スルヲ要ストト唱フルニ至レリ。今最近年間ニ於ケル莫大小ノ輸入額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

一九〇八—〇九年	四、一八〇、〇〇〇	日本ヨリノ輸入額	二、三〇〇、〇〇〇
一九〇九—一〇年	四、六〇〇、〇〇〇		三、〇〇〇、〇〇〇

此ノ如ク、本邦綿製莫大小貿易ハ、駭々トシテ隆運ニ赴キツ、アリト雖、同シク綿製品タル本邦綿布類ノ、未タ貿易開始ニ至ラサル所以ハ、綿製莫大小ハ其ノ種類極メテ少ナク、僅カニ六、七種ヲ出テサルト共ニ、原料綿糸ノ番手ハ十四乃至二十ニシテ、本邦ニテ原料ヲ製シ得ルニ、綿布類ハ百手以上ノ細糸製品多ク、本邦現下ノ紡績業ノ程度ニテハ到底製造シ得ヘキニアラス、又、太糸製綿布モ、古來使用シ來リタルモノナレハ印度人ハ卓越セル鑑識力ヲ有シ、英國品ナラスハ其ノ嗜好ニ適セサルニ由ルモノニシテ、將來ニ至リテモ、本邦綿布ヲ以テ、印度ノ需要ニ應スルハ容易ニ期待シ得サルヘシ、今左ニ逐次莫大小貿易ノ梗概ヲ述ヘントス。

一 色彩、形狀及目方 印度人ハ一般ニ派手ナル模様ヲ好ムヲ以テ、優等品ヲ除キテハ莫大小モ亦他ノ織物類ト同シク、派手ナル模様ヲ需要シタリシカ「スワデツシ、ムーヴメント」ノ起リテヨリ、從來、英、獨、埃等ヨリ輸入シ來リタル優等品ヲ排斥シテ本邦品ヲ代用スヘシトノ輿論旺盛トナリ、派手ナル模様ハ一部ノ需要ニ限ラレ、一般ノ嗜好トシテハ歐洲製優等品ノ如キ、無地又ハ淡白ナル色彩ヲ施シタルモノヲ選ムニ至リタリ。形狀ハ襯衣トシテハ長袖、半袖、一重胸二重胸及釦付ノ區別アリ、又目方ハ絹織物ノ如ク何々付等ノ條件ヲ以テ賣買セサルモ品質ノ良否ニ關スルモノナレハ、着荷毎ニ半打包ノ中ヨリ二、三ヲ取出シ見本ト比較検査ス。

ク失墜セシメサランコトニ努ムルト共ニ、寸法縮少ノ如キハ、價格ノ競争ヨリ來ルモノナレハ、貿易業者ト製造業者間、又ハ製造業者相互間ニ、氣脈ヲ通シテ矯正スルヲ要ス、第三ノ點ニ至リテハ本邦工業ノ幼稚ナルニ由ルモノナレハ、直チニ之ヲ變シテ大規模トナスコト能ハスト雖モ、小規模ヲ以テ、大注文ニ應スル策無キニアラサルヘシ、要スルニ本邦品ノ價格ハ頗ル低廉ニシテ、而カモ低廉ナルカ故ニ、販路ヲ獲タルハ争フヘカラサル事實ナレトモ、如何ニ低價ナレハトテ、品位劣等ニシテ使用ニ堪ヘサレハ、販路ノ壅塞ヲ來スニ至ル、故ニ、將來價格ノ維持ヲ計ルハ最モ必要件ニシテ、價格ノ維持ハ品位ヲ維持スル所以ニシテ、又聲價ヲ失墜セシメサル所以也ト知ルヘシ。

ハ 銅 本品ハ從來歐洲品ノ獨占ナリシカ、近年本邦品殊ニ住友銅ニテ、KS印ノモノ聲價ヲ得テ、印度市場へ侵入スルニ至リタリ、其用途ハ水瓶其他ノ器具ニ止マリシカ、電氣事業ノ發達ニ伴ヒ、幾分ノ需要増加ヲ見ルニ至リタリ。一九〇七—〇八年ノ輸入額ハ約千三百五十萬斤ニシテ内本邦品ハ百十萬圓ナリ今最近二ケ年間ノ輸入統計ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

内日本ヨリノ輸入額

一九〇八—〇九年	一八、〇〇〇、〇〇〇圓	一、四〇〇、〇〇〇圓
一九〇九—一〇年	一七、四〇〇、〇〇〇圓	一、九〇〇、〇〇〇圓

ニ 樟腦 本品ハ一九〇七—〇八年ノ輸入額、約百七十六萬圓ノ内、本邦品ハ約百七十萬圓ニシテ、半額以上ヲ占ム、用途ハ波羅門教徒カ寺院内ニテ皿上ニ燒キ、其灰ヲ以テ、宗教上ノ顔面塗料ニ供スルニ限ラル、カ如シ。今最近二ケ年間ニ於ケル輸入統計ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

内日本ヨリノ輸入額

一九〇八—〇九年	七七〇、〇〇〇圓	三七〇、〇〇〇圓
一九〇九—一〇年	一、〇〇〇、〇〇〇圓	五九〇、〇〇〇圓

以上兩品ハ大製造業ト、大貿易業者ノ經營ニ係ルモノナレハ、品質並ニ取引上ニ關シ、改良ヲ要スヘキ缺點ナシトス。

ホ 薑 往時清國ヨリ輸入シタリシカ、近年ニ至リテハ殆ント本邦品ノ獨占トナリ、一九〇七—〇八年ノ如キ輸入額二十四萬六千圓ノ内、本邦品ハ二十三萬二千圓ニ達シタリキ。本品ニ就キ注意ヲ要スル點ハ、夏ノ濕潤季ニ際シ微ノ生セサルコトナリ。

今最近二ケ年間ニ於ケル輸入統計ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

内日本ヨリノ輸入額

一九〇八—〇九年	二五〇、〇〇〇圓	一三〇、〇〇〇圓
一九〇九—一〇年	二〇〇、〇〇〇圓	一六〇、〇〇〇圓

ハ 燐寸 一九〇七—〇八年ノ輸入額ハ約四百八十萬圓ニシテ、内、瑞典ハ百二十九萬圓ニテ第一位ヲ占メ、本邦ハ第二位ニシテ八十一萬圓ナリ。然ルニ一九〇三—〇四年即チ五年前ニハ瑞典ハ四十二萬圓、本邦品ハ八十萬圓ニシテ、本邦品ハ依然進歩ヲ見サルニ、瑞典ハ三倍ノ増進ヲ呈シタリキ。斯ノ如ク本邦品カ歐洲品ニ壓セラレテ、アル所以ハ、製造法ノ不完全ナルコト、販賣方法ノ拙劣ナルコトノ二點ニ歸スルカ如シ。即チ本邦品ノ缺點ハ發火ト共ニ頭藥直チニ剝落シテ用ヲ爲サ、ルコト、包紙ノ褪色シ易キコト、軸木ノ不揃ナルコトニシテ、現ニボンベイ、カルカッタ等、在留本邦人ハ、本邦製燐寸ヲ販賣シツ、アル者ト、然ラサル者トヲ問ハス、多クハ自家用燐寸トシテ、瑞典製品ヲ消費スルカ如キハ、明カニ本邦品ノ粗製濫造ナルヲ證スルモノナリ。又販賣方法モ拙劣ニシテ、本邦商工業者間相互競争シテ、牆内ニ鬩クノ結果トシテ、一商標ノ燐寸カ、三年間信用ヲ維持シタル例ナク、價格益々降落シテ、歐洲品ニ比スレハ約三割ノ低位ニ在リトス。今最近印度市場ニ於ケル、歐洲品ト本邦品トノ價格ヲ對照スレハ左ノ如シ。

安 全 燐 寸

歐洲品

一(ゲロス)ニ付

十四安乃至一留比

九安乃至十一安

英領印度 第十二章 日印貿易

二 各種類需要ノ割合

色彩ニヨル需要ノ割合

無地八割—内瓦斯又ハ水振四割、白色二割、黑色五分、色無地一割五分
縞物二割

形状ニヨル需要ノ割合

鹿ノ子首七割—内半袖四割五分、長袖二割五分—二重胸四割、一重胸三割

卸付一割五分—内縁組付ノモノ五分、縁組ナキモノ一割

其他一割五分兄 Chemise 一割、Coat 五分

地質ニヨル需要ノ割合

普通物七割

裏毛物二割—カルカッタハ半袖多クボンベイハ長袖多シ

網製一割

寸法ニヨル需要ノ割合

幅ハ十六時ヨリ逐次二寸宛ノ差ヲ以テ四十時又ハ四十二時ニ至ル、其ノ賣行ノ割合左ノ如シ。

- 十六時乃至二十二時 一 割
- 二十四時乃至三十時 一 割五分
- 二十八時乃至三十六時 三 割
- 三十時 一 割五分

三十時乃至三十二時 一 割五分

三十二時乃至四十二時 五 分

二十八時 一 割

三 賣行季節 普通物ハ季節ノ區別無キモ、最賣行多キハ六月ヨリ十一月末マテトス。裏毛物ハ七、八月ヨリ十一月ニ至ル期間、網製、其ノ他類似ノ薄物類ハ二月ヨリ五月マテトス。

四 代金支拂條件 本品ノ貿易ハ獨、埃等、資本ノ洋溢セル歐洲諸國カ開始シタルモノナレハ、代金ノ支拂期限ハ概ネ長期ニシテ着荷後四十日、六十日又ハ九十日目拂ノ商習慣トナルニ至リタリ。横濱正金銀行ハ、東洋諸國ノ普通ノ貨物ニ對シテ、輸出荷爲替期限、一覽後三十日目拂以上ノ長期ヲ許サ、ルニ、獨リ莫大小貿易ノ場合ニ限り、六十日目拂ヲ許シツ、アルハ、歐洲諸國カ、長期ノ信用ヲ以テ取引ヲ爲スニ始マレリト云フ。

ボンベイニ於ケル當業者ノ説ニ據レハ、本邦製ハ獨逸製品ニ比シ、同一品位ニシテ價格約二割低廉也トイフ。是レ他國ノ拮抗シ能ハサル所ナリ。然レトモ、本邦ニテハ仕上ケ機械ヲ使用セサルニヨリ、品位ハ同等ナレトモ、外觀美ナラスシテ全然同一品ト見做スヲ得ス、從テ價格ノ低廉ハ已ムヲ得サル結果ナリ。

今本邦品ノ缺點ヲ舉クレハ、

- 一 本邦品ノ輸入セラレシヨリ、日尙ホ淺キヲ以テ商標賣行ハレサルコト、
 - 二 寸法正確ナラスシテ、注文寸法ヨリ縮少スルヲ常トスルコト、
 - 三 本邦莫大小業ハ小規模ニシテ大注文ニ應スル能ハサルコト、
- 是等ハ注意スヘキ要點ニシテ、商標賣買ノ如キハ、單ニ長期間取引シタル結果トシテ行ハルヘキニアラス、長期間ヲ要スル所以ハ、品質ニ變化無ク、粗製濫造ニ陥ラサルヲ確カムルモノナレハ、當業者タルモノハ、一旦得タル聲價ヲシテ空シ

ク失墜セシメサランコトニ努ムルト共ニ、寸法縮少ノ如キハ、價格ノ競争ヨリ來ルモノナレハ、貿易業者ト製造業者間、又ハ製造業者相互間ニ、氣脈ヲ通シテ矯正スルヲ要ス、第三ノ點ニ至リテハ本邦工業ノ幼稚ナルニ由ルモノナレハ、直チニ之ヲ變シテ大規模トナスコト能ハスト雖モ、小規模ヲ以テ、大注文ニ應スル策無キニアラサルヘシ、要スルニ本邦品ノ價格ハ頗ル低廉ニシテ、而カモ低廉ナルカ故ニ、販路ヲ獲タルハ爭フヘカラスル事實ナレトモ、如何ニ低價ナレハトテ、品位劣等ニシテ使用ニ堪ヘサレハ、販路ノ壅塞ヲ來スニ至ル、故ニ、將來價格ノ維持ヲ計ルハ最モ必要件ニシテ、價格ノ維持ハ品位ヲ維持スル所以ニシテ、又聲價ヲ失墜セシメサル所以也ト知ルヘシ。

ハ 銅 本品ハ從來歐洲品ノ獨占ナリシカ、近年本邦品殊ニ住友銅ニテ、KS印ノモノ聲價ヲ得テ、印度市場へ侵入スルニ至リタリ、其用途ハ水瓶其他ノ器具ニ止マリシカ、電氣事業ノ發達ニ伴ヒ、幾分ノ需要増加ヲ見ルニ至リタリ。一九〇七—〇八年ノ輸入額ハ約千三百五十萬斤ニシテ内本邦品ハ百十萬圓ナリ今最近二ケ年間ノ輸入統計ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

内日本ヨリノ輸入額

一九〇八—〇九年	一八、〇〇〇、〇〇〇 圓	一、四〇〇、〇〇〇 圓
一九〇九—一〇年	一七、四〇〇、〇〇〇 圓	一、九〇〇、〇〇〇 圓

ニ 樟腦 本品ハ一九〇七—〇八年ノ輸入額、約百七十六萬圓ノ内、本邦品ハ約百七十萬圓ニシテ、半額以上ヲ占ム、用途ハ波羅門教徒カ寺院内ニテ皿上ニ燒キ、其灰ヲ以テ、宗教上ノ顔面塗料ニ供スルニ限ラル、カ如シ。今最近二ケ年間ニ於ケル輸入統計ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

内日本ヨリノ輸入額

一九〇八—〇九年	七七〇、〇〇〇 圓	三七〇、〇〇〇 圓
一九〇九—一〇年	一、〇〇〇、〇〇〇 圓	五九〇、〇〇〇 圓

以上兩品ハ大製造業ト、大貿易業者ノ經營ニ係ルモノナレハ、品質並ニ取引上ニ關シ、改良ヲ要スヘキ缺點ナシトス。

ホ 薑 往時清國ヨリ輸入シタリシカ、近年ニ至リテハ殆ント本邦品ノ獨占トナリ、一九〇七—〇八年ノ如キ輸入額二十四萬六千圓ノ内、本邦品ハ二十三萬二千圓ニ達シタリキ。本品ニ就キ注意ヲ要スル點ハ、夏ノ濕潤季ニ際シ微ノ生セサルコトナリ。

今最近二ケ年間ニ於ケル輸入統計ヲ舉クレハ左ノ如シ。

總輸入額

内日本ヨリノ輸入額

一九〇八—〇九年	二五〇、〇〇〇 圓	一三〇、〇〇〇 圓
一九〇九—一〇年	二〇〇、〇〇〇 圓	一六〇、〇〇〇 圓

ヘ 燐寸 一九〇七—〇八年ノ輸入額ハ約四百八十萬圓ニシテ、内、瑞典ハ百二十九萬圓ニテ第一位ヲ占メ、本邦ハ第二位ニシテ八十一萬圓ナリ。然ルニ一九〇三—〇四年即チ五年前ニハ瑞典ハ四十二萬圓、本邦品ハ八十萬圓ニシテ、本邦品ハ依然進歩ヲ見サルニ、瑞典ハ三倍ノ増進ヲ呈シタリキ。斯ノ如ク本邦品カ歐洲品ニ壓セラレツ、アル所以ハ、製造法ノ不完全ナルコト、販賣方法ノ拙劣ナルコトノ二點ニ歸スルカ如シ。即チ本邦品ノ缺點ハ發火ト共ニ頭藥直チニ剝落シテ用ヲ爲サ、ルコト、包紙ノ褪色シ易キコト、軸木ノ不揃ナルコトニシテ、現ニボンベイ、カルカツタ等、在留本邦人ハ、本邦製燐寸ヲ販賣シツ、アル者ト、然ラサル者トヲ問ハス、多クハ自家用燐寸トシテ、瑞典製品ヲ消費スルカ如キハ、明カニ本邦品ノ粗製濫造ナルヲ證スルモノナリ。又販賣方法モ拙劣ニシテ、本邦商工業者間相互競争シテ、牆内ニ鬩クノ結果トシテ、一商標ノ燐寸カ、三年間信用ヲ維持シタル例ナク、價格益々降落シテ、歐洲品ニ比スレハ約三割ノ低位ニ在リトス。今最近印度市場ニ於ケル、歐洲品ト本邦品トノ價格ヲ對照スレハ左ノ如シ。

安 全 燐 寸

歐洲品	一(ゲロス)ニ付
本邦品	全

十四安乃至一留比	九安乃至十一安
----------	---------

英領印度 第十二章 日印貿易

硫黃燐寸

歐洲品 全
本邦品 全

九安乃至十四安
七安乃至九安

此ノ如ク本邦品價格ノ低位ニアル所以ハ、一個ノ商標燐寸ヲ多數商店ト取引スルヲ以テ、販賣者間ニ競争ヲ生シ、遂ニ價格ヲ下落セシメタルニ外ナラス。之レニ反シテ瑞典、諾威、白耳義ハ、印度市場ニ唯一ノ販賣代理店ヲ設ケテ聲價ノ維持ニ努メ、埃、獨等ハ一個ノ商標ハ唯一ノ商人ニ販賣シ、如何ナル事情アルモ他店ヘ販賣セス。要スルニ歐洲各國ノ販賣方法ハ獨占ナルカ故ニ市場價格ヲ引上ケ又ハ維持スルヲ得ル也、從テ粗製濫造ノ弊ニ陥ル憂ナシトス。是レ本邦當業者カ大ニ研究スヘキ問題ニシテ、前述莫大小ト全シク、若シ有力ナル本邦當業者カ、販賣上ニ關シテ同盟ヲ結ビ、輸出品ニ對シテハ、價格又ハ品質ニ就キ、相互間ニ協定スルニ至ラハ、(一) 價格ヲ維持シ、又ハ引上クルコトヲ得ヘク、(二) 價格ノ維持ハ品質改良ノ餘地ヲ生スルカ故ニ、粗製濫造ヲ防クヲ得ヘク、(三) 若シ同盟ニシテ規約鞏固ナレハ、大注文ニ應スルヲ得ヘシ。

現時印度ニ燐寸製造所アレトモ軸木ノ乏シキ、製造方法拙劣ナレハ、外國品ノ競争ニ堪ユル能ハス。將來ニ至リテモ發達ノ見込キナカ如シ。

今最近二ケ年間ニ於ケル燐寸輸入統計ヲ示セハ左ノ如シ

總輸入額	一九〇八—一九〇九年	一九〇九—一九一〇年
內	四〇,九〇〇,〇〇〇	五,四〇〇,〇〇〇
日本	七三〇,〇〇〇	一,〇五〇,〇〇〇
瑞典	一,六〇〇,〇〇〇	一,五五〇,〇〇〇
海峽殖民地	六八〇,〇〇〇	一,一四〇,〇〇〇

ト 洋傘及附屬品 洋傘ハ本邦貿易上ノ弊害ヲ、事實ニ證明シツ、アル一例ナリ 即チ、從前本邦品ハ洋傘トシテ需要セラ

レシカ、粗製濫造ノ結果、信用ヲ失墜シ、近時ハ柄、其他ノ附屬品トシテ輸入セラレ、傘用綿布ハ歐洲ヨリ仰クニ至リタリ。印度貿易統計表ニ洋傘ト附屬品トヲ區別シテ掲載シタルハ、一九〇五—〇六年四月以後ナレハ、其ノ以前ノ情況ヲ知ル能ハサレトモ、同年中ノ本邦洋傘ノ輸入額ハ、五萬六千二百六圓ナリシニ、三年後ノ一九〇七—〇八年ハ僅カニ三千八百四十六圓ノ少額ニ降り、同年ノ本邦洋傘附屬品ノ輸入額ハ、十八萬一千四百八十七圓ノ多額也。印度商人ノ說ニ據レハ本邦品ハ價格低廉ナレトモ、脆弱ニシテ破損シ易ク、實驗上六ヶ月以上持續スル能ハス、甚タシキハ三、四ヶ月ニシテ修理スルノ必要アリ。然ルニ英國品ハ價格高キモ能ク四、五年ノ使用ニ堪ユルヲ以テ、耐久力ヨリ云ヘハ、本邦品ハ英國品ノ十分ノ一ニモ及ハス。故ニ本邦品價格ノ二、三割低廉ナルハ實際ノ低廉ニアラス、本邦品ノ價格ハ、英國品ノ十分ノ一ナルヘキ理也ト云ヘリ。是レ能ク本邦品ノ缺點ヲ指摘シタルモノニシテ、外觀美ナラストモ、堅牢ニシテ需要ニ適シタルモノヲ製造セハ、洋傘トシテ販路ヲ得ルハ容易ノ業タルヘシ。今最近洋傘及附屬品ノ輸入額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

洋傘	一九〇七—〇八年	一九〇八—九年	一九〇九—一〇年
內本邦品	一,三〇三,八九〇	一,一八〇,〇〇〇	七四〇,〇〇〇
同附屬品	三,八四六	三,三九〇	一,七六〇
同	一,六九一,八四〇	一,二二七	一,三四〇,〇〇〇
上	一八一,四八七	一八四,四六〇	二七六,〇〇五

チ 雜貨 以上列舉シタル商品以外ノモノハ微少額ニ過キス、今其ノ主要ナルモノ、最近輸入額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

一九〇七—〇八年 輸入額

硝子製品	九、四三七、〇〇八	内本邦品	一九六、三〇四
小間物帽子類	七、三九四、三四〇	全上	四四六、八三四
文房具	二、八九八、〇五六	全上	七〇、三八四
陶磁器	二、七五七、〇五九	全上	一一六、七八六

是等ノ内、將來研究ヲ要スヘキ商品ハ、硝子製品ト、陶磁器ノ二種ナルヘシ。今其ノ梗概ヲ述ヘントス。

^a 洋燈「ホヤ」 現時本邦ヨリ供給シツ、アルハ、洋燈ニ非スシテ部分品ニ過キス。其ノ内「ホヤ」ノ如キハ、本邦産ノ品質ハ歐洲ト同等ニシテ、價格幾分低廉ナルヲ以テ歐洲品ヲ驅逐シツ、アリトス。然レ雖、近年、印度ニテ硝子ノ製造業ヲ企畫スルモノアリ、既ニマドラス、プーナ其他ニ二、三ヶ所ニ工場設立セラレ、又目下ボンベイ市内ニ設立企畫中ノモノアリ、是等ノ内既ニ本邦ヨリ職工ヲ傭入レタルモノアリトイフ。從來印度ノ硝子業ハ悉ク失敗ニ歸シタルヲ以テ、是等ノ企畫カ果シテ成効スヘキヤ如何ハ甚タ疑ハシキモノアリト雖、洋燈「ホヤ」又ハ下等硝子燻ノ如キ、製法ノ簡單ナルモノニアリテハ、研究ノ結果製出シ得ルヤモ計リ難シ、故ニ本邦當業者ハ將來歐洲品ノミナラス、印度産ト競争ノ位置ニ立ツノ覺悟ヲ要ストイフヘキ也。因ニ一九〇七—〇八年中、本品ノ輸入額ハ五十九萬二千七百八十一圓ニシテ、内本邦品ハ二萬三千五百十圓也。

^b 硝子製腕輪 歐米諸國ノ婦人カ、金銀ノ腕輪ヲ以テ裝飾用ニ供スルカ如ク、印度、波斯、アラビヤ等、東洋人ノ各種族ニ屬スル婦人モ、亦其ノ位置ト嗜好ニ從ヒ金、銀又ハ象牙ノ腕輪ヲ使用シ、是等貴重品ヲ需要スル能ハサル中流以下ノ婦人ハ硝子製腕輪ヲ嵌用スル習慣アリ。土語ニ之ヲ *Katch Bangle* トイヒ「パーシー」種族ハ之ヲ *Kash chiol* トイフ。硝子製腕輪ヲ嵌用スル習慣ハ、少クトモ一千年來行ハレ、處女又ハ既婚女ハ一對乃至五、六對宛兩腕ニ嵌メ、獨リ寡婦ノミ之ヲ使用スル能ハス、而シテ寡婦ハ結婚式又ハ集會ニ列席スルヲ得サルヲ以テ、寡婦ナラサル婦人ハ腕輪ニ就キ特

別ノ注意ヲ拂ヒ、毀損スル時ハ直チニ代品ヲ嵌メ換ユル用意ヲナシ、若シ代用品ナキトキハ、其ノ夫、若シクハ近親者ニ不吉事件起ルヘシトノ迷信ヲ懷クヲ以テ必要の裝飾品ナリ。此ノ習慣ハ、印度人口ノ最多數ヲ占ムル「ヒンヅ」種族ニ最モ嚴格ニシテ、其他ノ種族ハ稍々寬也。此硝子製腕輪ハ、往昔、印度内地ノグゼラツトニテ製造シ、供給不足ノ場合又ハ購買不便ノ地ニアリテハ、椰子ノ實ヲ輪切リトシテ乾燥シタルモノヲ代用シ來リシカ、約百五十年前ヨリ支那廣東地方ノ製品「パールシー」商人ノ手ヲ經テ輸入セラレ、内地製品ヲ壓倒スルニ至リタリ。然ルニ今ヨリ約十五年前、英國「ガブロンツ」ニ於ケル硝子業者ハ、巧妙ナル機械製造法ヲ案出シテ、印度市場ヘ輸出シ來リ、續テ獨逸、英國ノ模造品モ輸入セラレシカ爲メ、廣東製品ハ打撃ヲ蒙リ、今ヤ英國品ハ殆ント全印度ノ需要ヲ獨占シ、市場價格ノ高低ハ「ガブロンツ」ノ「シンヂゲート」 *Gabronze manufacturing Syndicate* ノ左右スル所トナレリ。但シ廣東品ハ品質粗惡ナレトモ、價格低廉ナルカ故ニ、現時ニ在リテモ約二、三十萬圓ノ輸入アリトス、聞ク所ニヨレハ、過去三年間ニ本品ノ輸入激增シタルニモ拘ラス、ガブロンツノシンヂゲートカ二、三年前ヨリ約二、三割價格ヲ引上ケ、利益ヲ壟斷セント企テタルヲ以テ、印度人等大ニ激昂シ、前述ノ椰子實ノ代用ヲ唱フルニ至レリ、然レトモガブロンツノ硝子業者ハ「シンヂゲート」組織ニシテ印度市場ヲ獨占シ、而カモ唯一ノ販賣店ヲ以テ市場ヲ操從シツ、アレハ、椰子實ノ代用ニハ驚カサルヘシト云フ。

硝子製腕輪ノ種類ハ、普通品ト模様入り(即チ細工品)トノ二アリ、普通品トハ地色ノ儘ニテ、模様入りトハ普通品ノ上ニ焼付ケ、又ハ細工ヲ施シタルモノヲイフ。是等兩種ヲ形狀ヨリ區別シテ左ノ如ク各種ノ名稱ヲ付ス。

1. yellow mirror bangle
2. Gilt on cut.
3. Painted leaves and gilt on cut.

- 4. } 1. Moon and star.
- 2. Moon and star above.
- 5. Inlaid mon and star.
- 6. Enamelled.

本品ノ製造方法ニ二種アリ。一ハ廣東及印度内地ニテ行ハル、手工的製法ニシテ、極メテ少量ノ硝子溶塊ヲ鐵竿ニテ取出シ、其ノ鐵竿ノ廻轉ニ依リ漸次圓形ノ硝子輪ヲ造リ、之ヲ磨機ニ掛ケテ表面ヲ平滑トナラシムルモノトス。此ノ方法ニヨルトキハ、職工一人ニテ一日ニ五十打以上ヲ製出スルヲ得ス。又一回ニ一個宛製造スルカ故ニ、形狀同一ナルヲ得ス。加フルニ内面ノ平滑ト外面ノ菱形其他ノ細工ヲ施スコト困難也。第二ノ方法ハ即チ埃國ノ發明ニ係ルモノニシテ、一種ノ器械ヲ以テ一回ニ五個乃至十二個ヲ製出シ。職工一日一人ニ付少クモ二百打ヲ作り、品質形狀共ニ同一ナラシムルヲ得ルト云フ。此ノ製造方法ハ埃國ニテ絶對秘密トナシ如何ナル事情アルモ製造法ヲ外國人ニ示サス。廣東ニ於ケル工場ハ公開セラル、モ、其ノ製法手工的ナレハ研究ノ價值無シトイフ。今本品最近ノ輸入額ヲ擧クレハ左ノ如シ。

輸入總額	一九〇七—〇八年	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
埃國	三、六三五、五一三	二、一九五、五八五	三、一四三、八七五
清國	二、六四〇、八七〇	一、五〇三、二一九	二、三二四、七一九
獨逸	三、八四、一八一	三、二〇、八四九	三、六四、四四七
香港	五、四三、二三一	三〇五、四四七	四、五二、九三八
	六、一、五四三	五、一、六二二	三、七、一六一

其他

五、六八八

本邦ニテハ先年來二、三ノ製造業者、苦心シテ是等腕輪ノ製法ヲ研究シツ、アレトモ、未タ成功スルニ至ラス。又昨四十年中大阪硝子業者ヨリ代表者ヲ印度へ派遣シテ調査研究シタリシカ、果シテ能ク埃國製ニ拮抗シ得ルモノヲ製スルニ至リシヤ如何ハ疑問ナリ。右輸入ハ印度ノミナレトモ波斯、アフガニスタン、アラビヤ、バルチスタン等、諸國ノ需要額ヲ加フレハ莫大ノ金額ニ達スヘク、若シ本邦ニテ、適當ナルモノヲ製出スルヲ得ハ有利ナル事業トナルニ至ルヘシ。

硝子珠及贗真珠 前述ノ腕輪ニ次キ販路多キハ、硝子珠及贗真珠トス。前者ハ主トシテ獨逸、埃國及ヒ伊太利ヨリ、後者ハ佛國ヨリ供給ス。本邦ニテハ大阪ノ硝子業者カ、硝子珠ノ製造ニ苦心シツ、アレトモ。其品位未タ歐洲品ニ及ハス。贗真珠ニ至リテハ、未タ着色原料ヲ熟知セストイフ。硝子珠ノ用途ハ頸飾リトシ。贗真珠ハ頸飾リト耳環ニ使用ス。是等兩品ハ腕輪ノ如ク、迷信的需要品ナラサレトモ、印度ノ如キ富ノ程度低キ國ニアリテハ、一般ノ婦人ハ、純金銀ノ頸飾又ハ耳飾ヲ使用スルヲ得サルヲ以テ、之レカ代用品ヲ得ルノ必要アリ、故ニ其ノ販路ハ廣大ナリ。硝子珠ハ圓形ト多角形ト二種ニテ、直徑一「ミリメートル」ヨリ十「ミリ」乃至二十「ミリ」ノモノアリ、其ノ製造方法ハ、小ナルモノハ型ニテ作り、大ナルモノハ吹テ作り。後ニ内部ニ銀ヲ流シ込ムモノニシテ、金色ノ需要ハ八割餘、銀色ハ約二割ナレハ金色ニ重キヲ置クヲ要ス。贗真珠製造ノ方法ハ佛國製造家ノ外、他國人ノ熟知セサル所ニシテ、近年獨逸ニテ模造方法ヲ發明シタレトモ、其ノ製品ハ佛國製ニ比シ幾分遜色アルヲ免レス。現時本品ヲ製造スルニ當リテ至難トスル所ハ、如何ナル色素ヲ用フルヤ不明ナル點也トイフ。若シ本邦ニテ研究ノ結果、本品ヲ製出スルニ至ラハ、其ノ販路ハ當ニ印度ノミナラス、支那其ノ他東洋諸國ニ亘ルヲ以テ、重要ナル貿易品トナルニ至ルヘシ。前記硝子珠ノ外ニ、「ヴェネチアン、ビーズ」Venetian beads ト稱シ、本邦ニテ南京珠ト稱スルモノ、需要尠カラズ、主トシテ伊太利ヨリ輸入ス。前記硝子珠及贗真珠ノ輸入額ヲ擧クレハ左ノ如シ。

輸入總額	一九〇七—八年	一九〇八—九年	一九〇九—一〇年
獨逸	一、六九一、一三一	一、五三三、八一八	一一、一四一、一九六
佛國	四八〇、三三二	五八八、九九三	三三三、〇〇五
伊太利	四六六、五〇四	四四一、一三八	二五八、八二〇
白耳義	三一八、五九六	一八八、九二八	二三七、七二四
日本	三〇三、六四八	二二九、一九二	一八八、六三二
其他	八四、九五四	五六、五二八	二〇、八〇〇
其他ノ硝子製品	三、九四〇	四、〇七七	七三、一九七
窓硝子及硝子板	三、四三、三五八		
總輸入額	八十八萬六千圓	八十七萬六千圓	

d 其他ノ硝子製品 窓硝子及ヒ硝子板ノ二種ハ年額、八、九十萬圓ノ輸入アリ、主トシテ白耳義ヨリ輸入シ、現今本邦品ノ侵入ヲ許サ、レトモ、將來本邦硝子業ノ進歩ニ依リ、歐洲品ト競争ヲ爲シ得ルニ至ルヘシ。其他、各種ノ硝子製品輸入額ハ、一九〇七—〇八年ニ二百十八萬圓ニ達シ、内本邦品ハ十六萬五千圓也。現時印度ニテハ、ヒマラヤ山麓ノアムバラトデラズーンノ二ヶ所ニテ硝子塊ヲ作り、之ヲフヒロザバットト稱スル硝子製造地ヘ輸送シ來リテ、硝子ノ製造ヲ爲スト雖、是等工場ヨリ鐵道ニ依リボンベイ、又ハカルカッタ等ノ都會ヘ輸送スル陸上運賃ハ、本邦ヨリ印度ヘ輸送スル海上運賃ニ比シ概ネ高率ナルヲ以テ、印度硝子業ノ企畫ハ恐ル、ニ足ラス、將來研究ヲ要スルハ唯歐洲製品ノ競争ノミトス。

其他ノ硝子

一九〇八—〇九年	二、一五九、六〇六	日本ヨリ輸入額	一一三、六九〇
一九〇九—一〇年	二、二六八、五〇九		二〇七、八〇五

e 陶磁器 本品ノ輸入額ハ、一九〇七—〇八年ニ二百七十五萬七千圓ニシテ、第一ハ英國(百四十三萬七千圓)第二ハ獨逸(三十九萬八千圓)第三ハ白耳義(三十八萬五千圓)第四ハ奧國(二十萬圓)本邦ハ十一萬七千圓ナリ。現時印度ニハ、一日ノ職工使用數五十人以上ノ陶磁器製造場三ヶ所アリ。(職工總數四百三十八人)技術拙劣ニシテ見ルニ足ラス、其ノ需要ノ大半ハ外國品ヲ仰キツ、アリトス。最モ需要多キハ肉皿、珈琲茶碗及ヒ小皿ニシテ、肉皿ハ一般土人ノ食器トシテ使用、シ小皿ハ貧民カ「アイスクリーム」ヲ飲ムニ用ヒ、紅茶茶碗ノ如キハ、貧富ヲ問ハズ常ニ紅茶ヲ飲用スルヲ以テ、其需要最モ廣シ。是等ノ陶磁器ハ堅牢ニシテ、價格ノ低廉ナルコト必要條件ナリトス。蓋シ印度ハ概シテ富ノ程度低キヲ以テ、普通本邦輸出品ノ如キ、華麗ナルモノハ其ノ需要ニ適セス。偶々需要アルモ、在留外人又ハ少數ノ富豪ニヨリ用ヒラル、ニ止マリ、一般ノ日用品ト稱スヘカラス。印度商人ノ說ニヨレバ、印度ハ古來、歐洲製ノ堅牢ナル陶器ヲ用ヒ來リ、半透明ノ磁器ハ、脆弱ナリトノ信念ヲ抱クヲ以テ、本邦製品ノ如キハ需要ニ適セストイフ、故ニ本邦品ノ販路ヲ擴張セント欲セハ先ツ、硬質陶器製造ヲ研究セサルヘカラス。又模様ノ如キモ、普通本邦輸出品ノ如キ繪模様ハ、一般ノ需要ニ不適當ニシテ、白無地又ハ簡單ナル圖案ヲ施シタルモノヲ良シトス。

總輸入額

一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年
二、七二一、八七二	二、七九五、三六二
一、七二一、八七二	一、六五、八六二

獨逸	一九九、一九九	三三八、八一五
白耳義	四四五、五八三	四〇〇、七〇四
埃國	八三、九八二	九〇、三二九
日本	一三八、九九五	一九〇、二六四

f 荷造用茶箱 最近セイロン島ノ輸入額ハ、約七十三、四萬圓ニシテ、内、本邦品ハ七十萬圓ノ多額ヲ占ムルニ、英領印度ハ、輸入額百七十萬圓ノ内、本邦品ハ僅カニ二萬圓ニ過キス、英領印度ノ茶箱輸入地ハ主トシテカルカッタニシテ、セイロントカルカッタ兩地トハ、本邦ヨリノ距離ニ於テ甚タシキ差異ヲ見サルニ、兩地ニ於ケル本邦品ノ需要ニ此ノ如キ相違アルハ、奇異ナル現象ト云フヘシ。察スルニセイロン島ハ劣等品ヲ需要シ、英領印度ハ優等品ヲ需要スルト共ニ、航路ノ關係ヨリ、カルカッタへ本邦品ヲ輸送スルニ當リテハ、不利益ナルモノアルニ由ルナランカ。

總輸入額 日本ヨリ輸入額

一九〇八—一九〇九年	二、四七〇、九二六	四四、七五八
一九〇九—一〇年	二、四九八、四六八	二〇、三〇〇

g 其ノ他、本邦品ノ需要アルモノハ花筵、石鹼、玩具、文房具、樂器及時計ニシテ、是等ノ商品輸入ハ各々年額二、三萬圓ノ少額ニ過キサレトモ、製造法ニシテ改良セラレ、價格ニシテ低廉ナレハ、漸次需要ヲ増大セシムルヲ得ヘシ、尙ホ將來研究ヲ要スル商品ハ綿毛布、綿「フランネル」ニシテ、是等ノ商品ハ熱帶國民カ多量ニ需要シ、現時專ラ歐洲ヨリ供給シツ、アルモノナリ。

結論 上來記述シタル處ニヨレハ、本邦品ハ一モ貿易品トシテ誇ルニ足ルモノ無シト云フヘク、英國ハ印度ニ對シ殖民地ノ關係ヲ有スルカ故ニ、貿易ノ盛況ヲ極ムルハ當然ナレトモ、他ノ歐洲列國ハ何等特別ノ關係無クシテ、同シク東洋ニ位スル

本邦ヲ凌駕セリ。是レ本邦工業ノ幼稚ナルコト其ノ主因ナルヘシト雖モ、又、本邦商工業ノ經營ニ缺クルモノ無シトセス。今本邦貿易上ノ缺點ヲ指摘スレハ

- 一 見本ノ不整理ナルコト
 - 二 送狀(Invoice)ノ形態ヲ備ヘサルコト
 - 三 見本又ハ注文ノ形狀寸法ト實際ノ貨物ト相違セルコト
 - 四 一回ノ約定品ニシテ輸送毎ニ品位ノ相違セルコト
 - 五 販賣方法拙劣ニシテ同業者間同志打ヲ爲スコト
- 等五點ニシテ
- 一 見本ナルモノハ廣告的効用ヲ有スルト共ニ、賣買成立ノ要素ヲ爲スモノナレハ、最モ注意ヲ拂フヘキニ、本邦人ノ見本ハ不整理ニシテ説明ヲ附セサルモノ多キヲ以テ、貿易上ノ効用少ク、徒ニ商機ヲ逸スルノ恐レアリ。
 - 二 送狀ハ貨物ノ通關、又ハ荷爲替ノ取組ニ際シ、必要書類ナルト共ニ、輸送貨物ノ事情ヲ説明スルモノナレハ、明瞭整然タルヘキニ、本邦人ノ郵送シタル送狀中不明瞭ノモノアリテ購買者ニ不便ヲ感セシムト云フ。
 - 三 見本ト實際ノ貨物ト相違セルコトハ、本邦ノ貿易業者カ、常ニ批難ヲ受クル所ニシテ、本邦商業道德ノ低位ニアルヲ證スルモノナリ。先年(明治四十一年)印度在留ノ本邦人カ、印度商人ニ信用ナシト報告シタルヲ聞キ、一部ノ印度商人等ハ見本ト實際ノ貨物ト相違セルコトハ日本商人ノ通弊也、若シ印度商人ニ信用ナシトスレハ、日本商人モ亦信用ナシトイフヘシ。自家ノ缺點ヲ改メスシテ他ノ缺點ヲ指摘スルカ如キ者ト取引スルヲ要セスト唱導スルモノアリタリトイフ。又注文ト實際ノ貨物ト形狀、寸法等ノ相違セルコトハ、商工業者間相互價格ノ低廉ヲ競フ結果、此ノ惡弊ヲ生シタルモノトス。
 - 四 ハ本邦工業ノ幼稚ナルヲ示シ。

中央トシテ此ノ如ク近距離ニ在ルヲ見レハ、カルカッタ、ラングーン兩港カ本邦ニ近キコトハ容易ニ推知シ得ヘキヲ以テ本邦ハ歐洲列國ニ比シ、概シテ近距離ニ在リト云フヘク、其ノ輸送賃ハ比較的の低率ナルヘキ理也。然ルニ現時棉花輸送ノ關係ヨリ、郵船會社ト六大外國汽船會社ト聯合シテ、東洋ニ於ケル貨物輸送賃ハ、聯合會社ノ協定シタル一定率ニ依ルコトヲ規約シタル結果、日印間ノ輸送賃ハ此ノ規約ノ制裁ヲ避クルヲ得サルヲ以テ、本邦商品ハ輸送賃不廉也、然ルニ歐印間ノ交通ハ聯合行ハレスシテ、其ノ輸送賃ハ運賃市場ノ高低ニ從ヒ、各汽船會社ノ自由ニ定ムル所ナルカ故ニ、其ノ賃率ハ概シテ日印間輸送賃以下ニ在ルト共ニ、世界運賃市場ノ不況ニ際スルトキハ、其ノ影響ヲ受ケテ一層低下スルヲ以テ、歐洲品ハ輸送上便利ノ位置ニアリトス。本邦船舶ノ航路ヲ有スルコロンボ、ボンベイ兩港ニ至ル交通ニシテ此ノ如キ不利益アル。加之本邦ト近距離ニアルカルカッタ、マドラス、ラングーンノ如キハ未ダ本邦船ノ定期航路ヲ開クニ至ラス、是レ日印貿易ノ振ハサル最大原因ナリ。然レ共是等諸港ト本邦ト現時ノ貿易關係ヨリ將來ヲ推考スルニ、果シテ定期航海ノ開始ヲ要スルヤ如來ハ疑問也。現時カルカッタ港ハ黃麻ノ輸出港ニシテ、本邦ニテ利用スヘキ商品ニアラス、輸入ニアリテハ本邦製燐寸、莫大小ノ需要ハ、印度港灣中最モ多額ヲ占ムルモ定期航路ノ開始ヲ要スル程ニ多額ナラス。「ラングーン」港ハ過去五年間ノ平均ニテ一年約二十八萬噸ノ米ヲ本邦ヘ供給シ、又本邦絹織物ヲ需要スルコト多シ、而シテラングーン港輸出ノ米穀ハ現時運賃ノ低率ナル臨時雇時ヲ以テ本邦ヘ輸送シツ、アルト共ニ、本邦ニ於ケル外米ノ需要季節ハ、一月ヨリ六月ニ至ル約半年間ニ限ラル、カ故ニ、十分定期船ヲ利用スルハサルヘシ。「マドラス」港ハ本邦ヘ皮革ヲ供給スルノミニシテ、本邦品ノ需要地トシテハ必要ナラス。是等ノ事情ニ據レ、定期航路開始ノ利害得失ハ大ニ研究ヲ要スル問題也。然レ共本邦品ノ販路ヲ擴大セシメンニハ、定期航路ノ開始ヲ以テ最良策トスヘキハ贅言ヲ要セサル也。

二 現時本邦ノ金融機關トシテハ、ボンベイニ唯一ノ橫濱正金銀行支店アルノミニシテ、其他カルカッタ、ラングーン等、未ダ本邦金融機關ノ設備ナキハ貿易上ノ不便少カラス、思フニラングーンハ前述ノ如ク本邦ヘ多量ノ米ヲ供給シツ、ア

レトモ、其取引ハ主トシテ英京ロンドンニテ行ハレ、ラングーンハ唯貨物ノ輸送地タル状態ニアルカ故ニ、此ノ設備ヲ要セサルカ如シト雖、金融機關ノ設備ニ依リ、產地直接買付ノ發達ヲ促カスニ便ナラストセス。又現時橫濱正金銀行輸出荷爲替ノ期日ハ三十日以上ノ長期ヲ許サス、(莫大小ニ限リ六十日目拂)然ルニ歐洲諸國ハ普通六十日ナルヲ以テ、金融ノ點ニ於テ貿易上本邦ハ歐洲ニ比シ不利益ノ位置ニアリ、加之歐洲ノ金利ハ概シテ三、四分ノ低率ナルニ、本邦ハ七、八分ノ高率ナレハ商業共ニ不利益ヲ免カレス、是等金融ノ便、不便ハ彼レト我ト資本ノ多寡ニ依ル自然ノ趨向ナルヘキモ、彼我競争ノ位置ニアル以上ハ、適當ナル方法ヲ講シテ、歐洲列國ト對抗シ得ルニ至ラシムルヲ要ス。

三 現時カルカッタニハ總領事館「ボンベイ」ニハ領事館、コロンボニハ名譽領事館ノ設備アルヲ以テ、是等以外ノ増設ヲ要セサルカ如シト雖、ラングーン港ハ前述ノ如ク本邦ヘ多量ノ米穀ヲ供給スルト共ニ、本邦ノ絹織物ヲ需要シ、又近年本邦船舶ノ出入頻繁トナリ、本邦トノ貿易關係ハカルカッタニ比シ密接也。現時ビルマハカルカッタ總領事館ノ管轄ニ屬シ、陸上交通ノ便ナキヲ以テカルカッタ、ラングーン間ハ海上ノ交通ニ依ラサルヘカラス。然ルニ兩地間ハ海上七百三十七哩ヲ距テ、約三晝夜ノ航海ヲ要スルカ故ニ、事實ニ於テ「カルカッタ」總領事館ハ、ビルマニ於ケル通商上ノ便利ヲ計ルコト能ハサル状態ニアリ。是レビルマ方面ニ別個ノ領事館ヲ要スル所以也。

是等ノ施設ハ印度貿易、ミナラス、如何ナル國ニ對シテモ貿易上必要ナル機關ニシテ、是レナクンハ貿易ノ發達ハ期待スヘカラス、然レトモ之レカ實施ハ、兩國ノ貿易關係ヲ調査シ利害得失ヲ研究スルト同時ニ、各國ニ對スル輕重ノ程度ヲ考量セサルヘカラサルヲ以テ、邊ニ之ヲ行フ能ハサルモノアルヘシ、又前述絹織物、莫大小、洋燈「ホヤ」等、本邦品カ運輸ト金融共ニ不利益ナル事情ノ下ニアリテ、尙能ク歐洲品ヲ驅逐シツ、アルニ徴スレハ、是等ノ施設ヲ待タサルモ、優ニ本邦品ノ需要ヲ喚起スルヲ得ルモノ少カラサルヘキヲ以テ、是等ノ施設ハ後日ニ讓ルモ遲キニアラサルヘシ。然ラハ日印貿易ノ擴大ヲ計ルニ急務トスル所如何、蓋シ左ノ三點ハ其ノ主要ナルモノナルヘシ。

- 一 印度人ノ需要品タル日用品ノ製造ヲ研究スルコト
- 二 印度事情ヲ本邦人ニ周知セシムルコト、
- 三 印度ノ貿易事情ヲ研究スルコト、

是等ノ内、最モ必要ナルハ第一也。蓋シ本邦ノ輸出品ハ、原料ナラズンハ美術的工藝品也、原料品ハ印度ノ如キ農業國民ノ要スル所ニアラス、工藝品ハ歐米ノ如ク富ノ程度高キ國ニアリテハ、好奇心ヲ以テ需要セラル、モ、印度ノ如キ富ノ程度低クシテ、嗜好ノ單純ナル國ニアリテハ、多數國民ノ需要ニ適切ナラス、然ルニ是等美術的工藝品ヲ以テ直チニ販路ヲ得ントス、焉ソ能ク需要ニ投スルヲ得ンヤ。是レ本邦商賈カ彼地へ渡航スルモ、多クハ失敗ニ歸シタル所以ニシテ、又日印貿易ノ振ハサル所以也。之レニ反シテ歐洲列國ノ如キハ既ニ土人ノ需要品ヲ製造シ、又研究シツ、アル也。即チ古來土人カ遠近ナル製造法ニ依リ、幾多ノ日月ヲ消シテ製シタル日用品ハ、今ヤ概ネ歐洲人カ文明ノ科學ヲ應用シテ、意匠、圖案、染織等殆ント同一品ヲ製シ、廉價ヲ以テ供給シツ、アルナリ。例へハ熱帶國民ノ衣服トシテ必要ナル更紗ノ如キ、土人ノ製作ニ係ルモノハ、今ヤ贅澤品ニ屬シ、特種ノ嗜好ニ供スルニ止マリ、大多數ノ需要アルモノハ、歐洲ノ模造品トナリタルカ如キ是レ也。又現時柏林商業會議所ニテ二人ノ印度人ヲ僱聘シテ、需要嗜好ノ詳細ヲ研究シツ、アルカ如キハ、我邦人ノ執テ參考トスヘキモノナリ、第二、第三ハ調査員ト貿易練習生ノ派遣、書籍ト列國輸入商品見本ノ蒐集等ニ依リ、其ノ目的ヲ達スルヲ得ヘシ、願ミテ印度市場ニ於ケル本邦商品ノ特長トスル所ヲ見ルニ、品位ノ優勝ナルニアラス、製作ノ巧妙ナルニアラスシテ、價格ノ低廉即チ生産費ノ低廉ナル一點ニアリ、價格ノ低廉ハ列國ト貿易場裡ニ輸贏ヲ争フニ當リ最良ノ利器也、我カ邦ニ此ノ利器アリ、若シ本邦當業者ニシテ前述ノ缺點ト失敗トニ鑒ミ、牆内相関クヲ止メテ、提挈扶掖、勉メテ懈ラスンハ、印度市場ニ優勢ノ位置ヲ占ムル敢テ難事ニアラサルヘシ。

左ニ掲クル表ハ印度ニ對スル列國ト本邦トノ貿易ニ就テ、最近五ヶ年間ヲ對照シタルモノニシテ以テ日印貿易ノ趨勢ヲ見ルヲ得ヘシ。

絹製反物輸入額 (單位碼及圓)

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英 吉 利	八三、六〇〇	九六、三三三	五八、八五五	四七、三九四	四九、〇五一
シアララルター	三、八六三	二、六四四	二、六三三	三、七四四	四、九六一
亞丁及其附屬地	二、六四四	一、〇〇〇	二、三三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇
錫 倫	一、五五〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	八、五三三
海峽殖民地	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
香港	八〇、七一一	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
ウニエー、サス、	五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
其他ノ英領地	五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
露 西 亞	一〇、〇〇〇	七、七三三	七、七三三	七、七三三	七、七三三
南 部 諸 港	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
獨 逸	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
自 由 港	五、一五九	四、〇〇〇	三、三三三	三、三三三	三、三三三
和 蘭	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三	三、三三三
白 耳 義	一、四五六	一、四五六	一、四五六	一、四五六	一、四五六
佛 蘭 西	八二、二二二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
英領印度	五八、二二二	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

其他ノ諸外國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
總輸入額	三,七七,〇二	四,四四,二四〇	四,二四,九九	三,六三,二二	四,五二,七〇

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベンゴール	一,〇三,六六	二,四九,五一	二,六五,〇三	二,〇三,三六	二,三三,〇三
東部ベンゴール及 マツサ	同上	同上	同上	同上	同上
孟買	八四,五三	一,一七,九〇	一,〇〇,五三	一,一〇,七五	一,五九,五八
シンド	八,六五	二四,五三	二四,五三	一四,〇八	一七,三九
マドラス	一七,一〇	二,〇〇	二九,九五	二,四八	一五,〇二
緬甸	六三,〇三	六六,〇四	四四,三三	五四,九九	八四,九六

銅塊及銅板 (單位 ハンドレットウエイト及圓)

仕出國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英國	一七,三三	一九,三三	二,四〇〇	八,九〇	三,五五
錫蘭	五四,六八	六三,九二	八七,九〇	四三,八九	二六,八〇
海峽殖民地	三二,一四	四,〇三	一,〇〇	一,〇〇	一,〇〇
香港	一四,五九	七,九二	四,六〇	一,〇〇	一,〇〇
南洋(南北部共)	六四,一〇	一八,〇七	三,七三	三,三〇	一,〇〇
ニューサウスウェールズ	三三,七五	一〇,一九	五七,四九	八	一

輸入額	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
其他ノ英領地	二八,八	四一,五	三二	一〇三	一〇三
白耳義	二,九六	一,三三	一,九七	一,三三	一,〇七
亞刺比亞(マスカット)	三	六	一〇	一〇	一〇
日本	三三,〇三	一七,三三	一〇,〇八	一四,五三	一,〇七
日	一〇,〇三	一,〇〇	一,〇〇	一,〇〇	一,〇〇
米	一,〇〇	一,〇〇	一,〇〇	一,〇〇	一,〇〇
其他ノ諸外國	四六	八〇	一五	三三	二八
總輸入額	三三,〇三	二,五五,六三	七九,九七	五七,三三	二,三三,七二

同輸入州別 (全上)

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベンゴール	三,九六,六八	六四,六七〇	一八,八〇	一〇,六三	四六,六二
東部ベンゴール及 マツサ	三,三三,九四	二,三三,九三	六四,三三	四九,九二	一,九四,五二
孟買	二,六七,〇六	一,一三,三六	一八,八八	一,七九	七,二六
シンド	四,五九	四,七九	二	二	三,八四
マドラス	二,五,二二	一,〇,七四	三,六六	一五,三三	三,〇九
緬甸	二,〇,六一	四,一〇	一四,四四	一三,六九	三,七,五三

藥材及製藥 (單位圓)

仕出國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英國	二,三三,三三	二,二〇,一五	二,三三,六八	二,三三,四三	二,五二,四二

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベングール	八八〇,四四五	九四四,六三三	一一四三,二五五	一一五,七五三	一,四三三,四〇六
東部アッサム	同上	同上	同上	三,八三二	一五,八〇〇
孟買	九一,八三三	九四九,二五五	一,二九六,四四四	一,二二七,七三九	一,三四八,七三三
シンド	三三,〇九〇	三九,五三三	四七,五九九	四二,八八六	五四四,六三三
マドラス	三三,五三三	三九,五三三	四四,〇〇八	四九,一八〇	六七,五八七
緬甸	七八五,九九九	六四四,六三三	七四二,三三三	八四八,二五五	八五八,八九七

傘洋材料及附屬品 (單位圓)

仕出国	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英國			四七五,〇三三	七六七,〇三三	七六三,四〇〇
錫蘭			一,四七三	四,七七六	
海峽殖民地			三,二二八	三,七三三	一七,四三三
香港			三,七六八	三,七九三	二,四九六
其他ノ英領地			八		
獨逸			二〇四,五七三	三三六,三九七	三七〇,三三三
自由			一四三,九九七	二五八,八五三	三三三,五五五
白耳			三,八七一	一一,七三三	七,〇九八
佛蘭西			三	七五八	三,四七三
伊太利					

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
奧匈國			二,一九三	二,〇七三	
自由港			三三三	五三二	一,三三八
支那(香港及澳門ナ除ク)			七,二四七	一八,二四三	一八,八八七
日本			九三,五三三	一,五四三,四八六	一,六九一,八四三
其他ノ諸外國					二,六八
總輸入額					

硝子及硝子製品 (單位圓)

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベングール			八二〇,六四三	一,四七七,〇〇一	一,三三八,八八〇
孟買			一〇五,二七七	一四,四三三	三七九,三三三
シンド			一八	四	八
マドラス			五三三	三	五七四
緬甸			一九,〇七三	五二,九九七	八三,五四一

仕出国	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英國	一,〇六,五五五	一,〇一〇,三三六	一,〇九,〇四六	一,〇九五,一八八	一,三三,四八九
亞丁及其ノ附屬地	七四	三六	五四	六七	六六
錫蘭	九,〇七三	六,八八四	九,〇四三	一一,四三三	九,五三三
海峽殖民地	一三〇,二四九	七,七三六	三三,五八八	三三,四四四	三,八三六
香港	八,七四〇	一四,一八六	一〇,九九三	九,七〇二	六,四四七

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
サンシバル及ハムバ	一、一九七	一、五七	一、五七	一、五七	八
英領東亞弗利加	四、四	三、五	三、四	三、八	八三
其他ノ英領地	四、四	三、五	三、四	三、八	八三
獨逸	六、四、四八	七、八、一〇七	一、五、四、六四	一、七、〇、三三	一、九、二、七、八
自由港	一、六、六	八、九	二、八、八三	九、八、三	一、四、八、三
和蘭	一、〇、九、七〇	一、〇、八、七	一、五、〇、九七	一、一、五、四〇	一、三、五、七、五
白耳義	三、六、三六	三、七、三、九	三、〇、〇、〇	三、五、三、三	三、五、七、三
佛蘭西	三、九、〇、九	三、三、四、六	三、九、〇、七〇	三、〇、〇、四一	三、九、四、七
伊太利	二、四、九、九	三、二、八、〇、八	二、五、九、九二	二、八、〇、四三	三、五、三、三
埃旬國	二、四、九、九	三、二、八、〇、八	二、五、九、九二	二、八、〇、四三	三、五、三、三
自由港	二、四、九、九	三、二、八、〇、八	二、五、九、九二	二、八、〇、四三	三、五、三、三
地中海東岸及黑海諸港	五、五	三	三	三	七〇
波斯灣ノ諸港	三、一、五、五	二、九、九、七、八	三、四、五、三	二、八、四、九、五	三、九、四、五
支那(香港及澳門ヲ除ク)	二、〇、三、五	一、〇、五、五	九、八、〇、二	一、三、九、七、三	一、九、三、四
日本	四、四、三、六	八、七、五	一、〇、〇、〇	一、二、七	一、三、七
埃及	三、〇、三、七	三、七、四	三、六、五	一、六、六、三	三、〇、二、九
蘭領東亞弗利加	五、〇	一、二、九、〇	三、六	一、〇、七、三	八、四、五
米國	六、四、六、五	七、五、〇、八、七	七、三、四、三、三	七、九、〇、五、三	九、四、七、〇、〇
太平洋岸諸港					
太平洋岸諸港					
其他ノ諸外國					
總輸入額					

輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベトナム	二、〇、四、六、八	二、五、四、九、六	二、九、三、四、六	二、四、九、六、三	二、五、七、二、五
東アムール	同上	同上	同上	一、一、二	六、二〇
孟買	三、三、八、三、三	三、四、三、一、四、七	三、六、四、一、三	三、六、五、四、二	四、九、〇、一、〇
シンド	二、五、五、七、九	三、六、六、九、四	五、五、六、〇、三	六、九、三、三、六	五、四、九、一、二
マドラス	五、三、三、八、八	五、四、七、九、四	六、二、四、〇、三	六、七、〇、八、九	九、二、九、三、八
緬甸	四、四、三、四	四、四、三、四	三、四、九、七、四	四、〇、八、九、三	四、三、〇、五

ランブ附屬用金物 (單位圓)

仕出国	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英國			五、〇、一、〇、五	五、六、四、〇、四	六、六、三、三
錫蘭				一、九、七	一、九、三
海峽殖民地			三、三、六	三、四、四、三	四、一、〇、一
香港			一、五、〇、〇	六、三、九、二	二、五
其他ノ英領地			四、四		三、七
瑞典					一、四、五、六
獨逸			一、九、八、五、八	三、四、〇、八、四	四、八、八、六、七
佛蘭西			六、九、四、三	三、三、三、三	三、〇、七、三
白耳義			三、一、一、四	三、三、三、三	三、〇、七、三
伊太利			一、九、七、五	二、一、一、一	一、七、四、九
太利					九、九、七

英領印度 第十二章 日印貿易

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
總輸入額	—	—	—	—	—
其他ノ諸外國	—	—	—	—	—
米國太平洋諸港	—	—	—	—	—
日 本	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—
英領地	—	—	—	—	—

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
總輸入額	—	—	—	—	—
其他ノ諸外國	—	—	—	—	—
米國太平洋諸港	—	—	—	—	—
日 本	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—
英領地	—	—	—	—	—

陶磁器

(土管類ヲ除ク)

(單位圓)

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英 國	—	—	—	—	—
錫 蘭	—	—	—	—	—
海峽殖民地	—	—	—	—	—
香 港	—	—	—	—	—

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
總輸入額	—	—	—	—	—
其他ノ諸外國	—	—	—	—	—
太平洋岸諸港	—	—	—	—	—
米國太平洋諸港	—	—	—	—	—
日 本	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—
英領地	—	—	—	—	—

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
總輸入額	—	—	—	—	—
其他ノ諸外國	—	—	—	—	—
太平洋岸諸港	—	—	—	—	—
米國太平洋諸港	—	—	—	—	—
日 本	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—
英領地	—	—	—	—	—

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
東部 ア ツ ン サ ー ル			七元、八五	八〇、元九	八四八、元四
孟買	六八、二四八	五、七九	八五、六〇	九、〇〇	六九、七三
シ ン ド	三三、九四三	一四、〇八	一八、八二四	二七、七〇	一四九、九〇九
マ ド ラ ス	三三、九四三	五二、三三	六四、四〇	五三、三〇	五九、三三

紡績絹糸 緯糸 經糸 (層糸ヲ含ム) 單位英斤 圓

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英 吉 利			一〇、五三	一三、八〇	八四、〇九
錫 蘭			一〇、五三	一三、八〇	八四、〇九
其他ノ英領地					
獨 逸			一、七三	一、九一	二、七〇
白 耳 義			一、七三	一、九一	二、七〇
佛 蘭 西			一、七三	一、九一	二、七〇
伊 太 利			一、七三	一、九一	二、七〇
埃 及 本 及			一、七三	一、九一	二、七〇
支那(香港及澳門ヲ除ク)			一、七三	一、九一	二、七〇
日 本			一、七三	一、九一	二、七〇
埃 及			一、七三	一、九一	二、七〇

總 輸 入 額	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
同 輸 入 州 別			二、〇〇、六元	一、八六、三七	三、九七、七三

輸 入 州 別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
孟 買			九七、五九九	一〇、八二	二、五九
シ ン ド			七四、五七	一、七三	三、七三
マ ド ラ ス			一〇、四一七	一、〇〇	一、〇〇
緬 甸			一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇

製 材 (單位圓)

仕 出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英 吉 利	二、四、六八	三、八、七七	三、五、九四	一、八、〇四	二、八、九二
亞丁及其附屬地	八八	三、八五九	七、二五	一、七三	四、三三
錫 蘭	五、九六四	五、〇二	八、〇二	七、九三	九、〇一九
海峽殖民地	三、六四	三、九二	一、四、七〇	三、七〇	三、一四
香港	三、九四	二、八、七三	二、七八	一、〇〇	五、六八
南洋西部	九、六	三、三	一、〇	一、〇	一、〇
南洋北部	七、八	三、二	一、〇	一、〇	一、〇
全 洲	二、九七	一、〇、〇	七、九	一、八、〇四	一、五、三

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
マスマニア	九六	四七	三	三	七
ニューエールス	一〇二	四〇九	八七五	四六	七
クインズランド	四八	五五四	二五	三	五九
其他ノ英領地	一九三	六二	四八	一〇	一八六
瑞典	九、五三	一六九	六七三	四三三	七、五七一
諸威	六五	一六九	六七三	四三三	一、三九
獨逸	二四、四九	三、〇九三	四、〇六	四七、〇一	七、〇〇
白耳義	九、五	八二	四、四二	二、〇	一、四
佛蘭西	三、三九	五八	一、〇	九三	一、四
伊太利	一、七五	五八	一、〇	七	二四
埃國	七、八四	二、九六	三、四二	一六、七四	一、七四
暹羅	一、〇	一、三三	四〇	一九	三
支那(香港及澳門ナ除ク)	一四〇	八八	四三	九八	六
日本	三、二七	四九、八三	二五、七五	二四、二	七九、五
日	三、二七	四九、八三	二五、七五	二四、二	七九、五
米	二、二七	二、八四	四、八	一六、三	二四、五
大西洋岸諸港					六、七
太西岸諸港					六、七
コスタリカ					一、六
亞爾然丁					一、六
其他ノ外諸國	四、八	八三	七九	一、〇	一、六
總輸入額	四八、五	四六、八	四九、〇	三九、五	四六、九

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ペンゴール	一、五八	一、四七	一、五〇	一、五〇	一、五〇
東ペンゴール及アツサム					
孟買	八、二〇	七、五	七、九	七、〇	一〇〇、四
シンド	八、三	六、二	二、〇	三、八	四、一
マドラス	六八、九	四、八	三、六	二、八	三、九
緬甸	一七、五	一七、四	二四、六	一、五	一、九

石炭 (單位噸圓)

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英吉利	一、三、五三	一、五、七四	一、三、四八	二、五、八五	一、九、三三
亞丁及其の附屬地	一、六、〇七	一、九、四七	一、五、七四	二、五、八五	二、五、八五
錫蘭	九、八二	一、三、三	一、三、〇	一、四、〇	一、四、〇
海峽殖民地	三、五	一、九	二、八	一、四	一、四
香港	三、六	一、九	二、八	一、四	一、四
喜望峯殖民地	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三
ナタール	一、二	一、二	一、二	一、二	一、二
モーリシアス及其附屬地	八、四	四、五	九、八	七、五	三、三
英領東亞弗利加					

英領印度 第十二章 日印貿易

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ソマリランド	一、五三六	九、七九五			
濠洲西部	一、三三三				
グイクトリア	一、五三三				
ニュー、サウス	一、七六九	一、五三三	一、九三三	一、九三三	三、六五五
クインスランド	一、九八三	五、七六三	六、五九六	二、四三三	三、八六六
ニュー、ジー、ランド	二、七六九	三、四三三	五、九三三	二、四三三	四、六三三
獨逸	二、二五	二、八七	二、九七	二、九七	三、八六六
伊太利	八六六				
關領					
支那(香港及澳門を除く)					
日	一、五三三	五、四三三	二、七六九	四、六三三	五、八三三
葡領東亞弗利加	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
其他ノ東亞弗利加	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
米	一、九八	五、五五	四、八八	三、三三	三、三三
其他ノ諸外國	一、九八	一、二二	四、八八	三、三三	三、三三
總輸入額	二、七六九	二、七六九	一、九三三	二、四三三	三、九三三

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
バンゴール	三、五八四	九、五九	一、一四	一、八八	六、八三
孟買	一、四八、五三	一、六、七、七五	一、四、八、八	二、三、三、三	二、三、三、三
シンド	一、五、一、一四	二、〇、九、四九	一、六、九、〇三	二、五、八、四	二、七、九、三
マドラス	一、九、四、八	二、一、一、一〇	六、五、九〇	一、四、三、三	一、七、九、三
緬甸	四、五、三、五	一、七、一、一三	一、四、八、七	六、二、七	一、八、五、八
總輸入額	六、二、六、八	四、四、五、九	一、七、四、三	一、〇、〇、四九	二、四、八、二〇

支那及日本品

陶磁器ヲ除キ漆器ヲ含ム

(單位圓)

仕出	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英吉利	一、七、〇、〇〇	三、一、一、九	二、〇、八、七	一、七、一、五〇	二、一、五、七
錫蘭	二、八、三、元	三、三、三	四、七	一、三、三	七、七
海峽殖民地	三、三、三	三、八、九、九	二、七、五、〇	一、五、一、五九	一、六、三、三
香港	一〇、三、九〇	二、九、九、三	一、四、七、七	一〇、一、七、五	二、七、八、三
其他ノ英領地	二、〇、八		七	三、三	九
獨逸	七、二、七	一〇、一、五〇	三、〇、〇〇	三、九、七	二、四、〇
白耳義	八、四、一	四、三、三	一、七	一、〇	八、五、六
支那(香港及澳門ヲ除ク)	五、三、三	一、〇、元	二、五、四	二、二、六	六、九、四
日	六、六	一、六、四	七、三、八	六、三、七	七、九、三
埃及	六、六	四、六	六、三	六、三	三、五
其他ノ諸外國	二、四、六、三	一、五、三、四	一、四、二、五	一、一、四、五	一、四、〇、〇
總輸入額	二、四、六、三	一、五、三、四	一、四、二、五	一、一、四、五	一、四、〇、〇

英領印度 第十二章 日印貿易

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベトナム	三、五七三	三、〇三三	四、五二二	三、二八三	六、九四一
孟買	五、〇〇六	七、五〇九	六、〇八四	四、九七一	五、二三〇
シンド	一六	三三	五	一、七〇四	八〇五
マドラス	八、二八〇	四、六七七	三、九七七	四、九七七	四、五四二
緬甸	一、九七七	三、二二四	三、五八八	一、七六〇	二〇、六五四

小間物類 (單位圓)

仕出国	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英吉利			三、三六一	三、四七九	三、六九六
シブラル				一、二二九	一、三三三
マラタ			一〇	五九五	三、五二五
亞丁及其附屬地			二、五七七	四、四四二	一、三二六
錫嶼殖民地			三、〇〇〇	四、七九〇	五、七三九
海峽殖民地			二、五九九〇	三、二九三	二、四二五
香港			一、〇九六	一、五九二	一、八〇
南洋			四、一五	三	三
全洲			三、四九	六、八	六、二三四

仕出国	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ニューサウスウェールズ			一四〇	五〇三	三〇三
クイーンズランド			七六二	七五二	八〇五
露西亞			一、七五九	九〇七(南部諸港)	一〇八
瑞典			三三三	一、〇五七	九三
獨逸			五、六七五	七、五七三(自由港)	八、三二四
和蘭			一〇、八九九	五、四八一	二、〇九九
白耳			八、七、五三	二、六、三三	三、〇、三三
佛蘭西			三、六、三二	二、七、七三	四、元、元〇
伊太利			二、三、〇〇	一	三、元、〇八
伊太利			一、八、九、七	九、八、六、九	三、元、〇八
伊太利			一、〇、〇、〇	九、八、五、二(自由港)	一、三、四、〇、九
歐洲			九、三	九二	九四四
地中海			二〇	九二	一六
地中海			九	五、四、九	八、四、七
波斯灣			一、三、三	六、五、四	九
支那(香港及澳門を除く)			四、三、三	一、四、五、〇	七、一〇、一
日本			一、四、三、三	一、九、八、一、八	四、三、八、三、四
埃及			一、一、五	三、四、九、四	二、九、〇、三
米			三、八、三	一、六、三、五、八	一、六、四、二、三
太平洋諸港					六、九
太平洋諸港					一、〇、五、九
其他ノ諸外國			一、七	六、七、四	一、〇、五、九

總輸入額	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
	九,533,611	12,763,644	15,477,057	18,698,880	27,366,754

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
東ベンゴール及アッサム			1,797,601	1,773,544	2,597,796
孟買			2,599,706	2,568,877	3,336,133
シンド			3,556,694	4,010,766	4,555,153
マドラス			3,009,633	3,552,121	3,527,509
緬甸			878,882	1,033,388	1,344,670

諸機械 (單位圓)

仕出國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英吉利	20,731,719	25,388,555	30,770,503	35,168,193	40,881,077
亞丁及其附屬地	1,552	1,959	844	873	1,110
錫蘭	37,255	29,806	53,355	49,408	52,198
海峽殖民地	1,833	14,825	70,905	62,921	13,010
香港	1,304	1,304	3,221	590	7,943
檳榔嶼					3,346
南洋	49,298				3,588
歐洲					
グアイクエラ					
ニューサウスウェールズ					

同輸入州別

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
オーストラリア	33	37	22	105	88
ニュージーランド	33	37	22	105	88
其他(英領地)	51	55	33	63	121
瑞典	89	552,551	1,909	1,965	1,391
獨逸	8,076	55,551	20,327	28,336(自由港)	98,855
和蘭	703	8,638	3,711	14,768	23,535
白耳	8,353	148,147	23,906	29,792	66,198
佛蘭西	1,353	1,017	8,377	3,558	27,008
葡萄牙	26,594	11,074	1,326	3,686	3,598
伊太利	33,588	22,333	18,647	17,338(自由港)	33,336
埃國					820
亞細亞(古波斯諸港)					15
支那(香港及澳門を除く)					15
日本	473	94	3,968	15,503	70,577
日及	44	36	4,125	3,015	70,577
米國	4,521	4,344	4,397	6,907	72,599
米國太平洋諸港					37
其他ノ諸外國	3,823	85	197	233	37
總輸入額	3,823	3,297,833	3,164,733	3,888,933	43,001,924

東部 ア ン グ ロ ス	八、七五、五三	七、九〇、九三	一、四六、三四	一六、八三、九〇	二六、〇四	一九、三〇、九〇
孟 買	六六、九七	一、二九、四九	一、三三、五六	八九、四三	九七、六三	九七、六三
シ ン ド ン	一、四六、七八	一、八九、八三	一、八八、一五	二、四六、八三	二、四六、八三	二、八八、二七
マ ラ タ ラ ス	二、三三、七四	二、四九、八三	二、六三、五三	二、八三、五三	二、八三、五三	二、四四、八四
緬 甸						

衣類 制服及軍服ヲ含ム
莫大小ノモノヲ除ク (單位：圓)

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英 吉 利	五、七二、五七	五、七三、六七	二、七五、三九	一、九七、二九〇	二、五二、六九
シ ア ラ ル タ ー	一、五九	一、四三	五、五三	一、二二	一、八五
マ ラ タ ラ ス 及 ゴ ン	九七	三六	一〇	六七	三、三〇
亞 丁 及 其 ノ 附 屬 地	三、一三九	三、八八九	六、〇〇〇	一、二二	一、八五
錫 蘭	三、〇八三	五、七、五五	四、八、三三	四、五七七	五、一四
海 峽 殖 民 地	三、四、七五	三、三、〇二	三、三、五二	一、三、一七	二、九、七二
香 港	一、〇九、六九	一、〇八、一七	五、〇、四四	五、八、七三	五、〇、四四
喜 望 峯 殖 民 地	三	五二	三〇	七〇〇	九
ナ タ ー ー ル	五、七、三六	三、七、五八	三、六	二、五、四二	七、四
モ ー リ シ ア ス 及 其 附 屬 地	一、七	九四	一、七	四七	七、四
ザ ン ジ バ ル 及 ヘ ム バ	一、三三	三、七	三、三	七	二、二
英 領 東 亞 弗 利 加	一、三三	三、七	三、三	七	二、二
英 領 東 亞 弗 利 加	一、三三	三、七	三、三	七	二、二
全 南 北 部	三三	二四	五四	一〇	八

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
グ イ ク ト リ ア	一、三六	一、三三	一、八九〇	三、四四	二、三、四
ウ ニ エ ー サ ル ス	三三	四七	七八	一、五、一	一、〇、二
ク イ ン ス 、 ラ ン ド	六〇	八五	一九三	一、五、七	一、〇、一
ニ ユ ー シ ー 、 ラ ン ド	六〇	八五	一九三	一、五、七	一、〇、一
其 他 亞 英 領 地	一、九、五〇〇	六、〇、三三	六、〇、三三	八、七、〇	二、六、一
露 亞	三、三	九六	三、三	一、三、一	九、四
瑞 典	七、八、七三	八三、七	三、九、七四	一、三、一	三、九、七四
獨 逸	一、〇、八八	一、五、三三	一、八、一七	三、九、三	一、〇、一
和 蘭	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
佛 蘭 西	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
伊 太 利	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
匈 牙 利	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
地 中 海 東 岸	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
及 黑 海 諸 港	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
波 斯 灣 内 諸 港	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
亞 刺 比 亞 マ ス カ ッ ト	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
其 他 ノ 諸 港	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
暹 羅	一、〇、八八	二、七、三三	三、五、三三	三、九、三	三、五、三三
日 本	三、七、〇六	四、〇、七五	二、七、三三	三、六、〇	三、六、〇

英領印度 第十二章 日印貿易

同輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
埃及	一四、四七	一七、〇六	六、八九	五、四四	三、六四
荷領東亞弗利加	二四	一三	四四	六三	一、八六
米	三、四九五	三、〇八五	九、〇三	一七、八三	一九、三三
大西洋諸港	九六〇	四六	二九四	二五	五九〇
其他ノ諸外國	一一、〇八、三三	三、三六、四六	四、〇五、〇八	三、〇五、六五	三、四六、七二
總輸入額	一一、〇八、三三	三、三六、四六	四、〇五、〇八	三、〇五、六五	三、四六、七二

輸入州別	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベトナム	一八、四八、八六	二、八九、七四	一、一〇、三七	四、五、七二	七、九、五三
東アベツン	四、三〇、九一	四、四三、〇三	一、五〇、九七	四、八六	二、四四
孟買	八八、六九九	一、二六、六四	八、五三、〇三	一、五八、四三	一、七四、五八
シンド	一、八三、三五	二、一九、七三	二、九三、四三	二、九四、三八	二、九八、九〇
マドラス	一、七五、五〇	一、七六、三六	三、三三、八二	四、九、九二	二、〇六、六四
緬甸	一、七五、五〇	一、七六、三六	三、三三、八二	四、九、九二	二、〇六、六四

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
英吉利	一、六六、一六	一、七三、七三	一、七四、七三	一、八九、六〇	二、三三、九三
錫蘭	三、五三	一、五二、六	一、一一	三、四六	二、五三〇
海峽殖民地	七、〇六九	六、五九九	四、一四	一〇、〇〇	一三、三九

文房具 紙ヲ除ク(單位圓)

仕出 國	一九〇三—〇四年	一九〇四—〇五年	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
香港	二、五五	三、一三	三、一四〇	二、八〇	二、三三九
南洋西部	二	一八四	二〇	五七	二七
南洋北部	一八〇	二五八	一四四	七四	七三
全洲	一八〇	二五八	一四四	七四	七三
グアイクトリ	三三	二、九五	三九一	五	五二
ニューサウス	三三	二、九五	三九一	五	五二
ウエスト	九七	二九七	五〇〇	四〇	五三
クイーンズ	九七	二九七	五〇〇	四〇	五三
其他ノ英領地	九七	二九七	五〇〇	四〇	五三
瑞典	三三、八五三	二九、九八八	一四〇、九七五	一七、二〇九	一八、八九〇
獨逸	二、四六六	三、八九九	三、一〇七	五、六二七	六、八九五
和蘭	七、九六三	八、四九六	一〇、二九九	九、七七七	七、七三九
白耳	七、五三	四、三九九	四、九七	四、九三	一、一〇九
佛蘭西	四、四七	四、九七	五、九七	四、九三	四、八七
伊太利	二、四六、七三九	三、一六三	一八、八〇四	一、二〇、三三	二、〇〇、三六
埃國	八、八八三	八、八七四	六、〇四九	九、三九五	四、二七
波蘭	一、二八	一、九八七	二、七八六	八、二五	一、〇九
支那(香港及澳門ヲ除ク)	四、一、三四九	四、九、三三	四、九、三三	七、八、九九〇	七、〇、三四
日本	四、一、三四九	四、九、三三	四、九、三三	七、八、九九〇	七、〇、三四
埃及	四、一、三四九	四、九、三三	四、九、三三	七、八、九九〇	七、〇、三四
米	五、四、六四三	四、八、四九	五、一、六三	四、九、八五三	五、六、五五
大西洋諸港	七五	二、六四	八	三五	七三
其他ノ諸外國	二、四三、三五六	二、四二、六四三	二、四二、〇九三	二、六八、四八	二、八八、〇五七
總輸入額	二、四三、三五六	二、四二、六四三	二、四二、〇九三	二、六八、四八	二、八八、〇五七

英領印度 第十二章 日印貿易

輸 入 州 別	一九〇三—〇四年	一九〇〇—四五營	一九〇五—〇六年	一九〇六—〇七年	一九〇七—〇八年
ベ ン ゴ ー ル	六三、三九六	六七、九七九	六六、九四一	七四、三三三	七七、二〇〇
東 ア ン ツ ゴ ー ル	一、一九、九七五	一、二八、八三三	一、二六、九六一	一、五九、五九九	一、四〇、八七六
孟 買	八、八四三	九五、八九四	一一、七七七	一一、八四五	二九、三六六
シ ン ド ン	二五、四九九	二五、六〇二	二六、〇三四	二八、四三三	三〇、一三四
マ ド ラ ス	二四、七六八	二五、五七七	二四、七八七	二五、八九三	二五、七六九
緬 甸					

第十三章 英領印度輸入關稅率摘要

(本表ハ本邦ヨリ輸出スル重要商品ニ關スル稅率ヲ摘記シタルモノトス)

品 名	從 價 稅 率	課 稅 標 準 價 格
鑛 水	五 分	
蕃 椒	五 分	
乾 薑	五 分	
樟 腦	五 分	精製、ケーキ形
全 全	五 分	半精製、ケーキ形 約十三封度アロツケ形
全 粉 狀	五 分	
薄 荷 腦	五 分	
鑛 水	五 分	
蕃 椒	五 分	
乾 薑	五 分	
樟 腦	五 分	精製、ケーキ形
全 全	五 分	半精製、ケーキ形 約十三封度アロツケ形
全 粉 狀	五 分	
薄 荷 腦	五 分	

銅 塊、錠 五 分 百十二封度毎ニ 五〇留比
全 板 五 分 全 五四留比

懷中時計及掛時計

石 炭

扇子

煙 火

肥 料

紙 板

身邊裝飾用細貨類

寶石及眞珠

石 鹼

文 房 具

玩 具

茶 箱 用 板

傘 及 傘 柄

玻 璃 製 品

陶 器

漆 器

無 稅

無 稅

無 稅

無 稅

無 稅

無 稅

無 稅

第十三章 英領印度輸入關稅率摘要

紡績絹糸	絹織物	絹製手巾	絹製品	綿製靴足袋	莫大小肌衣	浴巾	綿布	貝鈕	木製品	寒天	燐寸	刷子
------	-----	------	-----	-------	-------	----	----	----	-----	----	----	----

五分	五分	五分	五分	三分五厘	三分五厘	三分五厘	三分五厘	五分	五分	五分	五分	五分
----	----	----	----	------	------	------	------	----	----	----	----	----

英領印度貿易指針終

附錄

英領印度暹羅及佛領印度產米調查

附錄 英領印度暹羅及佛領印度產米查調

第一章 生產

一 英領印度ノ生産 前編第一章ニ述ヘタル如ク現時印度ナル名稱ノ及フ疆域ハ英領地ト土人州ヲ含ミ、其境界ハ數多ノ保護國又ハ支那、暹羅等ニ接シ、是等諸國トノ陸上貿易ハ正確ナル統計ヲ缺クヲ以テ、印度ニ於ケル米ノ生産ト消費ノ詳細ヲ知ルコト難シ。今爰ニ述フル所ノ英領印度ト稱スルハ「ベンゴール」州、東部「ベンゴール」州、アッサム州、合併州、一バンジャブ州、北西境州、上緬甸、下緬甸、中央州、「ペラー州」、「マドラス」州、孟買、「シンド」州及ヒ「アジュミヤ」、「クールグ」、「マンバー」ノ十六州ニ限リ土人州ヲ除クモノト知ルヘシ

印度政府最近ノ調査ニ據レハ、英領印度即チ右十六州ニ於ケル米作面積ハ約七千五百五十四萬四千六百「エーカー」ニシテ、其收穫ハ玄米ニテ五百三十八億四千萬英斤（二千四百萬英噸）ナリト云フ、故ニ「エーカー」ノ平均收穫ハ七百五十二英斤ナリ。是等英領印度各州中米產地トシテ重要ナルハ、「ベンゴール」州、東部「ベンゴール」州及ヒ「マドラス」州、下緬甸ノ四州ニシテ、英領印度總米作地ノ七割以上ヲ占ム。一九〇五—六年中是等米作地面積ハ左ノ如シ。

「ベンゴール」州	二五、三五二、〇〇〇
東部「ベンゴール」州	一一、九八六、〇〇〇
「マドラス」州	七、四七一、〇〇〇
下 緬 甸	七、三二〇、〇〇〇
計	五三、一二九、〇〇〇

今是等四州ノ生産狀況ヲ述フルニ、「ベンゴール」州ハ「ガンヂス」河ノ流域ニ在リテ地味膏腴、米ノ生産豊富ニシテ、印度各州中米作地トシテ第一位ナレトモ、人口稠密ナルヲ以テ、其ノ生産額ノ大部分ハ土地住民ノ需要ニ供セラレ、輸出ハ少量ニシテ、品位優勝ナル「テールラリス」、「バラム」、「ムーシギー」ト稱スル種類ヲ歐州へ輸送スルノミ。今一九〇七—八年中「カルカッタ」港ヨリ輸出シタル數量ヲ擧クレハ左ノ如シ。

テールラリス	七六、八〇二、三二〇	英斤
バラム	五、九五二、九六〇	
ムーシギー	七、四三一、〇八八	
計	九〇、一八六、三六九	

是等ノ内「テールラリス」ハ倫敦市場ニ於テ最優等ノ品位ニシテ、主ニ食用ニ供セラルト云フ。

東部「ベンゴール」、「アッサム」兩州ハ輸出米ノ産地トシテ重要ナラス。「マドラス」州ハ人口稠密ナルニモ拘ラス、其ノ生産額ハ需要額ヲ超過シ輸出ヲ爲スモ、其ノ最大需要地ハ錫蘭島ニシテ、他國へ輸出スル數量ハ極メテ僅少ナリ。緬甸ハ上下兩部ニ分タレ、下緬甸ハ人口稀薄ニシテ米ノ産出豊富ナルニ、上緬甸ハ其ノ生産ハ消費ヲ充タスニ足ラサルコトアリ。是レニ由テ觀レハ、英領印度ニ於テ貿易上、米産地トシテ重要ナルハ單ニ下緬甸ノミト云フヘシ。故ニ今左ニ下緬甸ニ於ケル米ノ生産情況ヲ述ヘントス。

印度政府ハ、米ノ生産ニ關シテ實收額ヲ調査スルコト稀ニシテ、年々ノ調査ハ豫想ノミナリ。故ニ左ニ掲クル計數ハ單ニ推定ニ止マルト知ルベシ。

下 緬 甸 ノ 米 作

年 次	面 積	生 産 額 (玄 米)	平均一ヘイカーノ生産額
	ヘイカー	英斤	英斤
一九〇七—〇八年	七、二九二、三一	七、二五〇、八八〇、〇〇〇	九九四
一九〇六—〇七年	六、九七三、六九二	六、九三五、四七八、〇〇〇	九九四
過去五年間平均	六、七三五、九五二	六、六七六、四三三、〇〇〇	九九一
過去十年間平均	六、四四〇、八五一	六、三〇四、〇三二、〇〇〇	九九五

右ノ面積ハ豫想ナルガ、下緬甸土地記録局ノ調査ニ據レハ一九〇六—〇七年ノ實收面積(洪水其他ノ災厄ヲ蒙リタル耕地ヲ除ク)ハ六百九十七萬三千六百九十三「ヘイカー」ニシテ「ヘイカー」ノ平均生産ハ粃米ニシテ平年作千六百英斤ナルベシト云フニ據レバ、下緬甸ノ生産ハ粃米ニシテ約百十一億五千七百九十萬八千八百英斤トナル計算ナリ。今斯ノ豫想ノ數字ヲ基礎トシテ下緬甸ニ於ケル人口ニ對スル消費額ヲ計算スレハ、一九〇七—〇八年ノ玄米生産額ハ七十二億五千八十八萬英斤ニシテ、同年中玄米トシテ輸出豫想ハ、二百五十一萬八千英噸即チ五十六億四千三十萬英斤ナルヲ以テ、一九〇一年ノ下緬甸ノ人口五百四十萬五千九百六十七人ニ對シ、一人ノ消費ハ一年約三百英斤トナルヘシ。然レ共、此ノ人口ハ一九〇一年ノ調査(印度政府ハ一九〇一年以後人口ノ調査ヲ爲サス)ナレハ、其ノ後ノ増加ハ少數ナラサルヲ以テ、實際ノ消費ハ此ノ計數ヨリ減少ヲ來スナルヘシ。又専門學者ノ研究シタル所ニ據レバ、印度第一ノ米作地タル「ベンゴール」州ノ消費ハ、一人一日約二分ノ一英斤ナリト云フ。印度ニ於ケル最豊饒ナル米作地ノ消費ニシテ、斯ノ如キ少量ナリトセハ、全印度ノ消費ハ極メテ少量ナルヘシ。

米ノ貿易ト直接ノ關係ナキモ、後章述フル所ノ輸出米ノ統計表中、粃米ノ集散ト關係アルヲ以テ、茲ニ「ボイルドライス」ノ製造ト其需要セラル、所以ヲ述フレハ、「ボイルドライス」トハ通常ノ粃米ニシテ、只精米法ノ異ナルニ依リ此名稱アリ、

即チ粳米ヲ煮グル後日光ニ曝シ、十分乾燥シタルトキ、「デンキ」ト稱スル白ヲ以テ手搗精米ヲ施コスモノニシテ、印度、海峽殖民地其他熱帶國民ノ食用米ハ主トシテ此ノ製法ニ由ル。「ボイルドライス」ニ二種アリ、一ハ「フリーボイル」ドライス」(fully boiled rice 十分煮タル意)ト云ヒ、他ヲ「パー、ボイルドライス」(Par Boiled rice 半分煮タル意)ト云フ、如斯精米ヲ施ス所以ハ、糲擻ノ容易ナルト、通常ノ白米ニ比シ消化ノ迅速ナルト共ニ、一種ノ嗜好ニ適スルニ由ルト云フ故ニ其ノ價格高ク概ネ中流以上ノ住民ニ需要セラル。輸出表中粳米ノ集散スルモノアルハ、此ノ「ボイルドライス」ノ製造ニ供セラル、モノニシテ、粳米ノ品位ハ優勝ナラサルモ、製造後ハ高價ニ販賣セラル、カ故ニ、運賃ノ割合高率ナル粳米ヲ輸送スルモ、收支相償フモノナルヘシ。

下緬甸ノ主要ナル港灣ハ、蘭貢「モルメイン」、「バセイン」及「アキヤブ」ノ四港ニシテ、粳米ノ種類ニ幾分ノ相違アリ、通常港名ヲ取リテ蘭貢米「モルメイン」米等ト稱ス。「モルメイン」米ハ主トシテ歐洲へ輸出シ、「アキヤブ」米ハ印度へ輸送シ、本邦ト貿易關係ノ密接ナルハ蘭貢米ノミナリ。

二 暹羅ノ生産 暹羅ハ統計ノ微スヘキモノ無キヲ以テ米作地モ面積ト生産額トヲ知ルコト能ハサレトモ、信スヘキ説ニ據レハ、平年作、約百五十萬噸ト見テ大差ナキカ如シ。米作法ニ二種アリ、撒播法及插秧法トス。前者ヨリ産シタル粳ヲ「ナマング」(Nanung Field Rice)後者ヨリ産シタル粳ヲ「ナスワング」(Naswang (Garden Rice) トイフ、「ナマング」ハ粒狀短クシテ赤米多ク、品質劣等ナレハ、主トシテ海峽殖民地へ輸出セラレ、「ナスワング」ハ品質優等ニシテ、歐洲ノ需要ニ適シ年々多量ノ輸出ヲ爲スヲ見ル。

米ハ暹羅第ノ一輸出品ニシテ、年々總輸出額ノ約八割ヲ占メ、輸出ハ同國唯一ノ貿易港タル盤谷ヨリセラル。

三 佛領印度支那ノ生産 西貢港ヨリ輸出セラル、米ハ、佛領印度支那中ノ交趾支那及東浦塞兩地方ノ生産ニシテ、暹羅ト同シク撒播、插秧二法ヲ行ヒ、最モ普通ニ行ハル、ハ後者トス。東浦塞ノ米作地ハ最近ノ調査ヲ得サリシカ、交趾支那ハ一八

年次	数量	米 (玄白碎米ヲ含ム)	数量	價額
一九〇〇—一九〇一年	三六、一六四	一〇、一三〇、四九元	五、四八三、三三	二、三三〇、八五
一九〇一—一九〇二年	六、三二一	二〇、四八、六七	二、三九、八〇	二、五〇、三六
一九〇二—一九〇三年	三、三三三	三、一三、四七	八七、四九、四三	二、六八、一六
一九〇三—一九〇四年	二、一五四	二、二、五五	八六、六二、七九	二、九三、〇三
一九〇四—一九〇五年	一、四九、八七七	三、七、四、七九	八九、五二、八五	二、七四、八七
一九〇五—一九〇六年	四〇、六九七	二、三、四、五七	八〇、〇〇、九三	三、三三、三三
一九〇六—一九〇七年	二、二、一、五〇	三、八、三、三〇	六、九、九、八八	二、三三、〇九
一九〇七—一九〇八年	一、五、二、三三	二、四、七、〇九〇	六、八、〇、七九	三、七、三、〇八
十ヶ年 平均	二七、四八	二、四、四、三三	七、七、五、四三	二、九、七、四〇

緬甸ヨリ他ノ英領印度へ輸送シタル粳及米(玄白碎米ヲ含ム)
最近、十ヶ年間 對照表 (内國商業)

年次	数量	價額	数量	價額
一八九八—一八九九年	一、〇三、二四一	二、三、八、三三	三、三三〇、九三	一一、四三、五九
一八九九—一九〇〇年	七、九、八、三三	一、六、三、三三	七、四、六、六六	二、七、四三、一八
一九〇〇—一九〇一年	一、九、八、〇、七六	四、一、七、四、四	二、三、三、九四	四、四、三〇、八七
一九〇一—一九〇二年	二、九、三、〇、〇〇	六、二、五、五、八五	八、四、七、四四	二、七、五、七、〇一
一九〇二—一九〇三年	二、九、〇、三、九	四、〇、四、八、九四	五、六、八、二二	一、七、五、二、九八
一九〇三—一九〇四年	四、〇、八、九	一、〇、八、一、四	一、七、四、九、二四	六、四、〇、〇、九八
一九〇四—一九〇五年	九、七、九、七〇	二、一〇、一、六、三	三、四、七、七三	二、一、八、九、六二
一九〇五—一九〇六年	一、三、九、八、八元	三、〇、八、七、三	五、〇、三、七、五	一、八、五、六、二五
一九〇六—一九〇七年	一、一〇、一、九〇七元	一、一、七、〇、一、一	二、一〇、一、六、三	四、一、三、三、三九

英領印度暹羅及佛領印度産米調査

一九〇七—一九〇八年
十ヶ年平均

四、〇六、三六八
一、七〇、六三三

三、三三、三九七
四、八六、四四二

一、一六〇、五九九
六、九一、七六一

五、三三、八六五
三、三三、一五二

前記一九〇七—〇八年中緬甸ヨリ外國へ輸出シタル米ヲ蘭貢其他各港別ニスレハ左ノ如シ

港名	數量	價額
蘭貢	一八、二二三、三五〇	七〇、五八九、七二〇
アキヤ	八三九、四六一	三、四三三、七四九
バセイヤ	三、〇三三、〇七九	九、九七八、〇五六
キヨウ	三	一一
マギ	五、三五〇	一九、〇二四
ムルメ	二、三三二、七七四	八、二五五、八一〇
タルボ	一四三、〇七三	五五四、四〇九
合計	二四、五七七、〇九〇	九二、八三〇、七七九

印度政府ノ統計書ニハ前表ノ如ク玄、白及碎米ヲ合算シテ記載セルヲ以テ各種別輸出ノ詳細ヲ知ルコト困難ナリ今蘭貢稅關ニ就キ最近是等各種輸出額ヲ調査シタルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

種類	數量	價額
玄米	四、三三八、一九九	一五、一二九、三九一

九〇年頃ニハ、八十萬二千五百四「ヘクタール」(「ヘクタール」ハ我一町〇〇八三餘)ナリシニ、一九〇六年ニハ一、三五八、七〇六「ヘクタール」ニ増進シタリトイフ。其米收穫量ハ平年作ニテ概略左ノ如シ。

- 一 等 田地 一「ヘクタール」ニ付 四十乃至六十擔
- 二 等 同 同 二十乃至四十擔
- 三 等 同 同 十二乃至二十擔

注意 此ノ擔ハ百四十九英斤、九一四即チ我十八貫、一三ノ擔ニシテ百斤ヲ擔トスルモノト異ナルト知ルヘシ

佛領印度支那中、是等兩地以外ノ米產地ハ東京州ニシテ、此ノ地ハ本邦ト貿易關係密接ナラサルヲ以テ實況ヲ觀察セザリシカ、香港ニテ調査シタル所ニ據レハ、米作地見積面積ハ最近ノ調査ニテ八十二萬八千七百八十一「ヘクタール」、粳米生産額ハ百八十七萬三千四十五佛噸ナリトイフ。然レトモ人口稠密ニシテ、内地ノ需要多量ナルト共ニ、支那雲南州へ輸送セララル、モノ尠ナカラサルカ故ニ、輸出ハ年々減退シツ、アリト云フ。輸出ハ海防港ヨリス。

本邦人ハ是等熱帶地方ノ諸國ニ於ケル米ノ生産ハ、一年幾回モアル如ク思フモノアレトモ、大ナル誤解ニシテ、河川ノ上流地方又ハ深キ内地ニ在テハ、氣候ノ變化烈敷シテ、一年ニ、三回ノ收穫アレトモ、品位劣等ニシテ土地住民ノ需要ニ供スルニ過キス、輸出ニ適シタル品位優等米ヲ産スル下流地方、又ハ港灣附近ノ生産ハ概ネ一年一作ナリ。

第二章 輸 出

一、英領印度ノ輸出 過去十年間平均シタル米ノ輸出數量ハ英領印度全部ヲ通シテ粳米四十三萬八千七百七十五擔(二萬七千〇八十二英噸)玄白及碎米三千三百二十三萬四千二百八十四擔(百九十七萬八千五百二十九英噸)ニシテ緬甸ヨリ他ノ英領印度へ輸送シタルハ粳米百九十七萬〇九百八十三擔(十一萬七千三百二十英噸)玄白及碎米六百九十九萬一千七百六十一

英領印度暹羅及佛領印度產米爲査

右二表中ニ記シタル「ブトラー」米ハ英字ニテ (Pooto) 又ハ (Puto) ト書シ「タミル」語也、其意味ハ菓子又ハ佳味ヲ表ハシ、緬甸語ニテハ之レヲ「コングエイン」(Kong Hwin) ト云フ其種類三アリ即チ白黒及赤ニシテ最多ク輸出セラル、ハ白色也、通常ノ米ハ煮テ用ユルモ此種ノ米ハ蒸シテ用イ食用ニ供スルモアレバ粉未トシテ或ハ菓子ヲ製スルニ用ユ産地ハ緬甸ノミ也。

今本邦ト密接ノ關係アル、蘭貢港過去五年間(自一九〇二—〇三年至一九〇六—〇七年)ノ輸出額ト、重要ナル仕向國ヲ對照スレハ左ノ如シ。但シ粗米ノ同五ヶ年平均輸出額ハ、五萬八千六百二十七担ニシテ、仕向地ハ未詳ナリ。

自一九〇二—〇三年	五ヶ年平均輸出額	蘭貢港輸出額	仕向地
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	二、二八二、八八四	英國
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	六五、五九〇	南阿
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	三二二、二六〇	東アフリカ及モーリシアス
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	四、七一八、三七九	海峽殖民地
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	二〇九、八五四	香港
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	一二七、〇七一	濠洲
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	二、〇〇四、六三三	獨逸
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	七七三、五二八	埃及
六、六一〇、七〇〇	五、八二一、五三三	三〇一、〇九九	其他ノ歐洲諸國

年次	支米	支米碎	支米糠	白米	白米碎	白米糠	糠	米
一九〇一年	四、四七〇、一八八	二、八〇九、〇九〇	七、〇七二、〇七二	四、八五七、七四三	一、〇八九、八〇一	六、九四三、三九三	四、六二四	四、六二四
一九〇二年	四、九六六、七二二	三、八五三、五三三	六、九六六、七二二	三、三三三、七七一	三、二四八、二五五	一、〇三六、四四一	八、八九六	八、八九六
一九〇三年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇四年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇五年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇六年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇七年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇八年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇九年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九一〇年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七

右ノ計數ハ玄、及碎米ヲ含ムト知ルヘシ
 蘭貢以外ノ緬甸各港ノ輸出米ハ、本邦人カ其品位ヲ熟知セザルト、蘭貢港ニ比シ運賃幾分高率ナルヲ以テ、未タ本邦へ輸出スルニ至ラスト云フ。
 二 暹羅ノ輸出 同國ノ輸出米ハ過去七年間ノ平均ニテ、玄米三百四十二萬五千九百五十一擔(二十萬三千八百七十八英噸) 白米五百八十四萬七千九百一擔(三十四萬八千八百八十九英噸) 碎米二百五十萬四千四百六十六擔(十一萬四千七百七十五英噸) 糠百二十四萬四千四百七十九擔(七萬四千七百七十六英噸) 也。今過去十年間ノ消長ヲ擧クレハ左ノ如シ。

年次	支米	支米碎	支米糠	白米	白米碎	白米糠	糠	米
一九〇一年	四、四七〇、一八八	二、八〇九、〇九〇	七、〇七二、〇七二	四、八五七、七四三	一、〇八九、八〇一	六、九四三、三九三	四、六二四	四、六二四
一九〇二年	四、九六六、七二二	三、八五三、五三三	六、九六六、七二二	三、三三三、七七一	三、二四八、二五五	一、〇三六、四四一	八、八九六	八、八九六
一九〇三年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇四年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇五年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇六年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇七年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇八年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九〇九年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七
一九一〇年	五、四九四、四七七	三、三三三、七七一	七、五五五、五五五	五、三三三、四四四	一、四四三、九〇一	八、二二〇、六三三	二、三六七	二、三六七

英領印度暹羅及佛領印度產米調査

七ヶ年平均	一九〇七年		一九〇六年		一九〇五年		一九〇四年	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
二,三六七,九六八	三,四三三,九五二	一,八二二,四八八	二,三六三,八七二	三,三三三,二七二	二,八七五,五五五	二,四四一,八八八	四,〇三〇,七三三	四,〇三〇,七三三
二,八七,四四六	三,七九七,九六六	一九三,八二四	二,四三三,六二四	三,〇三三,六二四	二,七〇,七八〇	二,〇八,五三四	一,〇八,五三四	一,〇八,五三四
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八
二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八	二,八〇,九六八

注意 (右表ハ一九〇六年以前ハ曆年トシテ最近ノモノハ會計年度也。蓋シ暹羅ノ外國貿易統計ハ、一九〇七年以來會計年度ニ由ルコト、改正シタルヲ以テ也。)

前記一九〇七年ハ、白、碎米糠及糶ノ仕向地ハ左ノ如シ。

國名	新嘉坡		香港		暹羅	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
支米	一,四八六,四八二	五,五五,八二二	九,九六,四九六	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二
支米碎	一,九四三	四,五八七	一九〇,四九三	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二
支米糠	一,五九二	一六,五五五	三,〇〇四	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三
白米	三,六五五,九五二	一九,九六,四九六	一,九三〇,九七五	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇
白米碎	五,五五,八二二	一,八四,九六五	一,七四三,四三三	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇
白米糠	六,四〇,六六一	九八,二三〇	五八七,八九八	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五
糶	六,〇九二	一八,五五〇	三七,五七七	三,四三三	三,四三三	三,四三三

國名	支那		英領地		蘭地		和蘭		支那		交趾支那		コーコング		印		錫		合計	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
支米	一,四八六,四八二	五,五五,八二二	九,九六,四九六	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二	三,七五,九五二
支米碎	一,九四三	四,五八七	一九〇,四九三	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二	三,九二,四七二
支米糠	一,五九二	一六,五五五	三,〇〇四	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三	三,五二,七三三
白米	三,六五五,九五二	一九,九六,四九六	一,九三〇,九七五	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇	一〇,一〇八,二二〇
白米碎	五,五五,八二二	一,八四,九六五	一,七四三,四三三	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇	五,八〇,五八〇
白米糠	六,四〇,六六一	九八,二三〇	五八七,八九八	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五	九二,五五五
糶	六,〇九二	一八,五五〇	三七,五七七	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三	三,四三三

右表ニ由テ本邦ト直接ノ貿易ハ皆無ナルヲ見ルヘシ。是レ本邦ヘ輸送シ來ル暹羅米ハ、新嘉坡又ハ香港市場ヘ集積シタル

英領印度暹羅及佛領印度産米調査

後、本邦市場ノ好良ナルトキニ際シ轉送セラル、ニ由ルモノニシテ、其直接貿易ノ行ハレサル所以ハ、暹羅米ノ市場トシテハ暹羅ヨリハ寧ロ新嘉坡又ハ香港ヲ中心トスル情況ニアルト共ニ。盤谷港ハ湄南河口ニ於ケル砂洲ノ障害アルカ爲メ、遠洋航海船ノ出入ヲ妨ケ、滿潮ニ際スルモ、吃水僅ニ十二呎以下ノ淺底船ナラサレハ湖上スルコト能ハス。然ルニ本邦ニハ淺底船極メテ少ナク、且又現時米ノ輸送ニ使用セラル、本邦船舶ハ、通常二、三千噸ニシテ吃水約十七、八呎以上ニ及フヲ以テ、盤谷港内へ湖上スルヲ得ス。故ニ若シ本邦船ヲ利用セントセハ、歐洲航行船ノ如ク暹羅灣ノ南方アンデン港、又ハ河口ヨリ二十哩ヲ距ツルコーシーチャン島ニ於テ貨物ヲ搭載スルヲ得レトモ、此ノ場合ニハ、是等兩港ト盤谷間ノ解賃高率（一擔ニ付約我九錢）ナルヲ以テ、直接貿易ヲ爲スモ利益ヲ得ル能ハサルニ由ルモノトス。

三 新嘉坡ノ集散 前述ノ如ク新嘉坡ハ暹羅米ノ市場タルノミナラス、又蘭貢及西貢米ノ集散地ニシテ、輸入額ノ大部分ハ輸出シ内地ノ消費ニ供スルハ少量ニ過キス。今過去五年間ノ輸出入額ヲ擧クレハ左ノ如シ。

仕向地	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年
暹羅	一、四四、七六六	二、三九、八三〇	一、五八、五五九	一、三六、〇九〇	一、三六、〇八七
暹羅	七三、九四六	三、四九、五五九	四、二四、六六一	四、四三、五五九	三、三三、四三三
佛領印度支那	四二、八九四	一七三、七三〇	二、三三、三五五	一、〇六、七四四	七七〇、五九〇
其他	三三、一六六	八九、四八八	二七、六四四	三三、二九三	三二、三三三
合計	二、四八、九四六	六、四三、八五五	五、八四、一五〇	五、七四、九四四	五、五〇、九五四

輸 出 (穀、支、白米ヲ合計ス)

仕向地	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年
暹羅	一、三三、〇三〇	三、九七、七七七	三、六二、一四三	三、〇七、七五五	三、〇六、九一九
英領ボルネオ	三、一七四	五、九七〇	四、〇九七	五、四八八	三、〇、七六二
錫蘭	八二、〇〇五	七五、一三三	一三、七七七	九八、八七七	八七、三三三
支那	三、四四三	九、七九六	六、四四三	九四、七七六	二〇九、〇五三
香港	二四、六六七	四八、六六四	三、四七七	一〇、五〇一	三、四、八八八
日本	二六、一〇七	八九、五三六	一、五三三	五、八七三	三、四、五〇〇
瓜哇	四四、七三〇	七〇、一三三	五九、九七七	四一、六四九	一七、〇三三
アール	一三、〇七五	五七、一〇八	五〇、〇〇一	六〇、九八八	六九、八七七
マラカ	五、一一三	四、七三六	四、二七七	五、五五九	二九、〇四二
ネーデル	六、五七七	一〇、三三〇	二、三三三	二、三三三	三、七、六六九
蘭領セムピラン	六、六二八	三、七四三	三、七四三	一、六、四三三	一、二、〇八八
バタヴィヤ	四、四七一	五、七六八	六、〇、六八八	三、五、八七七	三、四、三三三
バタヴィヤ	三、八七〇	一〇、七七七	一、八、〇六八	一、九七、〇六八	六、九、四九九
バタヴィヤ	八、四七七	四、四、一三三	四、四、一三三	五、三、一七三	八、三、七七九
バタヴィヤ	一八、四四九	七、五三七	七、八七七	七、九〇八	六、四、四九〇
バタヴィヤ	一六、三三九	一、五、五二六	三、三、三三〇	二、八七、三九七	三、四、九七七
バタヴィヤ	一〇、三三九	四、七、七六六	五、八、三三三	五、八、三三三	五、八、三三三
バタヴィヤ	一七、四三六	五、〇、一三三	五、九、七七三	四、八、二二八	四、八、二二八

英領印度暹羅及佛領印度産米調査

其	八、一八七	三六八、三三六	五八、二七五	二一〇、九〇三	一六、八八六
合 計	一、七九六、九〇〇	五、二四七、七六六	五、〇三三、九九九	五、一五一、五九五	五、〇六五、三〇五

是等輸入米ノ品位ハ蘭貢米ニ限リ蘭貢ノ區別ニ由ル、他ノ輸入米ハ總テ一、二等ニ區別スルニ止マルト云フ。
 新嘉坡ハ米産地ニアラスシテ米ノ集散ヲ爲スノミナルヲ以テ、精米所ノアル無ク只輸出入業者ノミナリ。即チ地賣商十七、
 輸出商十五、蘭貢米輸入商八、暹羅米輸入商七、西貢米輸入商五、ニシテ皆支那商人也。是等輸入商ハ思惑買ヲ爲スカ、又
 ハ産地取引先ノ委託販買ヲ爲シ、貨物ノ新嘉坡港着ト同時ニ上屋ニ入庫ス、而シテ陸揚後一週間内ノ倉敷料及上陸費ハ船主
 負擔ノ習慣ナルヲ以テ、各輸入商ハ貨物到着後一週間内ニ輸出商ニ販賣センコトヲ努ムト云フ。賣買建直ハ「コーヤン」
 (四十擔)ニシテ、手形ハ三十日目拂トス。

四 西貢港ノ輸出：西貢港過去十年間(自一八九七年至一九〇六年)ノ平均輸出額ハ(玄、白及粳米合計ニシテ碎米ヲ含マス)、
 一千四萬一千九百一擔(約六十萬三千九百九十英噸)也。今逐年ノ輸出額ト平均輸出額ヲ舉クレハ左ノ如シ。

玄、白及粳米輸出額	一八九七年	八、七九一、七六一
	一八九八年	九、九九四、九九一
	一八九九年	一一、四五八、九二七
	一九〇〇年	一〇、三〇二、四二七
	一九〇一年	一〇、六三五、九四七
	一九〇二年	一三、四六七、八〇九
	一九〇三年	七、九〇二、八三三

一九〇四年	一一、七五三、八三八
一九〇五年	六、六九〇、三〇九
一九〇六年	九、四二〇、一六四
十ヶ年平均	一〇、〇四一、九〇一

前記一九〇六年中西貢輸出米ヲ玄、白及粳ニ區分スレハ左ノ如シ。

仕 向 地	玄		白		粳		合	
	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額
佛 國	二四九、一四九	六八、〇四三	一、八〇〇、五四四	六、七五〇、一六三	一七、八五五	三、〇〇三	二、〇五〇、五二八	六、九八、三三三
全 殖 民 地			一、六、七二五	四七、九六三	一、六四八	二、六四四	一、四〇〇、三三三	四八〇、五八六
全 安 南 及 東 京	九、六六七	二七、三三〇	六、一六七	三二、三三〇	三、一六三	四、〇四七	七、四、五四七	二四三、七二七
歐 洲	一、三、九六五	三六、八九七	三、三、一五三	七九、七九九			三、八、一六八	一一、七、六三三
海 峽 殖 民 地	二、五七〇	七、二五九	一、六、四一八	五、四八、一七三			二、八、一八八	七、九、六三三
比 律 賓	二、五三、三四四	七、五、五五六	一、八、七、五五五	三、七、四、三三三			一、一、五、〇、九三九	三、九、〇、〇七〇
英 領 印 度	六、九、〇、四九九	一、九、四、九、九六六	一、一、五、七、八二二	五、七、七、二六七			二、三、一、五、六五二	七、八、〇、一、九一
香 港	二、四、五、八〇〇	六、九、四、四三三	八、九、九、五二二	三、八、三、三六六			九、四、五、三二二	三、五、三、八〇九
支那各港 (香港ヲ除ク)								
日 本	二、四、五、八〇〇	六、九、四、四三三						
期 鮮	二、四、五、八〇〇	六、九、四、四三三						
ホ ー ト サ イ ド	二、四、五、八〇〇	六、九、四、四三三						
露 領 亞 細 亞	一、六、九、〇、三六六	四、六、五、七、七二二	七、六、五、六、六八	二、六、六、四、〇九三	一、一、三、四、〇〇〇	二、三、五、六、三六	九、四、〇、一、六四四	三、三、〇、五、四三三
合 計	二、四、九、一、四九	六、八、〇、四、三	一、八、〇〇、〇、四四	六、七、五〇、一、六三	一、七、八、五、五	三、〇〇、三	二、〇、五〇、五、二八	六、九、八、三、三三

英領印度暹羅及佛領印度產米調査

同年中米米及糠ノ輸出額ハ左ノ如シ

碎米	七八四、五八〇	二、二二一、六四九	四、〇〇一、二二九
糠	一、五六三、六七四	二、三四九、一四六	四、四七〇、七九五
合計	二、三四八、二五四		

右碎米及糠ノ仕向地ハ左ノ如シ

國名	碎米	糠	合計
佛國	六四一、七九六	四四、五四七	六八六、三四三
歐洲	九、〇一二	六八九、二五九	六九八、二七一
香港	九三、三二八	七二〇、四七八	八〇三、八〇六
新嘉坡	四〇、四四五	四三、七八九	八四、二三四
其他		七五、六〇二	七五、六〇二
合計	七八四、五八一	一、五六三、六七五	二、三四八、二五六

五 海防港ノ輸出—東京米ハ全部手搗精米ニシテ器械搗ヲ爲サス、市場ハ唯一ノ海防港ニシテ約、十ノ米商アリテ仲買ヲ使用シ、内地ニ入り直接農家ヨリ買入レ、附近ノ小市場へ貨物ヲ集メ、汽船ノ便アレハ直ニ河ヲ下シ汽船へ積込ミ香港へ委託販賣ヲ爲ス。一年ノ輸出額ハ十萬英噸内外ニ過キスシテ將來發達ノ見込ナシト云フ。海防港ハ東京米ノ市場ナレトモ輸出貿易上ノ市場トシテハ香港ノ勢力ニ及ハサルヲ以テ、本邦ト海防港ト直接貿易行ハレス、本邦へ來ル東京米ハ香港ニテ買付ケ

タノモノ也。東京米ハ手搗ナルカ故ニ精米不十分ナルトキハ、優等品ニ對シテハ香港ニテ再ヒ手搗精米ヲ施スト云フ。

第三章 粳、玄、白及碎米ノ種類

粳米ノ種別ハ雜多ニシテ、或ハ收穫期ニヨリ、或ハ色ニヨリテ區別シ枚舉ニ違アラス。英領印度ニ於ケル粳米ノ如キハ百種種上ニ及ビ、専門學者ト雖未知ノモノアリト云フ。故ニ爰ニ述フル所ノ種類ハ、輸出港ニ於ケル市場取引ニ用ヒラル、モノニ止メタリ。但シ蘭貢以外ノ緬甸各港及ヒ英領印度ノ米ハ本邦ト關係ナキヲ以テ之レヲ略ス。

甲 蘭貢米

一 粳米ノ種別

蘭貢市場へ來ル粳米ノ種類ハ十二三種アレトモ、貿易上必要ナルハ「ナセイン」(Nutsain)「ナキヤク」(Ngakyak)及ヒ「ミードン」(Middon)ノ三種トス。

「ナセイン」ハ其形狀圓大ニシテ白色不透明ナリ、幾分赤米ノ混合ヲ免カレス。
 「ナキヤク」ハ其形狀細大長、光澤ヲ帯ヒ透明ナリ、赤米ノ混合前者ニ比シ割合少ナシ。
 「ミードン」ハ一名(バザライス)即チ市場米ト稱シ、其形「ナセイン」米ヨリ圓大ニシテ白色不透明ナリトス。
 「ナセイン」「ナキヤク」ノ兩種ハ蘭貢市場へ來ル粳米ノ約八割ヲ占メ、兩者ハ相互幾分ノ混合ヲ免カレサルヲ以テ、兩者ノ中一種ノミヲ得ルコト能ハス。普通市場ニテ「ナセイン」粳、「ナキヤク」粳ト稱スルモノハ、兩種ノ中、孰レカ一方混合ノ割合比較的少量ナル場合ニ用ユル名稱ニシテ、實際ニ於テ絕對ニ一種ナラス。若シ斯ノ「ナセイン」ト稱スル粳ノミヲ得ント欲スレハ、百籠(一籠ハ四十六英斤)ニ付約十留比(一留比我六十六錢)高價ニ當ル、故ニ通常兩種ヲ混合シテ精米ス。本邦向白米モ「ナセイン」「ナキヤク」兩種ノ混合トス。「ミードン」ハ主トシテ緬甸内地ニテ使用セラル、輸出米トシテハ海峽

英領印度暹羅及佛領印度產米調査

殖民地其他ノ熱帯地方へ輸送セラレ、其價格ハ「ナセイン」「ナキヤク」兩種ノ混合米ニ比シ、百籠ニ付約五留比高價ナリ。蓋シ斯種ノ米ハ産出多カラサルト、熱帯地方ノ需要多キニ由ルモノニシテ、二三年前マテハ本邦へ輸出シタレトモ價格高キヲ以テ現時ハ需要ナシト云フ。

二 精米ノ種別

精米ハ玄米、白米ノ二種ニシテ又之レヲ左記ニ區別ス。

い 玄米

二 割粃米 (5 Parts cargo rice)

玄米四ニ對シ粃米一ノ割合ニテ混合セルモノナリ。遠隔ノ地へ輸送スルニ當リ、玄米ノミナレハ腐敗シ易キヲ以テ粃ヲ混シテ保護スルモノニシテ、本邦へ輸出スルモノモ斯種ニ屬ス。

六分粃玄米 (6 Parts cargo rice)

十六分ノ一丈粃ヲ混シタルモノニシテ、近距離へ輸送スルニ適シ、主トシテ印度本部へ輸送ス。

「ルーゼン」 (LooRain)

百分ノ二割ヲ混シタルモノトス。

ろ 白米

一等品 (No. 1 quality)

蘭貢米中最優等品ニシテ、碎米ヲ混スルコトナク、全部白米(蘭貢ニテハ米ノ形態三分ノ二以上ヲ存スルモノヲ米ト云ヒ三分ノ二以下ノ形態トナリタルモノヲ碎米ト稱ス)ヨリ成ル。然レトモ價格高キヲ以テ、實際ニ於テ精白スルコト稀ナルニ付キ有名無實トモ云フヘキ品位ナリ。

二等品 (No. 2 quality)

品位第二ニシテ磨擦十分、碎米ノ割合少ナク僅ニ二割五分ナリ、主トシテ歐洲へ輸出ス。

三等品 (No. 3 quality)

品位第三ニシテ磨擦前者ニ比シ幾分劣リ、碎米混合割合ニ多ク二割九分ナリ、二等品ト同シク、主トシテ歐洲へ輸出シ未タ本邦へ輸送セラレタルコトナシ、蓋シ價格高キニ過グルヲ以テ也。

「ストレート、クオリチー」 (Straits quality)

品位第四ニシテ往昔海峽地方へ輸出シタルヲ以テ、海峽即チ「ストレート」ナル名稱ヲ生シタルモノニシテ、商業上此ノ名稱ヲ略シテ「エス、キュー」S. Q. トイヒ本邦ニテ特等米ト稱シ、本邦へ輸出ノ九割ヲ占ム。近年歐洲諸國ニ於ケル米ノ需要ノ増加ニ伴ヒ價格騰貴シ、海峽地方ノ需要ニ對シテハ高キニ過グルヲ以テ漸次歐洲へ輸送セラル、ニ至リタリ。

現時東洋ニテ此種ノ米ヲ需要スルハ本邦ノミナリトス。磨擦相當ニシテ碎米混合ノ割合三割七分トス。

「ロカル、ストレート、クオリチー」 (Local Straits quality)

前述ノ「エス、キュー」品位カ東洋向ヨリ歐洲向ニ變シタルヲ以テ、東洋ノ需要ニ應スル目的ヲ以テ此ノ品位ヲ製出スルニ至リタルモノニシテ、商業上畧シテ「エル、エス」L. S. ト云フ。品位第五ニシテ磨擦「エス、キュー」ヨリ劣リ、粃米混合ノ割合三割九分乃至四割ナリ。

「スペシアル、ストレート、クオリチー」 (Special Straits quality)

前述ノ「エル、エス」カ數年間東洋向トシテ輸出セラレタルモ、米價ハ益々騰貴シ東洋向トシテハ品位ヲ下ケ價格ヲ低廉ナラシメスルハ、需要ニ應スル能ハサルニ至リタル時機ニ際シ、支那、緬甸及印度人等、精米業ノ有利ナルヲ知り之レカ設立ヲ企テ、各自東向精米ヲナシ何レモ専用商標ヲ用キテ支那、海峽地方へ販賣ノ路ヲ求メタリ、斯ノ如ク東洋人ノ小製

米所カ製出シタル品位ナルヲ以テ、一名之レヲ「スモール、ミル」(Small mill) 即チ小精米所品位ト云ヒ、又單ニ(Small mill) 「スベシアル」ト稱ス。然レトモ現時ハ大精米所モ此種ノ品位ヲ製シ、各自専用商標ヲ付シ輸出スルニ至リ、爾來此ノ「スベシアル」ニ限リ何レノ精米所モ商標ヲ用ユル習慣ヲ生シタリ。本邦へ來ル一等米ト稱スルモノニシテ、本邦へ輸出ノ一割ヲ占ム。

「オルデナリー、ストレート、クオリチー」(Ordinary Straits quality) 箇貫中ノ最下等品ニシテ、磨擦不十分ナルノミナラス粳ヲ選擇セサルヲ以テ色合一致セス、又碎米混合ノ割合多量ニシテ四割二分ナリ。主トシテスーラバヤ、海峽地方及ヒ印度方面へ輸出ス。此ノ種ノ米ヲ「ラーヂ、ミル、クオリチー」即チ大精米所品位ト稱スルハ、多クノ場合大精米所ノ精米ニ依ルヲ以テナリ。然レトモ小精米所ニテモ此ノ種ノ品位ヲ製セサルニアラス。

前述ノ白米ニ混スル碎米ノ割合ハ箇貫商業會議所ノ規定スル所ニシテ、若シ差違アルトキハ買手ハ商業會議所ノ鑑定ニ由リ損害賠償ノ起訴ヲナスコトヲ得ルト共ニ、精米所ニテモ碎米混合ニ際シ時々硝子製ノ試験器(テスト、グラス)ヲ用キテ混合ノ度ヲ計リ、斯ノ規定ニ適セシムルヲ以テ、碎米ノ混合ニ關シテハ甚シキ差違ナシト云フ。右白米種別ノ中、一等品ヨリ特等品即チ「エス、キュー」マテハ歐洲向品質ニシテ、三等品ト「エス、キュー」最モ多ク需要セラレ、歐洲輸出ノ九割ヲ占メ二等品ハ僅ニ一割ナリ。本邦向品質ハ前述ノ如ク「エス、キュー」九割「スベシアル」一割ナリ。

三 碎米ノ種別

碎米ニハ玄米碎、白米碎ノ二種アリ又之レヲ左記ニ區別ス。

イ 玄米碎 (Cargo broken)

玄米碎ハ單ニ一種ニシテ「カーゴブローケン」ト稱シ、主トシテ歐洲へ輸出シ家畜ノ飼料ニ用キラル。

ロ 白米碎

「ホワイトブローケン」(White broken)ト稱シ、通常左ノ六種ニ區別ス。

- No. 1 A A 一等米ヨリ篩出シタルモノ
- No. 1 A A 二等米ヨリ篩出シタルモノ
- No. 2 A 全上
- No. 1 B 三等米ヨリ篩出シタルモノ
- No. 2 B 全上
- No. 2 「エスキュー」及「スベシアル」ヨリ篩出シタルモノ

斯ノ順序ハ品位ノ等級ヲ示スモノニシテ、(No. 1 A A)ヨリ順次品質低下シ (No. 2)ハ最下等品ナリ。而シテ (No. 1 A)ト (No. 2 B)及 (No. 2 A)ト (No. 2 B)トハ、粒狀ニ於テハ同一ナレトモB印ノモノハ黑色ナリト云フ。然レトモ是等ノ格付ハ歐洲人ノ經營ニ係ル大精米所ノ區別ニシテ、小精米所ハ (No. 2 No. 3)ノ二種ニ區別スルアリ、又印度人ノ精米所ニテハA1 A2 A3 B1 B2 B3及ヒC1 C2 C3等ニ區分スルモノアリテ一定セス。是等白米碎ハ主ニ歐洲ノ需要ニ供シ、又印度海峽地方へモ輸出ス。

乙 暹羅米

一 粳米ノ種別

生産ノ部ニ述ヘタル如ク商業上暹羅粳米ノ種別ハ「ナスワング」及「ナマング」ノ二種ニシテ、前者ハ稍圓大ニシテ形狀一定シ後者ハ稍小ニシテ形狀不定ナリ。

二 精米ノ種別

英領印度暹羅及佛領印度産米調査

玄、白共ニ「ベスト・ヨーロッパ」(Best Europe)「ナンバー・ワン、ストレート」(No. 1 Straite)「ナンバー・ツー、ストレート」(No. 2 Straite)「ナンバー・スリー、ストレート」(No. 3 Straite)「ナンバー・フォー、ストレート」(No. 4 Straite Lower Grade)ノ四種ニ區別ス。玄米中粒混合ノ割合ハ歐洲向ハ一割五分ヨリ二割マテ、東洋向ハ二分乃至五分トス。又白米中碎米混合ノ割合ハ優等品ハ三割乃至四割、劣等品ハ五割乃至六割トス。碎米ハ通常左ノ五種ニ區別ス。

- 一 等品 No. 1 Large white Broken.
 - 二 等品 No. 2 Medium white Broken.
 - 三 等品 No. 3 Small white Broken.
 - 四 等品 No. 4 Very Small white Broken.
 - 五 等品 No. 5 Sifting white Broken.
- 是等ノ中一等品ヨリ三等品マテハ歐洲へ輸出シ、以下ハ東洋へ輸出ス。

丙 西貢米

一 粳米ノ種別

西貢港ヨリ輸出スル米ハ、産地ニヨリ交趾支那及東浦塞ノ二大別トシ、更ニ又之レヲ左記ニ區別ス。

交趾支那粳

種類數多アレトモ概略左ノ三種トス

- 一 「ヴィンロン」(Vinhlong) 又「バイチャウ」トモ云フ
- 二 「ゴcong」(Gocong) 又丸形トモ云フ
- 三 「キキバン」(Baikan)

一 ハ粒狀長ク重量比較的輕ク、精米器ニ對スル抵抗力強カラス外見モ亦美ナラスシテ三種中ノ下等品也。然レトモ最多ク産スルハ此種ノ米ナリト云フ。

二 ハ品質優勝ニシテ隨圓形ヲナシ厚クシテ重量アリ、其質ハ堅クシテ能ク精米器ニ堪ヘ色白ク本邦米ニ酷似ス。此種ノ米ハ歐洲及ヒ本邦市場ノ需要ニ適スト雖、産出高多カラスト云フ。

三 ハ粒狀頗ル長ク其色白キモ其質脆弱ナルヲ以テ長時間精米器ニ懸クルヲ得ス、支那人ハ此種ノ米ヲ以テ最良質トシテ嗜好シ、産出高ノ殆ント全部ハ支那人ノ需要スル所ニシテ其價格前二種ヨリ高シ。

東浦塞粳

- 一 「カンボージュ」(Cambodge)
 - 二 「バタンバン」(Bat-ambang)
- 右「バタンバン」ハ品質好良ニシテ精米器ニ堪ヘ碎米少ナシ。

二 精米ノ種別

イ 玄米

五分 粳入玄米	丸形	バイチャウ	混合
一割 粳入玄米	丸形	バイチャウ	混合
一割五分 粳入玄米	丸形	バイチャウ	混合
二割 粳入玄米	丸形	バイチャウ	混合

ロ 白米

第一號 白米

碎米二割五分以内ニシテ磨十分ナリ

英領印度暹羅及佛領印度産米調査

丸形第二號篩濟白米 歐洲向碎米二割五分以内 本邦向四割以内
丸形第二號未篩白米 馬尼刺向 瓜哇向 歐洲向

右未篩品ハ碎米五割以内ニシテ精米ハ五割四分ヲ混シ、馬尼刺向最モ能ク精白セラレ瓜哇向之レニ次キ歐洲向ハ品位劣等ニシテ家畜飼料ニ用キラル。其他「バイチャウ」又混合ニヨリ各種ノ區別アリ。右混合ト稱スルハ交趾支那米ト東浦塞米ノ混合ヲ意味スルモノトス。

- 第一號 即チ大
- 第二號 即チ中
- 第三號 即チ小

第四章 精米所ト精米方法

甲 精米所

蘭貢ニ於ケル精米所ハ其數大小合セテ四十六、大規模ノモノハ主トシテ歐洲人ノ經營ニ係リ、多クハ歐洲ニ本社ヲ有シ緬甸ノ各港又ハ盤谷ニ支工場ヲ有スルモノアリ、小規模ノモノハ緬甸人及支那人ノ經營スル所ニシテ、大小共ニ英國又ハ獨逸ノ精米機械ヲ使用シ、規模宏大、作業整然、一日ノ精米力ハ優ニ二千噸以上ニ及ブモノアリ。今主要ナル精米所ト精米力ヲ舉クレハ左ノ如シ。

精米所名	一日即チ二十四時間ノ精米力	合計
スチール兄弟商會 (英國人)	第一工場 四〇〇噸 第二工場 八〇〇噸 第三工場 五〇〇噸 第四工場 七六〇噸 第一工場 五〇〇噸 第二工場 三五〇噸 第三工場 六〇〇噸 第四工場 五〇〇噸 第五工場 二五〇噸	二、四六〇噸 二、二〇〇噸
ムーア兄弟商會 (獨逸人)	第一工場 二五〇噸 第二工場 四〇〇噸 第三工場 六〇〇噸 第四工場 一〇〇噸 第五工場 四〇〇噸	一、七五〇噸
ブロック兄弟商會 (英國人)	第一工場 二五〇噸 第二工場 三〇〇噸 第三工場 二五〇噸 第四工場 四〇〇噸 第五工場 五〇〇噸	一、五五〇噸
ムーラ、タウード父子商會 (緬甸人)	第一工場 三〇〇噸 第二工場 二五〇噸	五五〇噸
ワットヒン兄弟商會 (清國人)	第一工場 五〇〇噸 第二工場 五〇〇噸	一、〇〇〇噸
ギレスピー商會 (獨逸人)	第一工場 五〇〇噸	五〇〇噸
英領印度暹羅及佛領印度產米調査		二十七

其他一日ノ精米力五百噸ヨリ四五十噸ノモノ三十九

合計 精米所 四十六

六、七五〇
一五、八〇〇

是等精米所ノ内英、獨人ノ經營ニナルモノハ其資本金頗ル巨額也、今試ニ前記精米所其他主要ナルモノ、資本金ヲ擧クレハ左ノ如シ。

スチール兄弟商會	公稱資本英貨	四十四萬磅	拂込資本英貨	四十萬八千磅
ムーア兄弟商會	全	四十萬磅	全	三十萬磅
プロック兄弟商會	全	全	全	三十五萬八千八百八十五磅
アラカン商會	全	七萬五千磅	全	拂込
クルゲル商會	全	十六萬磅	全	拂込
ジョセフ、ヒヒーブ父子商會	全	十萬磅	全	額 拂込

斯ノ如ク最大ナルモノハ四百萬圓以上ニ達シ、普通ノモノト雖百萬圓ヲ下ラス。清國人及緬甸人ノ經營セルモノハ、是等歐洲人ノ經營セルモノニ比スレハ、規模小ニシテ其資本金ハ最少ト雖十萬圓ヲ下ラス、普通ノモノハ約五十萬圓位ナリ。是等英獨人ノ經營セル精米所ノ資本金ハ、歐洲ニテ登記シタル全高ニシテ、其放資ハ單ニ蘭貢ノミナラス、緬甸各港其他ニ有スル工場、或ハ兼業、又ハ米ノ輸出貿易資金ニ使用スルモノ尠カラス、殊ニ蘭貢、盤谷、西貢等ノ主タル米產地ニ於ケル精米所ニテハ、貸付ヲナスコト稀ニシテ、多クハ粳米ヲ買付ケ精白シテ販賣スルモルナレハ、流動資本ヲ要スルコト多ク、爰ニ掲ケナル精米所ニシテ其精米力尠ナリト雖、米ノ貿易資金ニ多額ノ資本ヲ投スルモノアリトス。原來蘭貢其他ノ精米業ハ商業上ノ必要ヨリ發達シタルモノニシテ、粳米ノ輸送ハ運賃高率（粳米ヲ輸送スルトキハ容積ヲ多ク要スルカ故ニ立、白米ニ比シ運賃率二、三割高シトイフ是レ粳米ハ最モ保存ニ堪ヘ得ルモ貿易品トシテ多ク集散セサル所以ナリ）ナルヲ以テ立

米又ハ米トシテ輸出スルニ至リシモノナレハ、精米業者ハ即チ輸出業者ニシテ、精米ハ商業ニ伴フ附帶事業タル状態ニ在リ。故ニ精米所ハ工場内ニテ販賣スルコトアレトモ、多クハ自家所有ノ船舶又ハ雇船ヲ用キ、顧客ノ注文ニ應シ世界ノ需要地へ輸送シ之レヲ販賣スルヲ以テ、精米以外ニ要スル資金ハ頗ル巨額ナリトス。（精米所ヲ有セサル輸出業者無キニアラサレトモ其數極メテ少ナシ）

前述ノ如ク、暹羅米ハ直接本邦ト貿易關係ナキヲ以テ重要ナラサレトモ今其精米業ノ概梗ヲ述フレハ、現時同國ニ於ケル精米所ハ、總數約六十ニシテ英、獨人ノ經營セルモノアレトモ、多クハ暹羅人又ハ支那人ノ經營ニ係リ其規模ハ蘭貢ニ比シ幾分小ナレトモ大體ニ於テ大差ナク、多クハ盤谷港ノ附近ナル湄南河ノ沿岸ニアリトス。

西貢ニ於ケル精米業ハ少シク趣ヲ異ニシ、精米業者ハ直接其需要地へ輸送シテ販賣セス、海外ノ代理店へ委託販賣ヲナスカ又ハ歐洲人ノ仲買ヲ經テ輸出スルヲ以テ、歐洲へノ輸出ハ獨立工業ニシテ（東洋へノ輸出ハ一種ノ貿易業也、而シテ蘭貢ト同シク專業トスル所ハ貸付ニアラスシテ粳米ヲ買付ケ之レヲ精白シテ販賣スルニアリ、故ニ資本ハ蘭貢ト同シク巨額也。）

西貢ニ於ケル精米業ハ概ネ支那人ノ經營ニ係リ、蘭貢ニ比シ其數少キモ、規模宏大ニシテ作業ノ整然タルコトハ蘭貢精米所ト異ナルトコロナシ。今是等精米所ト精米力ヲ擧クレハ左ノ如シ。

精米所名	一日即チ二十四時間ノ精米力
萬昌源	六〇〇噸
萬祐源	四五〇
萬益源	二五〇
怡昌	四〇〇
萬豐源	七〇〇

英領印度暹羅及佛領印度產米調査

萬 德 源

四〇〇

オリエン ト (獨、清人ノ合同事業)

五〇〇

ユ ニ オン

三五〇

泰 盛

一、〇〇〇

萬 盛

一、〇〇〇

合 計 精米所十

五、六五〇

(西貢米ノ精米所ハ西貢ヨリ「六キロメートル」ヲ距ツルチヨロントイフ所ニアリ)

斯ノ如ク西貢ニ於ケル精米業ノ實權ハ支那人ノ掌握セル所ニシテ、歐洲人ノ經營セルモノ僅ニ一、他ノ一ハ支那人トノ合同事業ニ過キス。是レ支那人ハ古來西貢地方トノ交通ヲナシ、内地農業者ノ事情ニ通曉シ精米ノ買付ニ便宜ヲ有スルニ由ルモノニシテ、精米業者ハ只賃揚ヲ以テ甘ンセス他ニ米ノ商業ヲ營ムモノナレハ、蘭貢、西貢共ニ精米業者ノ最モ苦心スル所ハ精米ノ買付ニ在リ然ルニ支那人ト西貢土人トハ古來相嫁娶シテ親族關係トナレルヲ以テ、歐洲人ニ比シ精米ノ買付ニ便宜ヲ有スル事ハ支那人ノ權勢アル大原因ナリ又支那人ノ勤勉ナルコト生活ノ質素ナルコト等モ亦歐洲人ノ拮抗シ難シトスル所ナリト言フ。而シテ是等支那人ノ精米所ハ、蘭貢ト全シク輸出業者ニシテ、他ニ精米所ヲ有セサル輸出業者(支那人ノ)アレトモ其數二、三ニ過キス。然レトモ支那人ハ歐洲市場ニ聯絡ナキヲ以テ歐洲ヘノ輸出ハ歐洲仲買人ヲ經テ輸出ス。本邦人ノ輸入業者モ多クハ歐人仲買ト取引ヲナシ、本邦在留商人ノ輸入ニ係ルモノハ直接精米所ヨリ買付ヲ爲スト云フ。今歐人仲買ノ主ナルモノヲ舉クレハ

- アラタイン商會 スバイデル商會 ダブルユー、ジー、ヘール商會 アラカン商會
- デニス、フレール商會

等ニシテ是等歐人仲買ハ、西貢ニ事務所ヲ有シ前記精米所ヨリ買付ヲ爲ス、其買付方法ハ後ニ述フルカ如ク「ファースト、コスト」ニテ相場ヲ取り、之レヲ換算シ輸出税、諸費用、口錢ヲ加算シテ船乘直段トシテ買手ト約定ス。

乙 精米方法ト燃料

蘭貢、盤谷及ヒ西貢ニ於ケル精米方法ハ幾分ノ相違アレトモ、大體ノ作業ハ全一ニシテ只蘭貢ハ輸出力多量ナルト、專ラ歐洲人ノ經營スル所ナルヲ以テ其作業尤モ整備セルノ差アルノミナリ。今精米方法ノ概梗ヲ述フルニ當リ作業順序ヲ區別スレハ

- 第一 清 淨 法 (Conditioning)
- 第二 糶 摺 法 (Husking)
- 第三 精 米 法 (Cleaning)
- 第四 仕 上 法 (Polishing)

清 淨 法

第一ニ施スヘキ作業ハ精米中ニ混合セル土砂、糞其他ノ汚物ヲ除去スルニアリ。此ノ清淨法ヲ行フヲニハ糶篩器(Paddy Rid)ヲ用キ、金網ニテ篩分ケルモノトス。最初人夫ヲシテ精米ヲ倉庫ノ傍ラニ設ケタル漏斗狀ヲナシタル木製ノ大ナル精米受器ニ投入セシムルトキハ、精米ハ自動的ニ漏斗ヲ出テ、上送器(エレベーター)ノ作用ニヨリテ階上ニ至リ、糶篩器ニ入り混合物ヲ分離シ第二ノ作業ニ移ル。

糶 摺 法

篩器ニ依リテ清淨トナリタル精米ハ階下ニ降り糶摺器(Huller)ニ入ル。糶摺器ハ一種ノ臼ニシテ直徑約五、六尺鐵製ニシ

英領印度暹羅及佛領印度產米調査

テ、外部ハ金剛砂入りノ人造石ヲ以テ掩ヒ、上下二個ノ摩擦ニヨリ粃殻ヲ剝脱セシムルモノトス。摩擦セラレタル粃米ハ、粃殻分離器 (Dusk Separator) ニヨリテ脱殻ト分離ス。然レトモ尙ホ脱セサル粃米ヲ混合スルヲ以テ、之レヲ粃米分離器 (Paddy Separator) へ輸送シ玄米ト粃米トヲ分離ス。此ノ分離シタル粃米ハ器械ノ装置ニヨリ粃摺器ニ入り再ヒ摩擦セラレ玄米ハ次ノ作業ニ移ル。

精米法

粃米ト分離シタル玄米ハ、上送器ノ作用ニ依リテ精白器 (Cone) ニ入ル。精白器モ亦鐵製ニシテ金剛砂入りノ人造石ヲ以テ掩ヒタルモノナレトモ、粃摺ハ壓力ヲ要スルニ精白ハ摩擦ヲ要スルカ故ニ、其構造ハ粃摺器ト異ナリテ大鼓形ヲナシ、上部直徑三尺下部直徑二尺高サ約三、四尺、其ノ外部ハ金網ニテ掩ヒ、玄米上部ヨリ來ルトキ内部白ノ廻轉ニヨリ摩擦セラレ、漸次白色ヲ品シ糠ト分離シ白米トナルナリ。下等白米ハ此ノ作業ヲナスニ止ムルモ、中等以上ノ白米ハ尙ホ次ノ作業ヲ爲ス。

仕上法

前ノ作業ニテ精白セラレタル白米ニ仕上ヲ施スニハ、大サ約精米器ト同様ニシテ内部木製ニ羊皮ヲ張り、外部金網ヲ掩ヒタル仕上器 (Polisher) ニテ摩擦シ、一層純白ナラシムルト同時ニ光澤ヲ生セシメ爰ニ精白ヲ終了ス。右ノ外必要ナル器械ハ玄米ヨリ玄米碎、白米ヨリ白米碎ヲ分離スルモノニシテ、白米碎ハ精白方法終了シタル後、之レヲ分離シ前述ノ碎米混合親定ニ從ヒ再ヒ碎米ノ混合ヲナスモノトス。右ハ精米方法ノ大體ヲ述ヘタルモノナレトモ、實際ニ於テハ作業複雑ニシテ尙ホ幾多ノ附屬器械ヲ使用シ、各器械ヲ經ル毎ニ上送器ニテ陷上へ輸送シ、之ヲ墜落セシメテ次ノ器械ニ入ラシム。各工場ハ大抵三階又ハ四階建ノ構造ニシテ、或ハ四階ニ或ハ三階ニ上送シ上送器ヲ利用スルコト頻繁ナリ。

精米所ニ使用スル器械ハ英國製アリ獨逸製アレトモ最も多く用ヰラル、ハ英國製ナリ。精米器械中、粃分離器 (Paddy Sepa- rator) ハ獨逸「シュール」社ノ特許品ニシテ何レノ會社ニテモ同製器ヲ使用ス。

各精米所ニヨリ英國製ノミヲ用ユルアレハ、又獨逸製ノミヲ用ユルアリ、又英獨兩者ヲ混シテ使用スルモノアリ、何レノ機 械カ優勝ナルヤ定説ナキモ、精米業者ノ説ニヨレハ、英國製ハ迅速ニ精米スルコト能ハサレトモ器械ノ磨損少ナク價格亦高 シ、然ルニ獨逸製ハ價格低廉ニシテ迅速ニ精米スルヲ得ヘキモ磨損多シト云フ。本邦ノ需要品ヲ製スルニハ英國製器械ヲ適 當トスト云フ。

燃料

蘭貢、盤谷、西貢共ニ精米所ハ粃殻ヲ燃料トシテ使用シ、他ノ燃料ヲ使用スルコトナシ、餘リタル粃殻ハ之レヲ燃料トシテ 販賣シ、又ハ野外ニ堆積シテ燒キ灰タル灰ハ瘠田ノ肥料トス。粃摺ヨリ生シタル粃殻ハ、階上ヨリ自動的ニ大爐内へ一定 量ヲ供スル装置ニシテ、粃殻ヲ燃料トスルコトノ發明セラレシヨリ以來。是等地方ニ於ケル精米業ノ發達ニ著シキ影響ヲ及 ボシタリト云フ。

第五章 搗機ト精米賃

搗減—蘭貢、西貢及盤谷ニ於ケル輸出米ハ粃米ニテ市場へ輸送シ來ルヲ以テ、先ツ之レヲ粃摺スルノ必要起リ、進ンテ精白 ヲ爲スニ至リタルモノニシテ、器械ノ裝置ヨリ觀察スレハ玄米部、白米部ノ二部ニ分タル、カ如シト雖、其作業ハ連續シテ 行ハレ、玄白ヲ別々ニ精米スルコトナシ。(摺粃ノミヲ爲ス精米所アレトモ極メテ小數也)故ニ玄米ヲ要スルトキハ粃摺シタ ル後、精白器へ輸送セラル、前ノ中間ニ於テ之レヲ除去シ、適量ノ粃ヲ混シテ(前章玄米ノ種別ニ從ヒ)輸出ス。即チ其作業 ハ粃米ヨリ玄米ト爲スト、粃米ヨリ白米ト爲スノ二方法アルノミナリトス。故ニ搗減モ精米賃モ此二種アルノミナレハ、玄

米ヨリ白米ト爲ス場合ハ計算ニヨリ推定スルニ止マルト知ルヘシ。搗減ハ精米器ト米質ノ良否ニヨリ區々一定セス、今蘭貢ニ於ケル大精米所ノ平均搗減歩合ヲ舉クレハ左ノ如シ。

粗米ヨリ二割粗入玄米ニハ	二割二分減		
同「オルデナリー」ストレート、クオリチー」ニハ	三割五分減		
同「スベシアル」ニハ	三割八分減		
同「ストレート、クオリチー」ニハ	四割四分減		
同一等品乃至三等品ニハ	五割減		
二割粗入玄米ヨリ「ストレート、クオリチー」ニハ	二割八分減		
玄米(粗入レサルモノ)ヨリ「ストレート、クオリチー」ニハ	二割五分減		
而シテ粗米百斤ヨリ「オルデナリー、ストレート、クオリチー」及副産物ヲ得ル割合ハ左ノ如シ。			
白米	六十六斤	碎米	三斤
糠	六斤	粗穀其他	二十五斤
白米百斤ヨリ「スベシアル」及副産物ヲ得ル割合左ノ如シ。			
白米	六十二斤	碎米	六斤
糠	七斤	粗穀其他	二十五斤
粗米百斤ヨリ「ストレート、クオリチー」及副産物ヲ得ル割合左ノ如シ。			
白米	五十六斤	碎米	十斤
糠	九斤	粗穀其他	二十五斤

右ハ大精米所ノ搗減歩合ナルカ、緬甸人ノ經營ニ係ル中位ノ精米所ニテ調査シタル所ニ依レハ、搗減歩合ハ概略左ノ如シト云フ。

粗米百斤ヨリ二割粗入玄米トナス場合ハ二割二分減			
粗米百斤ヨリ「オルデナリー、ストレート、クオリチー」トナス場合			
白米	六十五斤	碎米	三斤
糠	八斤	粗穀其他	二十四斤
粗米百斤ヨリ「スベシアル」トナス場合			
白米	六十二斤	碎米	六斤
糠	八斤	粗穀其他	二十四斤
粗米百斤ヨリ「ストレート、クオリチー」トナス場合			
白米	五十九斤	碎米	八斤
糠	九斤	粗穀其他	二十四斤
西貢米ノ搗減歩合ハ粗米ヨリ二割粗入玄米ニハ二割二分減ニシテ通常ノ白米即チ「チャバ、クオリチー」ト爲ス場合ハ左ノ如シ。			
白米	六十五斤	碎米	三斤
糠	七斤	粗穀其他	二十五斤
粗米百斤ヨリ本邦向白米及副産物ヲ得ル割合			
白米	五十五斤	碎米	十三斤

英領印度暹羅及佛領印度產米調査

糠

七 斤

糠穀其他

二十五斤

三十六

精米賃 蘭貢ニ於ケル歐人ノ大精米所ハ賃揚ヲ爲サズ、粗米ニテ買付ケテ、白米トシテ輸出シ偶々業務繁劇ノ際ニ、緬甸人又ハ支那人ノ精米所へ賃揚ヲ依頼スルコトアレトモ、此場合ニハ歐洲人ハ自家製品ノ信用ヲ重シシ唯粗摺ヲ爲サシムルニ止マリ。決シテ精米ヲ爲サシムルコト無シト云フ。又西貢ニテモ自家ノ工場ニテ、精白スル能ハサル場合ニ他會社へ依頼スルカ、又ハ歐人仲買ノ依頼ニ應ジテ精白スルノミ也。故ニ是等米産地ニ於ケル精米賃ヲ以テ、直ニ精米業ノ收利如何ヲ判定スルコト能ハス、唯大體ノ標準ヲ知ルニ止マルモノトス。

蘭貢ノ精米賃

粗米百斤ノ精米賃

六 錢 八 厘

粗米百斤ヨリ「ストレート、クオリチー」ノ精白賃

十二 錢 六 厘

玄米百斤ヨリ「ストレート、クオリチー」ノ精白賃

七 錢 七 厘

西貢ノ精米賃

自一月 粗米ヨリ白米トナス場合白米百斤ニ付

三十四 錢 七 厘

自四月 至七月 同

二十四 錢 八 厘乃至

自五月 至七月 同

三十四 錢 七 厘

自八月 至十二月 同

九 錢 乃至 十 錢

但シ西貢ハ蘭貢ト異ナリテ糠ハ精米所ノ所得トス

右ハ通常ノ白米即チ「ジャバ、クオリチー」ヲ精白スル場合ナレハ、本邦向品質ノ場合ヲ打算スレハ左ノ如シ、但シ精米賃最高ノ場合ハ平均ス。

精米百斤ヨリ本邦向品位ノ精米賃

二十九 錢 八 厘

又

粗摺賃粗米百斤ニ付

二十四 錢 四 厘

斯ノ精米賃ハ最高賃銀ノ場合ナレハ、最低ノトキハ蘭貢ト大差無キニ至ルヘシ、又粗摺賃モ最高率ノ場合ニシテ、通常ハ粗米百斤ニ付八錢乃至十五錢也ト云フ。西貢ノ精米賃カ此ノ如ク著シキ高低アル所以ハ、如何ナル理由アリヤ明瞭ナラサレトモ、察スルニ、西貢ノ輸出ハ近年ノ發達ニシテ、其精米力ハ輸出力ニ伴ハス（前述精米所ノ部参照）又支那人ノ獨占事業ナルカ故ニ歐人仲買ノ依頼品ニ對シテ高率ナル精米賃要ヲ求スルモノナルヘシ。

第六章 粗米ノ買付

前述ノ如ク、粗米ノ買付ハ精米業者ノ利害ニ多大ノ關係ヲ有スルヲ以テ、粗米ノ買付ハ精米業者ノ最苦心スル所ナリト云フ。今緬甸ヨリ述ヘントス。

緬甸、粗米ノ買付ヲ爲スニハ精米所カ直接ニ爲スアリ、又仲買ヨリ買付ラスルモノアリ、仲買ハ支那人又ハ緬甸人ニシテ二種アリ、一ハ精米所專屬ノモノト、他ハ仲買自身ノ計畫ニテ營業スルモノナリ。專屬仲買ニモ二種アリ、一ハ所屬精米所ヨリ買入代金ヲ預リテ買付ヲ爲シ、他ハ自己ノ計算ニテ買付ケ、其粗米ハ一切所屬精米所へ賣込ミ他へ賣ラサルモノナリ。其買付方法ハ、精米所カ直接買付ヲ爲ス場合ニハ工場内ニテ買付ヲ爲スアリ、又ハ米ノ出廻リ季節ニ仲買ヲ派シテ農家ヨリ買付ヲ爲シ或ハ仲買カ農家へ前貸金ヲ爲シ青田買ノ方法ニヨルモノアリ。仲買ノ手ヲ經テ買付クル場合ニハ、精米所ハ自家所
有ノ舂舟ヲ産地へ派シ、蘭貢へ輸送セシメ貨物ノ到着ト共ニ精算シテ口錢ヲ支拂ヒ、青田買ノ方法ニヨルモノハ、自己ノ計算ニテ營業ヲ爲ス仲買カ粗米ヲ他へ販賣セシメサル方策トシテ行フモノニシテ、巨額ノ資本ヲ要スト云フ。現時蘭貢ノ精米所カ執レル方法ハ、主トシテ自己專屬ノ仲買ヲ用ヒ、仲買自己ノ計算ニテ買付ルヲ望ミ、餘分ノ口錢ヲ與ヘテ之ヲ獎勵シ

買付ヲ安全ニナスコトヲ計ルト云フ。然ルニ蘭貢港ノ精米所カ取扱フ粳米ハ其量莫大ニシテ、專屬仲買ノ買付米ハ僅ニ一部
分ニ過キサレハ、其需要ノ大部分ハ地方ノ廻米ヲ仰カサルヲ得ス、此ノ場合ニ、精米所ハ「チエツチー」ノ術策ニ乗セサル
方策ヲ講究ス。「チエツチー」トハ所謂高利貸ニシテ、能ク緬甸内地ノ事情ニ通曉シ、新米ノ收穫ヲ抵當トシテ前貸金ヲ爲ス
ヲ業トシ、緬甸農民ノ金融機關也。「チエツチー」ハ相互氣脈ヲ通シ、米ノ市況ニ注目シテ精米所ノ繁閑ヲ探知シ、蘭貢ニ於
ケル米ノ供給夥多ノ爲メ、相場ノ下落セサルコトヲ努ム。然ルニ精米所ハ、買手ヘ對シ前約定ヲ爲セルモノナレハ、供給不
十分ナルカ又ハ價格ノ昇騰スルコトハ多大ノ損害ヲ蒙ルヲ以テ、相互聯合シテ「チエツチー」ニ對抗シ價格ヲ下落セシムル
策ヲ講スト云フ。

西貢 此地ハ「チエツチー」ノ如キモノナク、精米所又ハ清商問屋ハ、粳米商又ハ安南土人ノ農家ヨリ直接買付ヲナス。其
取引方法ハ、精米所ノ派遣員ハ未タ米ノ收穫セラレサル前ニ農家ヨリ粳ノ買付ヲ爲スモノニシテ一ノ定期賣買ナリ。即チ二
ケ月、四ケ月、六ケ月ノ後ニ受渡ヲ爲ス約定ニテ賣買ス。

第七章 建直斤量ト荷造包裝

甲 蘭 貢

土地 賣買ニハ百籠(Basket)ヲ以テ相場ヲ建テ、一籠ノ重量ヲ規定シ、粳米、白米、玄米、碎米及ヒ糠等、各商品ノ異ナル
ニ從ヒ區別ヲナス、故ニ籠ト稱スルモ其實ハ重量ヲ意味スルモノトス。

粳米

百籠ノ建直ニシテ一籠ハ英國ノ「ブツセル」ニ等シク重量四十六英斤トス。

玄米及玄米碎

二割粳入り玄米、「ルーピン」及玄米碎ハ百籠ノ建直ニシテ一籠ハ六十八英斤、六分粳入り玄米ハ七十二英斤トス。

白米

百籠ノ建直ニシテ一籠ハ七十五英斤トス。

白米碎

百籠ノ建直ニシテ一籠ハ七十二英斤トス。

糠

百籠ノ建直ニシテ一籠ハ四十五英斤トス。

土地ノ賣買ニハ右ノ如ク百籠ニ付何留比ト相場ヲ建ツ、蘭貢ノ相場表ニ (315- for special quality) ナト記スルハ、「スベシア
ル、クオリチー」百籠ニ付三百四十五留比替ヲ意味スルモノトス。然レトモ海外トノ取引ハ、擔又ハ「ハンドレット、ウエ
ート」何レニテモ相場ヲ取極メ得ル也。

荷造方法ハ玄、白及碎米ニヨリ一様ナラス、即チ左ノ如シ

白米

二様アリ、即チ一ハ麻袋(Gunny Bag)ノ上等品(Heavy Sheet)ヲ用キ、長サ四十二吋、巾二十八吋又ハ長サ四十吋、巾二十
八吋トシテ通常二百二十四英斤乃至二百二十五英斤ヲ入ル。歐洲及本邦ヘ輸出スルモノハ二百二十四英斤正味トス。他ハ
上等麻袋長サ三十六吋、巾二十六吋二分ノ一ノ小形袋ヲ用キ、總量目(風袋込ミ)百八十六英斤トシテ印度ヘ輸送ス。袋ノ
口ハ一重ト二重ト二様ニ縫ヒ、其針目ハ一重縫ニハ十八乃至二十トシ、二重縫ノ場合ニハ八ヨリ十トス。袋ハ總テ新袋ヲ
用ユルモ、時トシテ内部ニ古袋ヲ入レ二重包裝トスルコトアリトス。

玄米

白米ノ如ク上等麻袋長サ四十二吋、巾二十八吋ヲ用キ、二百廿英斤入正味トス、縫目其他白米ト異ナラス。

碎米

一重包装及二重包装ノ二種アリ、白米ト同シク上等麻袋ノ長サ四十二吋、巾二十八吋又ハ長サ四十吋巾二十八吋ノモノヲ用ヒ、二重包装ノ場合ニハ、内部ハ古袋ニシテ量目ハ正味二百二十英斤トス。

乙 暹 羅

此粳米ノ賣買ハ「コーヤン」(Coyan)「コーヤン」ニ種々アリ此場合ノ容積ハ約二十七担トス(ニテ相場ヲ建テ、玄、白米ハ担建ニシテ、歐洲輸出ハ「ハンドレッド、ウエート」(Cwt)建トス。包装ハ玄、白米共ニ上等麻袋長サ四十三吋、巾二十九吋ノ青線入ヲ用ヒ、一袋ノ重量ハ玄米一担六〇、白米一担七五、碎米ハ二百英斤入トス。袋ノ口ハ玄、白米ハ二重縫ニシテ、碎米ハ一重縫トシ、縫目ノ數ハ通常十二トス。

丙 西 貢

輸出米ノ賣買ハ担(西貢ニテハ一担ヲ百三十四英斤トス)ノ建直トス。包装ハ歐米及本邦へ輸出スルモノハ上等麻袋長サ四十吋、巾二十八吋、瓜哇へ輸出スルモノハK印ノ麻袋ニテ、長サ四十吋巾二十吋ノモノヲ用キ、何レモ百基入トス。支那及香港へ輸出スルモノハ百一基乃至百二基入トスルコトアリト云フ。

第八章 取引方法ト諸費用

甲 蘭 貢

蘭貢米ノ相場ハ受渡場所ノ異ナルニ從ヒ左記ノ種類アリ。

一 現品即チ倉庫渡シ (Ready)

二 樋口渡し

(Ex. Hopper or Ex Shoot)

三 船積渡シ又ハ仕向地冲着 (F. O. B. or C. I. F.)

一、二、ハ蘭貢市場ニ於ケル相場ノ受渡場所ニシテ、前述ノ斤量ニ對シ、現品又ハ樋口渡し何程ト稱ス、三、ハ英京倫敦ニテ相場ヲ建ツル方法トス。今順次ニ是等ノ取引方法ヲ説明スヘシ。

一 ハ倉庫内在荷ヲ賣買スルモノナリ。然レトモ蘭貢ニテハ在荷ヲ賣買スルコト極メテ稀ナリ。蓋シ現品ノ價格ハ、概シテ先約定品ヨリ高位ニアルヲ以テ、急速ヲ要スル場合ノ外買手無キニ由ルモノトス。

二 ハ蘭貢市場ニテ普通ニ行ハル、方法ニシテ、其意ハ精米工程終了シテ白米トナリ、最後ノ器械ヨリ樋口ヲ經テ出ツルト同時ニ受渡ヲ爲シ、賣買者相互ノ責任ヲ分ツヲ云フモノニシテ。故ニ此ノ方法ニテ買付ケヲナストキハ、買手ハ荷造、解舟及積込費、輸出税其他積込ニ至ルマテ一切ノ費用ヲ負擔スルモノトス。今一例ヲ舉クレハ、先約定ニテ何月積何噸ノ買付ヲ爲シタル場合ニ、約定則來レハ積米所ハ精米通知書(Milling Notice)ヲ買手へ送付ス、買手ハ此通知ヲ受クレハ二十四時間内ニ立會人ヲ精米所へ派シ、麻袋口縫其他一切ノ費用ハ買手持ニテ船積ス。即チ樋口ヨリ出ツル米ヲ第一ノ天秤ニテ規定ノ重量ニ増減シ、第二ノ天秤ニテ改看買ヲ爲シテ工場内ニ併置シ、熱ノ冷却スルヲ待チテ袋ノ口ヲ縫ヒ倉庫ニ運搬ス、而シテ積取船入港シテ積込準備ヲナセハ、庫出ヲナシ解舟ニ積込ミ小蒸汽船ニヨリテ本船ノ積込ヲ了ス。精米所ノ保管期限ハ十五日間ニシテ、買手カ右精米ヲ袋ニ入レルタヨリ十五日以内ニ引取ヲナサ、ルトキハ倉敷料ヲ徴收ス。

三 ハ普通外國貿易ニ行ハル、方法ニシテ、船積渡ハ荷造、解舟、輸出税其他本船積込ニ至ルマテ一切ノ費用ト危險ヲ精米所カ負擔シ、買手ハ運賃、海上保險料等海運ニ伴フ費用ヲ加算スルモノニシテ需要地着ノ價格ヲ計算スルヲ得ヘク。

三 ノ相場ハ前述ノ如ク倫敦ニテ建ツルモノナルヲ以テ、蘭貢ニ於ケル歐洲人ノ大精米所ハ倫敦ノ本社又ハ代理店へ打電シ、倫敦ノ相場ヲ得ルニアラスンハ賣買契約ヲ結ブコトナシトイフ。

蓋シ倫敦ハ世界米穀貿易市場ノ中心ニシテ各國米產地ト需要地トノ市況報告ハ悉ク倫敦ニ集中シ、倫敦米穀取引所ノ相場ハ蘭貢市場ヲ左右スルニ由ルモノトス。蘭貢ニハ取引所ト稱スヘキモノ無ク、只僅ニ米穀仲買人協會ナルモノアリテ、仲買ハ毎日同協會ニ集マリ、精米所ト買手トノ間ニ立テ相互賣買ヲ爲ス。(此ノ仲買ハ粗米ノ取扱ヲ爲サス)斯ノ米穀仲買人協會ノ入會者ハ入會金トシテ五十留比ヲ納メ、毎月五留比宛ノ會費ヲ前納シ、紛議ノ生スル場合ニハ委員ニテ裁定シ、仲買口錢ハ白米及碎米ハ33%、玄米、玄米碎及糠ハ12%ト規定ス。此外ニ一種ノ投機的米商人アリテ仲買人協會ニ來リ空相場ヲ爲ルモノアリ是等ハ蘭貢米ノ相場ヲ建ツル機關ナレトモ大勢ハ倫敦市場ノ影響ヲ受クト云フ。

現時本邦輸入米ヲ取扱ヘル大商店ノ買付方法ハ主トシテ、三ノ船積渡シノ方法ニヨルモノ多シトス近年樋口渡シノ買付ヲ試ミ好結果ヲ奏シタルコトアリト雖手數煩雜ノミナラス店員ノ派遣ヲ要シ不便尠カラスト云フ歐洲人ノ經營ニ係カル大精米所ハ荷爲替ノ取組ヲ許サス少量ノ買付ニ對シテハ現金ノ支拂ヲ請求シ多量ノ場合ニハ信用狀ノ支拂確定ナルモノ(Confirmed Letter of Credit)ヲ納メシメテ始メテ精米ニ着手ス故ニ本邦着位段ヲ計算スルニ當リテハ銀行手數料(Banks' Acceptance Commission)ヲ加算スルヲ要ス 三ノ賣買ハ倫敦ニ於テ行ハル、多キヲ以テ本邦へ輸入スル場合ニハ蘭貢ハ單ニ貨物ヲ輸送スルニ止マリ恰モ倉庫ノ如キ奇觀ヲ呈ス倫敦ニテ買付ル場合ノ爲替期日ハ九十日目拂ナリ若シ 二ノ方法ニ依リ蘭貢ニテ買付クルトキハ爲替期日ハ六十日目拂トス。

今參考ノ爲蘭貢產地買付即チ樋口渡シニテ賣買契約ヲ爲ス場合ニ用キラル、證書様式ノ要點ヲ摘譯スレハ左ノ如シ。

賣 買 契 約 書

蘭 貢 年 月 日

一、本日ヲ以テ吾人、.....社ヨリ左記品位ノ米ヲ左記條件ニテ買約ス

(但シ精米所ヨリ買手へ渡ス證書ハ賣約ノ意ヲ記述ス)

- 一、.....袋、每袋正味量目.....英斤、每袋.....英斤入百袋ニ付.....留比替、
- 二、米ノ品位、「ナセイン」及(ナキオク)兩者又ハ孰レカ一種ノ粉タルモ賣手ノ撰擇ニ任セ通常ノ「ストレート」品位ニシテ精米當時ニ於テ得ラルヘキ能ク平均シタル品位タルヘシ。
- 三、麻袋及縫糸ハ買手ヨリ持參スヘシ若シ遲滞シタルトキハ百袋ニ付.....留比若シ又賣手ノ縫糸ヲ用ユルトキハ百袋ニ付一留比ヲ買手ヨリ徴收スヘシ。
- 四、荷送費、縫取り費及積込費ハ百袋ニ付六留比八安トス、但シ糸代ヲ除ク
- 五、船費ニ雇賃百袋ニ付.....留比トス
- 六、精米所ニ於ケル麻袋ノ陸揚費及傾收費ハ千袋ニ付一留比トス
- 七、夜間精米タルト晝間精米タルトハ賣手ノ勝手タルヘシ
- 八、受渡ハ賣手撰擇ニ依リ.....日、樋口渡シタルコト及セ代金支拂ハ受渡ノ前ニシテ精米終了後遲滞セサルコト若シ必要ナルトキハ毎日精米終了ト共ニ支拂フヘシ
- 九、前記ノ市場價格カ精米前ニ下落シタル場合ニハ賣手ハ買手ニ向テ四十八時間内ニ約定價格ト其日ノ市場價格トノ差額ヲ供托ラセシムルコトヲ待ヘシ
- 十、ケル市場價格トノ差額支拂ヲ請求スヘシ
- 十一、若シ買手カ前記差額ヲ供托セス又ハ請求書ノ呈示ヨリ二日間ニ其差額ヲ支拂ハサルトキハ賣手ハ買手ノ計算ニテ私賣又ハ公賣ニ付スルヲ得ヘシ
- 十二、精米以後ニ生シタル水災、鼠害又ハ他ノ偶然起リタル損害ハ買手ノ負担タルヘシ

- 十四、賣手ハ通知書ヲ發送シタル後二十四時間經過スレハ買手ノ責任ニテ約定米ヲ精米所ノ倉庫ヨリ他へ運搬スル權利ヲ有ス
- 十五、買手カ精米後十五日以内ニ約定米ヲ引取ラサルトキハ賣手ハ倉敷料トシテ毎週間百袋ニ付五留比宛徴收スヘシ
- 十六、賣手ハ米ノ代金並ニ倉敷料其他一切ノ費用カ支拂ハル、マテ約定米ニ對シ留置權ヲ有ス
- 十七、買手ハ引取り猶豫期間タル十五日以後賣手ノ倉庫内ニ米ヲ置ク權利ヲ要求スル能ハサルモノトス
- 十八、器械ノ故障、同盟罷工及職工労働者ノ疾病ヨリ生シタル災厄ハ除外タルヘシ
- 十八、樋口渡シニテ米ノ受渡終了後ハ買手ハ如何ナル要求モ爲ヌヲ得ス
- 二十、賣手ハ本約定品ニ對シ「ムーア」社「スチール」社「アラカン」社「ジランダー」社「ジレツキー、ロック」社「クルゲル」社「モロー」社「デクマン」社之レニ「ブロック」社ヲ加フ(中何レノ精米ヲ渡スモ勝手タルヘシ
- 右原文左ノ如シ

RICE SALE NOTE.

No.

Rangoon, 190 .

1. We have this day sold to.....the undernoted rice of the description and on terms and conditions as follows;-
2.Bags each weighing net.....lbs. @ Rs.....per 100 Baskets of.....lbs. each.
3. Description and : Ngutsan and Ngakyouk's sellers option, usual straits quality cleaned Rice. The grain to quality of Rice : be fair average of the quality procurable at time of milling.
4. Gunnies and Twine to be supplied by buyer or if sellers' Gunnies are used owing to late arrival at mill of buyer Gun-

nies or other causes. Rs..... per 100 Gunnies and if sellers twine is used Re. 1/-per 100 Bags for the same will be charged.

5. Bagging, sewing and shipping @ Rs. 6/8 per 100 Bags, excluding Twine.
6. Boat hire @ Rs.....per 100 Bags.
7. Landing and receiving Gunnies at Mill @ Rs. 1/- per 100 Bags.
8. The Rice to be milled by day or night at sellers' option.
9. Delivery to be taken ex-Hopper.....date at sellers' option and payment to be made in cash before any Rice is removed, but not in any case later than immediately after milling payment on completion of each days' milling if required.
10. If market price of above mentioned rice decline prior to milling, sellers have the option of requiring buyer to deposit margin between contract price and market price of the day within 48 hours.
11. Should buyer fail to appear to take deliverye ex-hopper above, sellers to have the right of cancelling this contract and buyers for any difference between sale and market price of the day on which the rice was to have been milled.
12. Sellers have the option of disposing to the rice by private or public sale for buyer account should they fail either to deposit margin as above, or to pay for it as above within two days of presentation of the bill.
13. All risk of fire, damage by rats, and other contingencies to be born so by buyers from the time the rice is milled.
14. Sellers have the right of removing the rice to other than mill godowns at risk of buyers after 24 hours' notice has

- been given.
15. Godown rent at the rate of Rs. 5/- per 100 bags per week will be charged to buyers should they fail to remove the Rice on or before 15 days after milling.
- c. Sellers to have a lien on the Rice until the same has been paid for as above and until all godown rent and other charges are paid.
17. buyer cannot claim the right of leaving the Rice in sellers' godowns after the 15 days allowed for removal have elapsed.
18. Accidents to machinery, strikes or sickness of mill hands or coolies, always excepted.
19. No claim whatever to be made by buyers after delivery of the Rice has been taken ex-hopper.
20. Sellers have the option of delivering under the contract Rice of the milling of Messrs. Mohr Bros. & Co., Ltd. or and Steel Brothers & Co., Ltd., and The Aernan Co., Ltd., or Gillanders Arbuthnot & Co., or Zaretsky Bock & Co. and Kruiger & Co., or Mover & Co., and Dickmann Burekhausen & Co., or J. Heup & Co., and Walker and Whyte.

乙 西 貢 港

西貢ニ於ケル相場ハ、受渡場所ノ異ナルニ從ヒ左ノ三種アリトス。

- 一 船傍渡シ(俗ニ「ファースト、コスト」)(First Cost)ト云フ)
 - 二 船積渡シ(但シ船積保險ハ買手ノ負担トス)
- 一 ハ支那商人(主トトテ精米業者ナレトモ精米所ヲ有セサルモノニ、三アリトス)ト歐人仲買トノ間ニ行ハレ、支那商店ノ支配人毎朝西貢ニ於ケル集會所ニ集マリテ定ムル相場ニシテ、包装ハ固ヨリ船積賃ヲモ含ミ輸出税其他ノ小經費ヲ含マス。

其取引方法ハ口頭約定ヨリ四十八時間乃至七十二時間内ニ、精米所ヨリ歐人仲買へ賣買契約書ヲ交附シ、同時ニ代金ノ支拂ヲ爲ス。其方法ニ二アリ、即チ相互契約書署名ト共ニ賣買金高ノ半額ヲ支拂ヒ、残り半額ハ現品受渡ト同時ニ支拂フモノ、及契約書署名ト同時ニ半額支拂ヒ、精米作業ヲ始ムルニ當リテ四分ノ一ヲ支拂ヒ、現品受渡ト共ニ残り四分ノ一ヲ支拂フモノ是レ也。受渡ハ工場ヨリ積出ストキニ爲スモ、工場ヨリ本船積込マテノ運送賃ハ賣手ノ負担トス。

二 ハ歐人仲買ノ定ムルモノニシテ、支那商人ヨリ船傍渡シ相場ニ對シ賣約(Firm Offer)ヲ取り輸出税口錢其他ノ費用ヲ加ヘ船積直段(F.o.b.)トシテ買手へ通知シ賣約ヲ爲ス。一 ノ場合ハ實際ノ受渡ハ工場ヨリ積出ストキヲ以テ終了スルモノレハ工場以外ノ危険ハ買手ノ負担ナリ。歐人仲買ハ船積渡シノ外ニ顧客ノ注文ニ應ジテ需要地着(C.i.f.)ニテモ販賣ス。

一 ノ場合石相場「ビヤストル」ニテ建チ、二 ノ場合ハ仕向地着ニテ建ツルカ故ニ、後者ニヨルトキハ爲替ノ危険ハ賣手ノ負担トス。

賣買シタル商品ニ對シテハ、歐人仲買ニ名カ、其輸出米ハ其年ノ産出米ノ能ク平均シタル良質ナルコトヲ保證シタル證明書ヲ付スルヲ例トス。此點ハ蘭貢、西蘭共ニ同様也。(暹羅米ノ東洋へ輸出セラル、モノハ、精米所ニテ精米作業終了ト共ニ新嘉坡又ハ香港ノ支那商人へ委託販賣ヲ爲シ、是等兩地ヨリ需要地へ轉送セラル、其取引方法ハ複雑ナルヲ以テ之レヲ略ス)今印度、暹羅及佛領印度支那ニ於ケル米ノ輸出税ヲ舉クレハ左ノ如シ。

- 英領印度ハ粃、玄、白、碎米共ニ同一税ニシテ左ノ如シ。
- 每「マウンド」(即チ八十二英斤七分ノ二)ニ付 三「アンチ」
- 暹羅ハ左ノ區別アリ。
- 一「チカル」
- 二「チカル」
- 三「アンチ」
- 四「チカル」

粃米毎「コーヤン」ニ付

玄、白及白米碎毎「コーヤン」ニ付

英領印度暹羅及佛領印度産米調査

玄米碎每「コーヤン」ニ付

「チカル」

但シ粳米ノ「コーヤン」ハ十六担(前述ノ「コーヤン」ト異ナルト知ルヘシ)玄米ハ二十二担、白米ハ二十三担トス。

佛領印度支那ニ於ケル米ノ輸出税ハ左ノ三種トス。

- 一 産出航(Droits de Sortie)ハ仕向地ノ如何ニ拘ラス總テ粳及米ニ課スルモノニシテ地租ニ代ルモノ也
- 二 關稅(Droits de Donane)ハ佛國及其殖民地以外ニ輸出スル米ニ對シテノミ課スルモノ也
- 三 統計稅(Droits de Statistique)名ノ如ク統計ニ對スル税金也

三 産 出 税

粳及百分ノ三十三以上ノ粳ヲ含有スル玄米	百基ニ付	〇、一二
百分ノ三十三以下ノ粳ヲ含有スル玄米	同	〇、一五
白 米	同	〇、一九
粳 米	同	〇、〇九
糠	同	〇、〇五

二 關 稅

粳及百分ノ三十三以上ノ粳ヲ含有スル玄米	百基ニ付	〇、七六
百分ノ三十三以下ノ粳ヲ含有スル玄米	同	〇、四二
白 米	同	〇、三二
碎 米 及 糠	從價三分	

三 統 計 稅

統計稅ハ粳米、白、碎米及糠ニ對シ 一噸ニ付 十「サンチム」トス

上來記述シタル所ニ據リ、蘭貢米樋口渡シ價格ヨリ船積價格(一〇。〇)ニ至ルマテノ諸經費ヲ記スレハ左ノ如シ。

輸 出 稅	一「マウンド」 (八十二英斤七分ノ三)ニ付	三「アンナ」
河 川 稅	一噸ニ付	一「アンナ」 二「バイ」
麻 袋	百個ニ付	三「ルビー」
糸 代	百束ニ付 (二袋ニ束ヲ要ス)	一「ルビー」
荷造、縫取り及積込費	百袋ニ付	六「ルビー」 八「アンナ」
小蒸氣船雇費及諸掛	百袋ニ付	約六「ルビー」 八「アンナ」
仲 買 口 錢	玄米ハ 1:20% 白米ハ 3:8%	
印紙稅其他	百袋ニ付	約一「ルビー」 八「アンナ」

以上ノ費用ヲ所要ノ數量ニ從ヒ計算シテ、蘭貢樋口渡シ價格ニ加算スレバ船積價格ヲ得ヘシ、此ノ價格ヲ時ノ爲替相場ニテ換算シ、運賃、海上保險料、金利等ヲ加フレバ本邦着價格ヲ知ルヲ得ヘキ也。
西貢ニ於ケル諸費用ハ頗ル簡單也。即チ船務渡シ「フアースト」
「コスト」ニ對シ、輸出稅ト積出費用百斤ニ付五錢、仲買口錢百斤ニ付六錢ヲ加フレバ、船積價格ヲ知ルヲ得ヘキ也。

第 九 章 産地ニ於ケル米價ノ趨勢ト玄、白及碎米ノ價格

米價ノ趨勢—蘭貢ニ於ケル近年ノ米價ハ十年前ニ比スレハ著シキ騰貴ヲ呈シタリ。本邦ニテ特等米ト稱スル「ストレート」
クオリチー」ノ如キハ、十年前ニハ百籠ニ付二百五十留比乃至三百留比ナリシカ、一九〇五年以來ハ、世界ノ需要増進シタル

英領印度暹羅及佛領印度産米調査